

## 平成19年度 県内小・中・高・特支諸学校 校内研究主題

教育委員会	校種	学校名	主題	副主題	内容	公開
甲府市教育委員会	小学校	富士川小学校	豊かな心を育む 道徳教育の研究	地域との連携 を通して	(1)道徳性診断テストを実施し、児童の実態を把握することで、道徳教育における課題を洗い出す。 (2)地域と連携した道徳授業の研究を行う。 (3)地域と連携した道徳実践活動の推進を行う。	ふるさと山梨道徳教育推進事業
甲府市教育委員会	小学校	琢美小学校	豊かな心と体を 育み、自ら実践 できる子どもの 育成	栄養教諭を中 核として、学 校・家庭・地域 が連携して行う 食に関する指 導を通して	文部科学省より「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」の委嘱を受け、また甲府市の「学校保健指定校」として上記の研究主題及び副主題について研究していく。具体的には①栄養教諭と連携した食に関する指導の方法について研究し、推進していく。また、そのための食に関する年間指導計画を作成する。②アンケート調査を通して児童の食習慣や食生活を把握すると共に、学校から家庭・地域に対してどのような情報発信をしていくことによって正しい食習慣や食生活の形成について啓発していくことができるか研究し活動していく。	(国)栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業 (市)学校保健指定校
甲府市教育委員会	小学校	新紺屋小学校	たくましく創造性 豊かな子どもの 育成	～いろいろな場 での「伝え合う 力」の育成～	・いろいろな場での「伝え合う力」の育成と学び合いをめざした研究 ・可能な限り「特別支援教育」を意識した実践を試みる ・特別支援教育学習会とおとの共通理解 ・学級児童の実態把握のための調査(Q-Uテスト、カルテなど)	
甲府市教育委員会	小学校	湯田小学校	自ら学ぶ児童の 育成	学び合う学級づ くりを通して	自ら学ぶ児童は、友だちと考えを交流する中で、学び合い、自らの考えを構築する。子どもたちが学び合うためには学級づくりが大切である。また、児童が自らの学習状況を把握しながら、資質能力を高めていく必要がある。学び合う学級をつくるために、QUを実施し、授業スキルや学級経営を改善する。また、資質能力を高めるために一枚ポートフォリオを活用した授業のグランドデザインを行う。さらに教師が自ら力量を高めるために、開かれた授業、開かれた授業研究会を工夫していく。	学力向上拠点形成事業 拠点校 11月16日(金)
甲府市教育委員会	小学校	伊勢小学校	感性豊かな心と 学びの意欲をも つ子どもの育成	子どもたちのよ り豊かな言語 環境をつくる実 践を通して	昨今、コミュニケーションがうまく図れない(人間関係がうまくつけれない)児童が増えていると言われている。学習内容の基礎・基本の定着を図り、確かな学力を身につけさせ、さらに自己実現を達成させるためには言葉や媒介とした国語力の向上が肝要となる。そこで今年度は学校の教育活動全体を通して、また家庭教育の面からも身近な存在である言葉(言語環境)に視点をあて、より豊かな言語環境作りを模索し、実践していくことを柱に据えた。より豊かな言語環境作りを取り組むことで子どもたちの学びの土台固めをし、わかりやすく伝え合う力を育てる。	
甲府市教育委員会	小学校	朝日小学校	かかわり合いと もに伸びる 学び の創造	～教室を開いて ～	○児童の実態把握 ○各自のテーマ(課題)設定とそれに向けての研究、実践 ○実践後の成果・改善点を探り、更にその後に生かす研究 ○特別支援教育にかかわる研究 ○「甲府の子ども教育総合推進校」として北中と連携した教育実践	
甲府市教育委員会	小学校	里垣小学校	確かな学力を身 につける子ども の育成	丁寧な見取りか ら、きめ細かな指 導へ	子どもたちに「わかる授業」を提供し、子どもたちの学ぶ意欲やできる喜びを引き出すために、一人一人の見取りを長期的かつ継続的に作り、個人変容学習記録を作成し、個に応じた課題や支援重点を設定し、指導法を工夫して指導・支援を継続していく。このサイクルによって、授業の中に評価の場を設定し、その結果を受けて、その後の指導を、個に応じた形に移行していく。評価と指導の連携によって、課題の設定や修正、指導法の改善を図りながら、個に応じた学習を進めていくものである。このような手だてを講じて一人一人の基礎・基本的な学力が身につけられると考える。本年度の校内研の研究内容とした。そこで、本年度は、長期的かつ継続的な児童一人一人の見取りを行う中で、個に応じた方法による支援を手厚くし、一人一人の児童が確かな学力(非認知的学力)を獲得することへの喜びを味わい、より一層の学習意欲を伸ばしていけることを目指して研究を進めていきたい。	
甲府市教育委員会	小学校	相川小学校	思いやりのある 豊かな心を育て る道徳教育の推 進	地域と連携した 実践活動を通 して	○学校における道徳教育の充実 ・ふるさと山梨を担う子どもの育成を目指した道徳教育の充実を図り、保護者や地域住民が参加し、共に考え実践する道徳教育の推進。 ・小・中学校が連携し、義務教育9年間を見通した道徳の指導計画の作成。 ・「心のノート」や山梨県教育委員会作成の資料の効果的活用。 ・小中学校教職員間相互での授業の参観。 ・実態把握のための調査の実施と成果の検証。 ○家庭、地域と連携した道徳実践活動の推進 ・小・中学校が連携し、地域に根ざした地域ぐるみの道徳実践活動の実践。 ・実態把握のための調査の実施と成果の検証。 ○家庭、地域と連携した道徳実践活動の推進 ・小・中学校が連携し、地域に根ざした地域ぐるみの道徳実践活動の実践。	(県)ふるさとやまなし道徳教育推進事業
甲府市教育委員会	小学校	国母小学校	「広い視野を 持つて、自ら学 びをひらく子ども の育成」	～コミュニケー ションを生かし た授業の工夫 ～	(1)コミュニケーションの学習過程への効果的な位置づけ 児童の実態と学習内容を考え、学習過程のどの段階にコミュニケーションを取り入れることが効果的か考える。 (2)学習形態の工夫 児童の実態に合わせた、効果的な学習形態を工夫する。 (3)内容と活動の工夫 児童が意欲的に学習に取り組む内容や基礎・基本の定着を促す活動を工夫する。 (4)評価の工夫 主体的な学習を促すために、コミュニケーションへのかかわり方について振り返る方法をさぐり、指導にいかす。	
甲府市教育委員会	小学校	貫川小学校	共創の学び	“授業力”を鍛 える算数授業 の創造	教師も学びの専門家として互いに学び合う関係をつくるために、授業の観察に基づく事例研究の積み上げを校内研究の中心に据える。また、授業実践力と同時に授業観察力を鍛えるための授業研究及び研究協議会の在り方についても再考し、日々の授業改善に資するための研究を推進していく。	
甲府市教育委員会	小学校	千塚小学校	学ぶ楽しさを 実感し、自ら進 んで学ぶ子ども の育成	学び合うた めの指導と評 価の工夫を通 して	昨年度、県の指定で学びの意欲向上推進事業として、理科と音楽科の2教科で公開研究会を行った。内容は、今年度と同じ「学ぶ楽しさを実感し、自ら進んで学ぶ子どもの育成」という主題であった。子どもが学びの意欲を持つためには、子ども自身が自らの学びの成果を肯定的に実感し、達成感や満足感を感じることが必要と考えた。そのために、一人一人が学びの成果を実感できる評価方法を開発し、子どもの実態に応じた、ねらいが明確な授業を創っていくことを実践してきた。今年度は、昨年度の成果に「学び合い」という指導の工夫を取り入れ、学級で学び合うことの大切さを学びの意欲と結びつけていこうという考えで研究が始まった。研究教科は国語科と算数科とする。	
甲府市教育委員会	小学校	池田小学校	自ら学びをひろ げる子どもの育 成をめざして	0	今年度は、研究主題「自ら学びをひろげる子どもの育成をめざして」のもと、「主体的に学習する姿」「自分の考えを進んで表現する姿」の実現をめざした授業実践に取り組む。研究を進めるにあたっては、めざす子ども像や基本的な研究の流れを共通理解を図り、その上で、一人一人の教員が目の前の子どもたちの実態にあわせた効果的な授業展開を追究していく。そのために、今年度は教科や領域を1つにしほらず複数のグループを編成し、理論研究や授業研究、そして授業研究会などの機動性を高めることにしている。	

甲府市教育委員会	小学校	北新小学校	生きる力を育てる教育活動の創造	算数科における学び合いの場の工夫を通して	研究主題にある「生きる力」を知の面からとらえた『確かな学力』の育成について、算数科を中心に研究を深めていく。研究内容としては、～学び合いの場を工夫した算数科の授業づくり～で、①課題の与え方の工夫②個に応じた指導の充実③子どもたちが自分の意見を持てるようにする指導の工夫④子ども達同士が、お互いに自分の考えを交流し合う学び合いの場の工夫について、の4点を中心に研究を深めていく。 また、今年は1年次ということで、子ども達の実態調査(アンケートも含めて)、学習会を実施した。	
甲府市教育委員会	小学校	千代田小学校	たくましく生きる千代田の子の育成	伝え合う力を深める国語科指導の工夫	①児童の自発的読書を促し、児童が興味を持った本を紹介し合う活動から伝え合う力を育てる。 ②『豊かな言語環境プログラム』を活用しながら「読む力」を中心とした授業の工夫を図り、児童の語彙を豊かに育てる。	
甲府市教育委員会	小学校	甲運小学校	かかわる、みがく、未来を拓く	楽しく学ぶ英語活動の研究	(1)教育課程全般における国際理解学習の充実 ① 国際理解学習関連の単元の洗い出しと学習内容の検討 ② 国際交流活動の組み込み(国際交流集会)の検討  (2)総合的な学習の時間における国際理解学習の充実 ① 年間学習計画の見直し…国際理解学習関連の単元・小単元の増設・変更 ② 国際交流活動の組み込み(国際交流集会)の検討  (3)英語活動の研究実践 ① 英語活動の目的・意義の理解 ② 年間指導計画の作成(各学年の目標、月及び週ごとの学習内容) ③ 学習指導過程の研究 ④ ALT等との効果的なチーム・ティーチングの研究 ⑤ ICTや教材教具の開発と活用 ⑥ 授業研究を通して指導法の工夫改善 ⑦ 児童の興味関心の変容の把握と学習活動への反映 ⑧ 教師の指導力向上の取組(先進校の実践の研究や講師による指導)	(県)わくわくイングリッシュ小学校サポート事業
甲府市教育委員会	小学校	玉諸小学校	豊かな心をもち、いきいきと表現できる子どもの育成	国語力の向上を目指して	1. 国語力の内容や他教科との関連、また言語活動についての基本的理論の研究を通して、国語力についての共通理解を図る。 2. 本校における言語環境の実態調査を行い、課題を焦点化し共有する。 3. 焦点化された課題を基に、ブロックごとテーマを設定し、具体的な授業実践を行う。 4. 3年次計画の初年度として、次年度以降の内容をふまえて研究を進める。	
甲府市教育委員会	小学校	山城小学校	生きてはたらく伝え合う力の育成	多様な伝え合う活動を通して	「生きてはたらく 伝え合う力の育成」を研究主題として、教科・学活・道徳において言葉で自分の思いや考えを伝えることによって、他者と関わり合う力を高め、望ましい人間関係の育成していきたい。特に、教科については、教育の情報化への対応を視野に入れ、ICT(各種情報機器)を活用することにより、伝え合う活動を豊かにすると共に、学習意欲を高め学力の向上につながる実践を行ってきたい。	
甲府市教育委員会	小学校	大里小学校	「共に学び、共に育つ、豊かな心を持った大里の子」の育成	一自己肯定感を育む道徳教育を通して	(1)児童の実態や道徳性の評価とその生かし方 ○アンケートから、児童の自尊感情の状態を見る。○道徳の時間の中で見取る (2)ねらいを達成するための指導法の工夫 ①資料の工夫 ②指導方法の工夫 (3)ねらいの達成や指導の適時性を踏まえての内容項目の重点化及び重点的な指導の工夫 ○重点的な指導(同じ価値項目の授業を期間をおいて繰り返すなど) (4)道徳実践力と道徳実践との有機的な関連を図る指導 ○他領域との関連指導 ・特別活動などのねらいに道徳的なねらいや、それに関連する場し、指導す	(国)「平成18・19年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業 推進校」11月9日
甲府市教育委員会	小学校	東小中学校	自らの世界を広げ、未来を拓く子どもの育成	0	①英語活動を1年を通して計画していく。英語活動実施時数は、1～2年生 8時間、3～6年生12時間とする。業前学習では、月2回程度「えいごリアン」を中心に実施する。これまでの展開案をもとに、児童の反応や学習環境に留意しながら、活動計画を見直す。ICTを利用しながら、担任がする(担任だけでなく)英語活動の研究に取り組む。 ②本校の特色の1つであるプラネタリウムを使った授業に取り組む。4年生理科の活動計画を見直し、創造的な授業実践について研究する。	
甲府市教育委員会	小学校	羽黒小学校	国語力の向上を目指した授業の創造	0	・羽黒小学校として目指す国語力の確認 ・国語力における実態調査 ・豊かな言語活動の工夫	
甲府市教育委員会	小学校	石田小学校	確かな学力を育てる学習活動の研究	国語力を向上させ、伝え合う力を身につけさせることを通じて	研究内容と方法 1 子どもたちの実態や学級集団の状況を把握し、子どもたちの社会性や、学習に取り組む構えと習慣などを高める指導と技術を向上させる。 ①Q-Uのデータ活用②生活のリズムづくりのための「朝読書」「朝学習」の実施③生活習慣や学ぶ態度に目を向け、個々の認知スタイルを知り保護者とも連携を図る(AAIのデータ活用・学習の約束を定める)。 2 学校教育全体を通して、読む・書く・聞く・話すなどの国語力の向上を図る指導を行い、伝え合う力を高めることを通じて確かな学力を育てる。特に国語科・算数科に焦点を当てて研究する。 ①指導方法や学習過程の改善(伝え合うことで新たな思いや考えを創出させる学習活動の研究)②児童の国語力を把握し日常の指導に生かすために、「O(〇名入)」「座席表併用型国語力カルテ」「学習感想」の活用③CRTのデータ分析に基づく授業重点項目の設定 国語科の授業づくりに取り組む。研究仮説を「話すこと、聞くことの基礎基本が身に付くような手だてや、話す喜び・聞く喜びが味わえるような場の設定を工夫していけば、豊かな心を持ち、生き生きと学び合う児童が育成できるであろう。」とし、「話すこと・聞くこと」の領域に限定した研究を推進する。 研究内容は、①国語科における各学年の話す力・聞く力の基礎基本的内容の確認②児童の実態把握③「話す力・聞く力」を高める指導と評価の研究・実践の3項目としている。	(国・県・市)学力向上拠点形成事業 11月7日
甲府市教育委員会	小学校	新田小学校	豊かな心を持ち生き生きと学び合う子どもの育成	国語力の向上を目指して	国語科の授業づくりに取り組む。研究仮説を「話すこと、聞くことの基礎基本が身に付くような手だてや、話す喜び・聞く喜びが味わえるような場の設定を工夫していけば、豊かな心を持ち、生き生きと学び合う児童が育成できるであろう。」とし、「話すこと・聞くこと」の領域に限定した研究を推進する。 研究内容は、①国語科における各学年の話す力・聞く力の基礎基本的内容の確認②児童の実態把握③「話す力・聞く力」を高める指導と評価の研究・実践の3項目としている。	
甲府市教育委員会	小学校	大岡小学校	「伝え合い、学び合う」児童の育成	教育メディアの活用を通して	各教科、領域の指導の中で、児童が交流する場面を計画的に仕組み、表現、受け止め、話し合いの中で教育メディアを効果的に利用することにより児童の伝え合い、学び合う意欲を高めていくように指導方法などを工夫していく。	
甲府市教育委員会	小学校	舞鶴小学校	自ら学び考える子どもの育成	コミュニケーション能力を育てる授業の創造	(1)コミュニケーション能力についての理論研究 (2)コミュニケーション能力向上に向けての実践的研究 ・国語科における、コミュニケーション活動を適切に取り入れた単元計画の設定と実践 (3)「全国学力・学習状況調査」「教育課程実施状況調査」の結果の総合的な分析、課題改善のための実践的研究	(県)「確かな学力」ステップアップ事業研究推進指定校
甲府市教育委員会	小学校	中道南小学校	これから生き抜く知恵を身につけていく子どもの育成	「人・もの・お金を大切に、勤労を尊ぶ」心育てる学習・実践を通して	1. 「人・もの・お金を大切に、勤労を尊ぶ」心育てる授業実践を行う。 2. 「人・もの・お金を大切に、勤労を尊ぶ」心育てるために、保護者への啓発活動をする。有識者による親子マネー学習会や授業参観での「人・もの・お金を大切に、勤労を尊ぶ」心育てる授業、懇談会を行う。 3. 児童会や学校行事等と連携を取り、「人・もの・お金を大切に、勤労を尊ぶ」心育てる取り組みに力を入れる。 4. 教職員としての資質向上のため、個人発表をする。	(県金融広報委員会)金銭教育指定校

甲府市教育委員会	小学校	中道北小学校	「豊かな心を持ち、自ら実践する子どもの育成」	～伝え合い、認め合いの活動を通して～	昨年度に引き続き「話すこと・聞くこと」を中心に継続して取り組んでいく。今年度は相手を意識しながら思いや考えを伝えたり、相手の気持ちや思いを受けとめながらよりよく伝えたりする活動を「伝え合う活動」「認め合う活動」ととらえ、教科や表現の内容を広げながら取り組んでいく。学習活動において、○自分の考えや思いを伝える大切さを知り、進んで表現する活動 ○友だちの考えを受けとめ、自分の考えを分かりやすく伝える活動 ○互いの良さを認め合う評価活動を取り入れた活動を 仕組み、場、学習方法・評価を工夫しながら全員が検証授業を行う。また、言語に関する学習環境の工夫も合わせて行いながら研究を進めていく。	
甲府市教育委員会	小学校	上九一色小学校	「自ら考え、学ぶ楽しさを実感できる児童の育成」	～算数科「数と計算」領域における数学的な考え方の指導を通して～	(1)算数科における「数学的な考え方」の指導についての理論研究 (2)「数と計算」領域における数学的な考え方の指導の研究 (3)研究授業・公開授業等による仮説の検証 (4)チャレンジタイムの有効活用(漢字・計算・文章題チャレンジの内容、方法の検討と実施) (5)コンピューターなど教育機器の活用を高める研修	
甲府市教育委員会	中学校	東中学校	「自ら考え、学び、行動する生徒の育成」	共に学び合い、高め合う授業づくりを通して	「共に学び合い、高め合う授業を行えば、自ら考え、学び、行動する生徒が育成できるであろう。」という研究仮説を立てて授業実践を進める。生徒相互のやりとりを重視した小集団学習を取り入れた授業や、自分の考えを持ち、それを発表したり交流したりする場面を取り入れた授業などの研究と実践を行う。指導案はA4用紙1枚程度の略案で作成し、教師一人ひとりが1実践以上を行う。また、A(国語・理科・音楽)B(社会・数学・美術)C(英語・保健・技家)の3グループで授業を行う。	
甲府市教育委員会	中学校	西中学校	「自ら学ぶ生徒の育成」	基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ力を育てる授業づくり	フロンティアタイム(本校独自、毎日の放課後の10分間)の充実、授業づくり、家庭学習の取り組みせ方の工夫の3点を、研究内容の柱とする。 フロンティアタイムは、今年で6年目に入り、曜日替わりで実施している語彙、算数、英語、漢字のそれぞれの内容の充実を図る。 授業づくりに関しては、学習効果の上がる小集団づくり、学びの記録やOPPの活用、学力調査結果を生かした授業改善を研究する。 家庭学習に関しては、意欲的に取り組める家庭学習の提示の方法やその評価方法も研究を進める。	学力向上ステップアップ事業研究指定校
甲府市教育委員会	中学校	南中学校	「学習や生活の課題に気づき、進んで解決しようとする生徒の育成」	～「生徒の思い」を高める授業実践～	「教科研究」の課題を細分化した上でさらに深く研究を進めるために「ワーキンググループ」を設定する。そのワーキンググループは教師個々の課題別に少人数でチームを構成する。各グループ7～8名の少人数の構成になるため研究会における話し合いが活発に行われ、実質的な研究が行われると思われる。 グループ会議ではより具体的な討議がされ、教師の資質向上面からしても大きな成果をもたらした。またそれぞれのグループで課題が浮き彫りにされている。その課題を追求すること(これまでの研究の成果を生かし、その場面、経験を振り返りさらに工夫を入れること)で本年度は「生徒の思い」を高めることを目指していきたいと考える。	
甲府市教育委員会	中学校	北中学校	「意欲的に自己表現できる生徒の育成」	民主的な集団を現できる生徒の育成	学級づくりについては、話し合い活動を軸に意見の言い合える民主的な集団づくりから自己表現のできる生徒の育成を目指す。また、授業づくりに関しては、学級づくりと同じ視点を持ちながら、意識的に意見、考えを言い合い、それを共有することでできる場を設けることで、学習の深まりを目指す。	0
甲府市教育委員会	中学校	南西中学校	「自ら学び、たくましく実践する心豊かな生徒の育成」	「学びの共同体」の創造を目指して	「学びの共同体」とは、生徒同士のかかわりやつながりを重視しながら、小グループでの活動を積極的に取り入れ、教師も生徒も共に学び合うような場である。この考えに基づき、学年研究を中心に、個々の生徒の学びを成立させるための授業の工夫や授業実践、授業研究を積み重ね、「学びの共同体」の創造を目指す。	
甲府市教育委員会	中学校	北東中学校	「心をつなぐ道徳教育の実践」	小学校との連携を生かした道徳の授業の研究	1. 学校における道徳教育の充実 (1)ふるさと山梨を担う生徒の育成を目指した道徳教育の充実を図り、保護者や地域住民が参加し共に考え実践する道徳教育の推進について (2)小・中学校が連携し、義務教育9年間を見通した道徳の指導計画について (3)「心のノート」や山梨県教育委員会作成の各種資料の効果的活用 (4)生徒の実態把握のための調査の実施及び研究成果の検証 2. 家庭・地域と連携した道徳実践教育の推進 (1)ふるさと山梨を担う生徒の育成のため、小・中学校が連携し、地域に根ざした地域ぐるみの道徳実践活動について	(県)小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
甲府市教育委員会	中学校	北西中学校	「自ら意欲的に学ぶ生徒の育成」	成果を実感できる授業づくりを目指して	(1)教科研究 ・教科ごとに研究主題を意識した研究テーマを設定する。 ・授業改善をねらいとする指導法の工夫を図り、具体的な成果を年間指導計画に明示する。 ・指導の内容と評価の内容に整合性があるかを検証し、修正していく。 ・授業記録(指導日誌)等を残し、反省・発展の材料を蓄積する。 ・授業研究は、11月までに各教科内で一度は行うようにする。 ・学習指導要領改訂の動向を眺みながら、本年度から3年ほどの計画で全単元を見直す。 ・1時間の授業が見える年間指導計画の作成を目指す。 (2)学級活動 ・諸活動全体に幅を広げると研究しづらいので、昨年度より実施している「合唱タイム」の効果的な運営を探ることを視点としていく。 ・合唱活動からの集団づくりを側面研究としていく。 ・合わせて生徒会の活動方針の1つである「縦割り活動」を組み込む。	
甲府市教育委員会	中学校	富竹中学校	「自立できる力を持った生徒の育成」	『かかわり』のある授業を通して、基礎的な知識・技能の定着をはかる	自立できる力を持った生徒を、①基礎的な知識・技能、②ルール感覚、③他者との関係能力、④自己決定力の4つを持つ生徒であると定義し、その中でも特に①に重点を置いて研究を進める。そのなかで、基礎的な知識・技能の獲得のため、他者との関係を持ちながら、学びをあきらめない生徒を育てていくこととし、『かかわり』を持った授業を意識して授業改善に取り組んでいくことを、研究の中心とする実践研究をしていく。	
甲府市教育委員会	中学校	城南中学校	「生き生きと活動する生徒の育成」	～考えさせる授業の創造～	①「考えること」「考えさせる授業」について職員相互に知見を深めて、共通意識を持つ。 文献研究、講演会など ②全教科における授業研究会 ・各教科で、授業研究会を行う。 ・3教科において、全職員で授業研究会を行い、議論する。 ③部会別研究会(道徳・学活・選択) 3部会で、各学期ごとの実践の情報交換を行い、資料の蓄積をする。	
甲府市教育委員会	中学校	上条中学校	「将来に夢を持ち生き生きと学び合う生徒」	0	昨年度から取り組んでいる「学びの共同体」づくりの2年目。1時間の授業の中に「活動」「協同」「表現」の3つの活動を取り入れ、基本的には全教師が1回は自分の授業を公開し、ビデオ研修という形で授業反省会を行い、教師の間の同僚性を高める。今年度は特に、授業の中の「青伸びとジャンプ」という視点を軸に置く。上記の3つの活動を充実させるために教材の発掘や教材研究にも力を入れていきたいと考えている。また、研究授業だけに終わらないように、日常の授業についても「一斉授業からの脱却」を目標に板書量や教師が一方的にしゃべっている時間を減らしていくことにも少しずつ取り組んでいきたい。試行錯誤を繰り返しながら、授業の学びを作っていく。	
甲府市教育委員会	中学校	苗南中学校	「課題に気づき、主体的に学ぶ心豊かな生徒の育成」	認め合い高めあう心豊かな生徒の育成と主体的な集団づくりを目指して	昨年度に続き、主体的に学ぶ生徒を育成することを主題とした。本年度は教科学習からのアプローチではなく、集団づくりからのアプローチということで、学年集団づくり、学級集団づくりの視点をあて、認め合い高めあう学級集団を目指し、主体的に活動する生徒を育成することをねらっている。	
南アルプス教育委員会	小学校	八田小学校	「学び合いながら、自らを高める子どもを育てる」		子どもが学び合いを通して、学習集団の中で自らを高め、自己の学びを確かなものにしていくような授業づくりを目指す。そして、授業の中で子どもの姿を見取る方法を追究する。	

南アルプス教育委員会	小学校	声安小学校	自分の考えを表現する力を育てる国語化指導の工夫	言語意識を重視した、話し合いの場面を通して	①「言語意識」についての理論研究 ②「言語意識」及び話し合いに関する児童の意識調査 ③教師観察による話し合いの実態の把握と分析、変容の見取りと分析 ④話し合いの理論研究 ⑤言語意識を明確に持つことができるような場面の学習過程への位置づけ(授業実践を通して、研究仮説を検証していく。) ⑥児童の思いや願いを大切に教材について(授業実践を通して研究仮説を検証していく。) ⑦評価研究(自己・教師)	
南アルプス教育委員会	小学校	白根源小学校	一人ひとりが生き生きと追求し、学び合い高め合う授業の研究	どの子も、学習意欲が高められる指導の工夫	本校は、子どもたちが学ぶことを楽しいと感じ、お互いに考えを出し合い、繋げ合い、学び合い、そして高め合っていくことが出来るような授業を目指し、研究を重ねてきた。ここ数年の研究の成果として、子ども達が生き生きと学習する場面も見られるようになってきた。しかし、個人差が大きく、能力が高い場合は生き生きするが、そうではない場合に沈黙してしまうような場面も見られた。 本年度は、これまでの、子ども一人ひとりをよく見て、その児童に合った単元構成を構築したり、1単位時間の流れを考えたりしながら、子どもの実態に寄り添った授業展開をすることで、効果的な授業ができるということも大切にしながら、昨今の社会的ニーズでもある、確かな学力(基礎学力の定着・向上)も身に付けることが出来るような授業の研究を行う。また、学び合いの質を高め、子どもが、学ぶことの楽しさ・分かること出来ることの喜びを味わえるような授業の研究を進めたい。	
南アルプス教育委員会	小学校	白根飯野小学校	学び合い 高め合う 子どもたち	子ども一人一人が思考力や表現力を高めるための授業のあり方	研究の柱として、以下の2点を設定した。一つの柱として、「つかみ・生かす子」(抽出児)を中心とした授業づくりのさらなる明確化に取り組んでいく。どの子を「つかみ・生かす子」にするのか。実際の授業づくりの場面で、単元による「つかみ・生かす子」の設定方法を授業実践を通して考えていきたい。そして、「つかみ・生かす子」の学びや一人一人の学びの具体的検証の方法を提案し合い、子どもたちの記録の取り方、活用の仕方、授業での生かし方について教師も学び合いたいと考える。そのことを通じて、「つかみ・生かす子」をさらに深くつかみ、その子の考えをどう生かすのか、その子に気づかせるために他の子どもとどこでどうかわらせるか考える手がかりとしていきたい。もう一つの柱として、子どもを主体にした授業での教師の役割のさらなる明確化に取り組む。授業の中で出てくる子どもたちの多様な考えの中で、何を中心の話題として絞り込んでいくか。子どもの発達段階に応じた教師の出(支援)をどうするか。授業における	
南アルプス教育委員会	小学校	白根東小学校	豊かな心を育み、学ぶ楽しさ、学びへの意欲を培う教育活動の創造	「東っ子タイム」全体計画の改善と充実	(1)「総合的な学習の時間」における教材開発と全体計画の見直し (2)実践記録(活動計画案)の作成 (3)評価項目(育てたい力)の見直し (4)人材バンクの充実	
南アルプス教育委員会	小学校	白根百田小学校	友だちと関わりながら学び、高め合う子ども	研究の目標 ・友だちの考えを聞き、自分の考えを伝えることができる子どもの育成 ・友だちとの関わりを通して、考えを深められる子どもの育成 研究仮説 子ども一人ひとりの実態を把握し、考えや思いを出し合う支援をし、子ども同士が話し合い、関わり合う授業を仕組んでいけば、子どもたちの学習において、思考力や表現力が育ち、お互いに高め合うようになるだろう。 研究内容(検証方法) (1)子ども一人ひとりの思考力、表現力を育てる授業の研究 ・子どもたちの実態を記録する。 (2)友だちとの関わりを重視した学習方法や学習形態の研究 ・子ども同士が話し合いやすいように工夫する。		
南アルプス教育委員会	小学校	若草小学校	主体的に学習活動に取り組む、基礎・基本を身に付ける児童の育成	身につけた国語力の活用を生かした授業づくり	・昨年度より国語力向上に取り組んでいる。国語科・国語教育に絞って研究を進めていくだけでなく、教科・道徳・特別活動および総合的な学習の時間までを通して国語力向上の研究を行ってきた。今年度もこの研究を継続して行い、昨年度の課題としてコミュニケーション能力がまだ十分ついていないので、「話すこと・聞くこと」に課題解決の手立てを探りながら研究をしていく。また、国語力を高める手立てとして読書活動は欠かせない。本校では、昨年度より朝の図書貸し出しも始まり、子どもたちの読書意欲は年々高まっている。朝の一斉読書、授業における図書時間の確保、読み聞かせ、親子巡回読書など学校だけでなく、地域を巻き込んだ活動を行っている。今年度も全校体制	
南アルプス教育委員会	小学校	若草南小学校	互いに学び合い高め合うことができる児童の育成	安心と承認のある授業づくり	(1)日々の授業実践をベース(個人研究)にした教師同士の学び合い ①学習活動の中に自分の考えを持つ場(自分の学び)、ともに学ぶ場(学び合い)を設ける。 ②「自分の学び」が「学び合い」によって高められていくことができるようにする。 ③教師は反省的実践を意識し、継続する。 (2)教室・授業をひらく(全担任一公開授業) (3)低・中・高学年別ブロック研究(各学年の実態に合わせたねらいにせまる研究) (4)学び合いを成立させるための学級集団づくり(楽しい学校生活を送るため	
南アルプス教育委員会	小学校	小笠原小学校	一人一人を大切にできる学習活動の研究	相互の学び合いから、考える力を育て、確かな学力の定着をはかる	(1)「学び合う」という視点から、児童の実態を把握する。 (2)『「学び合う」学習』について学習する。 (3)めざす子ども像について話し合う。 (4)研究主題・研究仮説について討議、決定する。 (5)授業研究のための学年研究を深める。 (6)各学年一実践の授業研究をする。 (7)児童の実態から、小笠原小学校の子ども「学び合う」姿の変容を話し合う。 (8)成果と課題について話し合う。 (9)来年度の方向性を話し合う。 (10)国語力向上の取り組み、集いの巨木、教育相談学習会を行う	
南アルプス教育委員会	小学校	櫛形北小学校	「支え合い、学び合う子どもたちの育成をめざして」	一人ひとりの学びの質を高める授業づくり	OECDによる国際学習到達度調査(PISA2003)の結果から、基礎学力の低下と、読解力、文章表現力の不足が指摘された。また、学力の二極化が報告され、低学力層のボトムアップが重要な課題として位置付けられた。一方、不登校の問題も依然として、学校現場での大きな課題となっている。学習障害(LD)、注意欠損/多動性障害(ADHD)等の発達障害を持つ子どもたちへの対応も新たな課題である。子どもたちのだれもが安心して学ぶことができ、一人ひとりの学力を高める授業づくりが今、求められている。そのためには、一斉授業から、協同的な学びを組織する授業への転換が必要であろう。協同的などりくみを中心とした授業を展開し、子どもたちの対話力を向上させることで、一人ひとりの学びの質は高まっていく。その中で、子どもたちは、お互いに支え合う	
南アルプス教育委員会	小学校	櫛形西小学校	「心豊かな人間性を育む授業作り」	～伝え合う力「話すこと・聞くこと」の指導を通して～	①児童の実態についての調査・分析 ②先行研究等の理論研究 ③通年での継続指導(県教委からの資料等参考) ④授業研究(授業づくり・参観・評価・外部講師の招聘等) 「相手」「目的」「意図」といった言語意識を重点にした授業づくり 「話すこと・聞くこと」に関わる継続した取り組み ⑤長期休業等を利用した随地研修	
南アルプス教育委員会	小学校	豊小学校	「人間性豊かな児童の育成をめざして」	国語力の向上を通して	○「国語力」についての研修(理論学習) ○本校児童の国語力に関する実態把握 ○つけさせたい力を明確にした、授業研究 ○読書指導(今まで取り組んできたことの実践と改善、国語力への意義づけ	

南アルプス教育委員会	小学校	落合小学校	「自ら学び 課題を解決しようとする子どもの育成」	一算数科の系統性を重視した単元づくり(解決可能な課題の設定)一 一小集団を活用した学習集団づくり一	昨年度は、算数科の課題解決的な授業実践について研究を行った。その中で、「学んだことを使いこなす。」「ゆたかな具体物からイメージをつくり出す。」授業の必要性が確認された。また、どの教科の学習内容も、教科書やノートの中にだけあるものではなく、私たちの身の回りの生活や暮らしの中から生み出され、抽象化された内容であることを意識した授業作りを考え学習に取り組みむ必要性と子どもたちが学び合う授業づくりの重要性も確認された。 そこで、今年度は、教科書で取り入れている水道方式の系統性を学び、単元構成を研究していきたい。そして、学習内容をどのように整理し、体系化して学習を組み立てているのかを明確にしていきたい。 さらに、学び合いの授業づくりの視点として、学んだことを「自分でまとめる」「自分で話す」「みんなの考えを出し合って課題を解決する」等の授業をつくるのがこれからの課題である。学級づくりを通して、バズ学習に取り組み、何でも話せる学級、自由に意見を言える「問題係」関係「問題いかに学ばせよう」関係をつくり出す取組をめぐっていきたく。	
南アルプス教育委員会	小学校	大明小学校	自ら学び 自ら考える力を育てる学習指導をめざして	算数科における基礎・基本の定着を図る	1、学力調査による児童の実態把握および課題の分析 2、『自ら学ぶ力』、『自ら考える力』を育てる学習指導の手立てと見取りの方法を探る。 3、『数と計算』領域における、観点別学習状況の『思考・判断』を高めるための手立てを探る。 4、基礎・基本の定着がどのように図れたかを見取る手立てとその評価が子どもの学習に生かせ、次の課題への意欲につなぐための評価方法を探る。 5、幼児教育機関および中学との連携を図るための手立てを探る。	
南アルプス教育委員会	小学校	南湖小学校	子どもたちが意欲的に学ぶ力キルムの創造	地域教材の掘りおこしを通じた教育課程の編成	①子どもの生活基盤を土台にして、地域教材を掘り起こし授業化する。 ・校区の自然、地理、歴史、産業などを知り、授業に生かす。 ・各学年からの実践提案、事例研究をする。 ・地域の人材を積極的に活用し、学習する。 ②実技研修 ③その他	
南アルプス教育委員会	中学校	八田中学校	生きる力を育み、主体的に活動する生徒の育成	～確かな学力の定着と豊かな心の育成を目指したキャリア教育の推進～	(1) キャリア教育全体計画の計画・実行・評価・改善 研究推進委員会を中心とし、八田中学校キャリア教育の全体計画の実行・評価・改善を推進する ・キャリア教育の目標 ・教科、総合、道徳、特活の取り組み ・つけたい力(育てたい能力) ・各学年における目標 (2)各学年の取り組み ・総合的な学習の時間について 「1年 福祉」「2年 職業体験」「3年 生き方(進路)」にキャリア教育を意識した内容を展開していく。 「2年 職業体験」は、原則として複数日実施していく。	
南アルプス教育委員会	中学校	芦安中学校	基礎的な学力の向上をめざして	「学び」の意味を求めながら	・全職員が「基礎的な学力」をどうとらえるかという共通認識を持つ。 ・全職員が授業を公開し、研究会を持つ。 ・生徒一人ひとりの学びが保障されていたかという共通の観点に基づいて授業を観察し話し合いを行う。 ・先進校視察を行い、遠流報告をする。 ・芦安中学校の生徒の学力をつけるにはどうしたらよいか」ということを特色のある行事や活動と関連させて考える。	豊かな体験活動推進事業、仲間と学ぶ宿泊体験活動(文科省、県教委)
南アルプス教育委員会	中学校	白根巨摩中学校	学びを楽しむ生徒の育成	学びの質を高める授業づくりの実践を通して	本校の特質は、学力・部活動・特別活動等、すべてにバランスをとって生徒たちに投入し、豊かな人間性を持ち、知的生産力のある人格の基盤を指向していることである。過去5年間の道徳教育の研究成果を有効に生かしながら、今年度からは学力向上に基軸を置いて、身体能力の向上や感性を磨くことなど意義深い広範囲の活動も併せて企画・実践しながら、本校の特質を具現しようと考えている。 学びの質を高めることは「人間性」を豊かにするために必要不可欠なものである。実際の授業のなかでは、人間関係すなわち生徒相互・教師とのかかわりに依存して学びが決定される。低学力層のボトムアップだけでなく上位の生徒の学力アップおよびさらなる意欲の向上が得られた事例が多く報告されている。	(国)学力調査に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究 (県)「確かな学力」ステップアップ事業 (市)学びの質を高める授業づくり推進事業 11月9日 (市)地域ふれあい道徳教育推進事業 11月10日
南アルプス教育委員会	中学校	白根御助使中学校	他人を思いやる心の育成	他人を思いやる心の育成	道徳の授業を重視する一方で、本校の生徒の長所である「行事等に前向きに取り組む」点を生かし、その取り組みの過程を通して、各学年で身につけさせたい「他人を思いやる心」から生まれる態度や行動を教師が話し合い、指導過程の中に盛り込んでゆくものとする。 目標を明確にすることで、指導過程により明確な指導意図が反映されてくるはずである。学年内では、共通した「思いやる心」の目標掲げ一方で、学級ごとにはそれぞれ違った個性があるはずである。そこで、日々の学級活動の中では、その個性に応じた朝の会や帰りの会、清掃や給食当番などの学級内の活動の中に「他人を思いやるため	
南アルプス教育委員会	中学校	若草中学校	主体的・創造的に活動できる心豊かな生徒の育成	各教科における	国語力の向上を通して各教科の授業のあり方を研究し、実践していく。 ・研究授業 ・教科ごとに具体的重点項目を掲げ、実践後の成果と課題をまとめる。 ・教科部内の授業を互いに見合い研究する。	
南アルプス教育委員会	中学校	桐形中学校	主体的に学ぶ生徒の育成に関する研究	学び合える集団をいかにつくるか	教師全員による授業公開をすすめる、教職員の同僚性を高める。また、人・物・事とのかかわりの中で学びが深まるという前提の下、生徒が安心して学べる集団をつつていく。目指すは、1聴き合えるクラス・2意見を吐けられるクラス・3思考を深められるクラス。授業実践を中心に子どもの学びをみとめる研究会にする。学年部会と教科部会を2本柱に集団と教材を考えつつ、学びの集団と学びの質を追求していきたい。	生徒指導総合連携推進事業(公開なし紀要のみ) 学びの質を高める授業づくり推進事業 10月17日(水)
南アルプス教育委員会	中学校	甲西中学校	「基礎・基本の定着を図り、確かな学力を身につける指導の工夫」	～生徒の実態に応じた多面的な指導・支援体制の充実を通して～	本校では、平成15年度から「基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫」を研究主題として取り組み、平成17年度からは3年間の指定で「学力向上拠点形成事業(確かな学力育成のための実践研究事業)」の指定を受けた。 本年度は、この最終年度として、これまでの成果を確認する年となった。 本校では、確かな学力を「基礎・基本の定着」→「学んでいく力(方法知)の育成」→「学んだ力(内容知)の生かし方=応用力の活用」へと発展を行うことで確かな学力が獲得できるととらえている。「授業改善および質の向上」「個への指導支援体制の充実」「家庭生活の実態把握と学習習慣の確立」の3つの柱を軸に、授業改善アドバイザーからの指導助言、放課後の学習相談会、学生チューターの活用、Q-Uを活用した学級集団づくりなどで教師の質の向上を図り、生徒の実態に応じて多面的な指導支援体制を充実させて確かな学力を	(県)学力向上拠点形成事業 (確かな学力育成のための実践研究事業 11月8日(木))
甲斐市教育委員会	小学校	竜王小学校	基礎基本を定着させる学習指導法の研究	国語科の言語能力を中心とする授業の改善を通して	①各学年の国語科教育課程を見直し、話すこと・書くこと・読むこと領域における各学年の指導重点を設定した。またどの教材で何をねらうかという教材の指導内容の重点化。また言語能力の焦点も行った。 ②授業改善の具体的な方法として、以下の内容に取り組みできている。 ア 子供の姿容をみとり、児童の言語能力向上のための授業改善をする手だて イ 児童の意欲や関心を引き出すための課題設定の方法。 ウ 教科の本質を生かした、学年のねらいの焦点化 エ 学習の形成的評価を生かすための、ワークシート、振り返りカード、学習カルテの活用。 オ 学習記録を生かして、評価規準にもとづき適切に評価し、その評価を具体的な指導に活用していく。	
甲斐市教育委員会	小学校	玉幡小学校	自ら学び考え表現できる児童の育成	国語科において、基礎学力や伝え合う力を育てる中で	○理論研究 ○児童の実態把握 ○研究授業の実施 低・中・高ブロックで1実践ずつ研究授業を実施 ○他教科、総合的な学習、道徳等との連携を図る ○読書活動の推進や言語環境の整備を図る ○家庭・地域との連携を図る	義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」に係る推進協力校

甲斐市教育委員会	小学校	竜王南小学校	今日的課題に沿った国語科指導の研究	論理力の向上を目指して	言語の教育である国語科は、すべての学習における基幹をなすものである。自分の思いや考えを整理して、筋道立てたものにすることや、ほかの人に対して理解しやすいように内容を組み立てて話し意思の疎通を図ることは、自立した一人の人間として重要な「生きて働く力」の一つであろう。PISA調査の結果などから課題が明確化されている今、児童一人一人が、自分の考えを持ちながら読んだり、集めた情報を有効に活用したり、筋道立てて思いを述べたり書き表したり、述べたいことの中心や主張までの過程を理解したり、という「伝え合う力」を確実に身につけさせるためにも、国語科における論理力育成を中心課題として取り組む。	0
甲斐市教育委員会	小学校	竜王北小学校	学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身につける児童の育成	算数科における個に応じた指導を通して	(1)児童の実態調査の考察と身につけさせたい力の設定 ①アンケート調査の考察(算数の学習に対する情意面と興味・関心にかかわる実態を把握し、学ぶ意欲を喚起し、主体的に楽しく学べる授業づくりのための手立てを明らかにする。) ②全国学力・学習状況調査、復習確認検査の考察(基礎・基本の定着度を把握し、今後の課題を明らかにする。) (2)算数科における基礎・基本及び個に応じた学習形態・指導体制についての理論研究 (3)算数科の個に応じた授業実践 ①教材・教具、学習活動の工夫 ②学習形態、指導体制の工夫③評価の工夫 (4)教育課程の見直し ①評価基準に照らし合わせた学習状況の観察による検証 ②評価基準表の	0
甲斐市教育委員会	小学校	竜王西小学校	子どもの学びが響き合う学校の創造	～学び合いの絆を育む授業を目指して～	今日の教育課題を踏まえ、子どもの「学び」への回帰をねらっている。単に知識や技術の習得・向上だけでなく、子ども同士や子どもと教師の学び合いの関わりをもたせながらの授業づくりを目指し研究を進めていく。 具体的内容として ・学び合いの絆を育む授業の実践 ・CRT学力検査を行い、児童の実態を把握する ・講師を招いての学習会の開催 ・授業計画の立案・指導案の検討 ・研究授業の実施、および反省 ・指導・評価の工夫・改善を図る	山梨県教育委員会指定「生徒指導推進協力員」活用事業研究委託校
甲斐市教育委員会	小学校	竜王東小学校	自ら学び、共に伸びる児童の育成をめざして	伝え合い、学びを高め合う指導の研究	①各教科・領域において伝え合い、学びを高め合うための学習方法、指導のあり方について研究・討議していく。あわせて昨年度作成した「伝え合い、学びを高め合う段階表」を日々の教育活動の中でどう生かしていくのか、修正点などはないか、授業実践を通して検証していく。 ②教科書の検討とともに自主編成も見据えながら学年・学級の実態に合った単元構成、指導計画課題の設定、資料の準備及び学習スタイル等について工夫していく。 ③「学校での教育活動全体で育成する国語力」と「教科・国語科で育成する国語力」の関連などを整理すると共に、伝え合う力を高める活動について効果的	
甲斐市教育委員会	小学校	敷島小学校	『主体的・創造的に考える子どもの育成』	算数科において、学び合いが高まる場を工夫することによる確かな学力作りを通して	「算数科」で、低・中・高ブロックに分かれ、それぞれのブロックで研究仮説を立て、学び合いの場を工夫し、研究主題に迫る取り組みを行うものです。	
甲斐市教育委員会	小学校	敷島北小学校	よく考え、進んで発表する児童の育成	思考力や表現力を高める指導の工夫	基礎研究期間(4～6月)は、研究内容に関する理論、指導案や指導方法に関する研究を行う。必要に応じ、低・中・高学年のブロックに分かれて行う。 授業研究期間(7～12月)は、指導案の作成、検討、研究授業を行う。 研究集約期間(1～3月)は、研究のまとめと研究集録の作成を行う。 全体の研究会は行わないが、全学級で研究主題に迫る授業をもち公開する。(一人一実践の充実を図る) 職員研修として、講師を招聘して、パソコン研修や特別支援教育にかかわる学習会などを行う。	
甲斐市教育委員会	小学校	敷島南小学校	生きる力を支える確かな学力を育む指導の工夫	国語科の学習を通して	理論研究 ・国語力について ・コミュニケーション能力の育成について 国語科による授業実践 ・ブロックごとに研究授業を行う ・教材開発 ・発問、投げかけ ・評価 研究のまとめ	
甲斐市教育委員会	小学校	双葉東小学校	道徳性をはぐくみ、豊かな心をもち未来を拓く子どもたちの育	一学校の教育活動全体における心の教育のあり方	これまでの本校における心の教育の洗い出しと、新たに取り組むべき重点活動を探る。 ・地域、保護者と連携した道徳の授業の公開と、道徳的実践的活動を推進する	(県)ふるさとやまなし道徳教育推進事業 10月20日(保護者・地域向け公開)
甲斐市教育委員会	小学校	双葉西小学校	主体的・創造的に考える子どもの育成	コミュニケーション活動を通して、考える力、伝え合う力を育てる道徳教育	仮説:自己を見つめて考えさせたり、自分の考えを伝え合い他者との関わりを深めたりする授業や活動を意図的・継続的に仕組むならば、道徳的価値がより内面化され、児童の道徳性とコミュニケーション力をより高めることができるだろう。 コミュニケーション力を育てることをとおして、児童の道徳性を伸ばしたいと考えている。道徳性を育成させるためにコミュニケーション力を育てる授業や活動を全校的に仕組んでいく。各学級が実態を把握し、テーマを持ち、課題を解決さ	小中連携ふるさと山梨道徳教育推進事業 1年目
甲斐市教育委員会	中学校	竜王中学校	自ら学び、心豊かで、たくましく生きる中学生の育成	授業を通して生徒の基礎学力を高めるには～実践と検証	各教科で基礎学力の向上に取り組む。 ・基礎基本の定義 ・授業での実践と検証 ・初任者授業研究会での授業提供(学級活動、道徳、数学科、英語科、音楽科、家庭科、社会科)  道徳授業の実践 ・年2回の研究授業 ・地域の人材や保護者など外部講師の活用	
甲斐市教育委員会	中学校	玉幡中学校	確かな学力の向上をめざす学びの創造	わかる喜びや学ぶ楽しさが感じられる授業づくり	①わかる喜びや学ぶ楽しさを中心に生徒の意欲を高める授業づくり ・富士岳陽中学校の取り組みを参考に「グループ学習」や「表現活動」を取り入れた、生徒同士が学び合う授業を展開する。 ・お互いに授業を公開し合い、改善に努める。 ②学習を支える集団づくり ・相手の気持ちや考えを理解できる生徒の育成するために、道徳の授業の充実 構成的グループエンカウターの活用 朝読書の充実 などに取り組む。	

甲斐市教育委員会	中学校	竜王北中学校	「自ら学び意欲的に活動する生徒の育成」	～一人ひとりの学習意欲と表現力の向上を目指して～	(1)教科研究 ・教科ごとに、学習意欲を高め、自主的な学習につながるような授業を研究実践し、基礎・基本の定着と、表現力の向上を目指す。 ・教科ごとの実態に応じて、研究主題に照らし合わせ、授業改善の課題をより具体化し、実践する。また、今年度の実践を通して、生徒の実態や次年度への課題等を明確にする。 (2)集団づくり研究 ・学級、学年の活動において、生徒相互、生徒と教師の相互理解や信頼が深まるような活動内容や指導を工夫する。 (3)食と健康に関する研究 ・中巨摩食育推進	中巨摩食育推進研究会 研究推進校 授業公開日 11月15日
甲斐市教育委員会	中学校	敷島中学校	自ら考え、学び、行動する生徒の育成 ～教育課程の実践と検証を通して～	～基礎・基本の定着と心の育成から迫る～	①教科指導 ア 基礎的・基本的事項を確実に身につけさせる学習方法を探る。イ 観察、実験、調査、見学、課題学習、コンピュータ利用などを取り入れた学習指導の工夫をする。 ウ 2008年度の各教科の年間指導計画を作成する。 ②道徳教育 ア 週一時間の「道徳の時間」を大切に、実践する。イ 心のノートを活用する。 ③学級活動 ア 帰りの会の内容を工夫し、充実したものにする。イ 学校行事・生徒会行事を通して、学級・学年の集団をどう作っていくかを探求し実践する。ウ 読書活動を推進する。 ④総合的な学習の時間 ア 昨年度行った計画をもとに「総合的な学習の時間」を実践し、その成果を検証しながら、学年の実態に合わせ変更していく。イ それぞれに見合った評価の方法を調べる。	
甲斐市教育委員会	中学校	双葉中学校	「人間力」を育む学習活動の研究	～基礎・基本の定着と心の育成から迫る～	本校の生徒の実態を把握し、伸びている力と弱い点などを共通理解をもちつつ、到達目標を研究会を通して設定していく。その上で課題解決に向かう方向を研究していく。評価もできるだけ行うようにしつつ、軌道修正をしつつ到達目標に向かう研究にしてい。地域とどう連携していくかも含めて研究をすすめていく。	文部科学賞省 小中連携ふるさと やまなし道徳教育
中央市教育委員会	小学校	三村小学校	よく考え、進んで学ぶ子ども	『一人ひとりがよく考える場面』を想定した授業作りの研究	「よく考え、進んで学ぶ」とは、子ども自らが意欲的に対象に関わり、自らの意志で学ぶことである。変化の激しいこれからの社会を生きる子どもにとって「確かな学力」「豊かな人間性」「健康と体力」の3つの要素からなる「生きる力」を育むことが大切である。本校では「よく考え進んで学ぶ子ども」を育てるために、授業の中で一人ひとりがよく考える場面を想定した授業作りを行い確かな学力を育てていきたいと思う。また、このテーマでの研究は2年目になるため考える場面を想定するだけでなく、考えたことを伝える力やまとめる力・発表する力なども意識しながら研究を進めたい。具体的には国語・算数・理科の3つのブロックに分かれ研究テーマを設定し理論研究・授業案検討・授業実践・反省をし、それを人間関係力という視点で、「めざす子ども像」を設定する。それをふまえた上で、「子どものとらえ」と「この子への願い」をもとに、育てたい「他と関わる力」というめあてを設定する。そして、それを実現するための教科(領域)や単元を探し、授業の構想を練る。構想がまとまったら、実際に授業実践を行い、「授業を通して見えてきたもの」について検討する。その中で、次の実践に生かしていきたいもの、学校全体で共有化していきたい実践方法などを探っていきたく思っている。また、必要に応じて学習会を開く。	
中央市教育委員会	小学校	玉穂南小学校	「共に感じる豊かな心を育む」	～コミュニケーション活動を通して人間関係力を培う～	①主題にせまる単元・授業作り ○目標の明確化…単元の目標・本時の目標を明確にし、子どもと共有する。 ○内容を学びながら、学び方・ものの考え方・問題解決能力を育てる工夫…体験的・問題解決的な学習を充実させる。 ○児童の自主的・自律的な活動場面の設定…自分の考えを持つ時間・お互いの考えを交流し興味あう時間・自己評価の時間を設定する。 ○指導に生かす評価…個に応じた指導・意図的・計画的な評価を実施する。 ②心と体の健康に関する授業実践…授業実践への養護教諭・栄養士の関わり ③心と体の健康に関する研修 ④特別支援教育に関する研修	
中央市教育委員会	小学校	田富小学校	自ら学びをひらき、知を創造する児童の育成	自主的・自律的な活動を大切に授業の実践を通して	①子どもが主体的に学ぶ活動(算数科)を取り入れた授業 ②子どもが学ぶ意欲を感じ、教師が指導に活かし評価を取り入れた授業(学習感想、一枚ポートフォリオ) また、子ども一人ひとりの生き生きとした学びを支える土台として、次のような環境づくりもおこなう。 ①子どもの実態把握(算数に対する意欲調査、QUアンケート)②学級、学校集団づくり(朝の活動の時間の活用)③学習基盤づくり(学習習慣の見直し、読書活動の工夫、国語力育成の工夫)④家庭との連携(校内研便りの発行、子どもの学びの成果として、一枚ポートフォリオや学習感想のノートなどを保護者に知らせる)	
中央市教育委員会	小学校	田富北小学校	「生き生きと学ぶ子どもを育てる教育活動の展開」(第3年次) 「生き生きと学ぶ子どもを育てる教育活動の展開」(第3年次)	～かかわり合って学ぶ活動(算数科)を通して～	「生きる力」を育む活動の実践を通して、基礎・基本の定着を図り、算数を中心とした「確かな学力」の向上を目指した学習指導を通して、	文部科学省学力向上拠点形成事業11月9日
中央市教育委員会	小学校	田富南小学校	主体的に生き生きと学ぶ児童の育成	基礎・基本の定着を図り、算数を中心とした「確かな学力」の向上を目指した学習指導を通して、	昨年度の算数科におけるTTを生かした少人数学習・習熟の程度に応じたコース別学習指導の研究の成果を踏まえて、本年度は、「確かな学力」の向上を目指し、算数を中心として研究を進めていく。内容としては、算数の図形分野での一枚ポートフォリオを活用した授業の開発を進めていく。また、児童の実態の中で低い思考力、表現力など国語に関係した力をのばし、基礎・基本の定着を図るために、朝の学びタイム(読書・国語・算数・体力作り)の効果的な活用の方法を研究していく。	
中央市教育委員会	小学校	豊富小学校	生き生きと学ぶ子どもを育てる	コミュニケーション能力を高める手だてを通して	(1)育てたい「話し合う力」の基礎基本の研究[*コミュニケーション能力(特に「話し合う力」に視点をあてて)及び話し合いの基本指導過程等の共通理解(講師招聘)*育てたい「話し合う力」の基礎・基本](2)話し合いの形態と指導時期の研究[*国語科の授業を通して、螺旋的・反復的に行う。*他教科、領域で関連的・補完的に行う。*学校生活の中で計画的・継続的に行う。](3)児童の実態把握とその変容の確認[*児童の実態把握とその変容*児童の言語環境実態調査](4)授業研究[*どのような手だてを投入因子としたか。*授業実践の中で「話し合う力」を支える学力をどう捉えたか。*授業の中でどのように話し合いの場面を仕組み、コミュニケーション能力を高められたか。*成果と課題は何か。](5)日常の取り組みの情報交流[*学級集団づくり、全校集団づくり*朝活、音読指導案*特別支援、給食指導、図書館指導、保健指導案]	(国)(県)豊かな体験活動推進事業(遠くのまち体験活動推進事業)
中央市教育委員会	中学校	玉穂中学校	粘り強く主体的に課題に取り組む生徒の育成	基礎学力の向上を図るための国語力の指導 主体性を高めるための自治活動の推進	基礎学力の向上を図るための国語力の指導については、全教科および諸活動で「書くこと・話すこと」を意識して言語能力や自己表現力を高める指導を行う。主体性を高めるための自治活動の実践については、全校生徒会・委員会・学年生徒会・学級活動のリーダーの育成に焦点を当てて指導を行う。また、合唱・応援・体育部門の練習において縦割りの活動を多く設定し、先輩からの指導ができるようにする。	命の大切さを学ぶ体験活動推進校
中央市教育委員会	中学校	田富中学校	「生きる力」につながる「よりよく生きる」生徒の育成	～「環境(人・社会・自然)」とのかかわりを生かした活動を通して～	「確かな学力」(知識・技能に加えて、自ら学び、自ら考え、主体的に判断して、よりよく問題を解決する資質や能力)を身につけさせ、「豊かな人間性」(命の大切さ)を育むための活動の工夫(活動内容、教育課程の位置づけ、指導方法)を行い、さらに、活動に対する評価の観点や方法を明らかにする。教育課程全般において、生徒や地域・学校の実態を考慮し、「生きる力」の核となる「確かな学力」・「豊かな人間性」を育む活動の実践・検証を通して、「環境(人・社会・自然)」とのかかわりを生かした活動の内容、特に「学習活動」における指導方法・評価の観点や評価方法の工夫・深化を行うことによって、研究主題に迫れる	



昭和田教育委員会	中学校	押原小学校	自分の学びを 表現活動を通 して児童の育 成	算数科におけ る表現活動 を通して	主題の「自分の 学びをつくる 」とは、「自他 の学びをとら えることを通 して、自分自 身の学びをよ りよいものに し、次回の学 びにつなげて いく」ことを さす。このた めには、自分 の考えを客観 的に表現する ことが不可欠 であることを ふまえて、昨 年と同じ全学 年で取り組め る算数科を研 究教科とし、 自分の考えを よりよく表現 できるように するための指 導のあり方を 探る。方法と しては、児童 の実態分析、 先行研究等の 学習、授業研 究を行い、成 果を集約する。 ①表現すべき 「内容」が意 識され、②そ れを表現する 「必然性」が あり、③表現 する対象や場 面に合わせた 「言語・方法」 が獲得、運用 され、④①か ら③に対する 「関心」「意 欲」「態度」 が持たれる、 という4つの 要素を持つ学 習機会を子ど もたちの実態 に応じて仕組 むことで、考 えを表現する 活動を通して 、自分の学び をつくってい く。	
昭和田教育委員会	中学校	西条小学校	子どもたちの コミュニケーション 能力の高まりを 目指して	～英語活動や 日常活動の取 り組みを通して ～	～英語活動や 日常活動の中 において、他 者とのコミュニ ケーション不 足が叫ばれて いることや、 子どもたちを 巡る痛ましい 事件が、コミ ュニケーション 能力の未熟 が根底にある 、人間関係の 希薄さが原因 だからではな いかという指 摘があること などから考え て、この研究 を進めていく 意義があると 考える。これ までに取り組 んできた「英 語活動」の成 果を生かし、 かつまたこれ らの成果を高 次のものへと 発展させるた めに、本校が 作り出してきた 英語活動の年 間指導資料を 、「担任主導で も実践しやすい 形」になるよ う、より実践 的・実用的に 改善していく。	わくわくイングリッシュ小学校サ ポート事業 拠点校
昭和田教育委員会	中学校	常永小学校	「確かな学力」 を身に付けた子 どもの育成	生活科及び 「総合的な学 習の時間」の 一層の充実を 通して	1. 生活科の教育課程の改訂 2. 「確かな学力」を育む生活科の授業の創造 3. 本校における「総合的な学習の時間」の学習指導要領づくり 4. 「総合的な学習の時間」の教育課程の改訂 5. 「確かな学力」を育む「総合的な学習の時間」の授業の創造	(国)平成18・19年度学力の把握に関する研究指定校事業 (生活科)・・・公開日は未定
昭和田教育委員会	中学校	押原中学校	自ら進んで学 び、たくましく 生き、志をも って生きる生 徒の育成	かわりを育て る「話し合い」 活動を意識し た授業づくり を通して	研究内容 ①「話し合い」活動を意図的に仕組んだ授業づくり。 ②人間関係形成能力が高まる「話し合い」活動について、その方法の研究。 ③よりよい生き方を求め、学校、家庭、地域が連携した道徳教育の推進を行う。 研究方法 ①どの実践においても「話し合い」活動を意識して取り組み、教科部会ABC内の研究と 昨年度に引き続き、道徳、「生命の教育」の研究を併せて行う。 ②全教師による「一人一人授業実践」実施と授業3回を行う。 ③国語科で、山梨県教育委員会国語力向上推進協議会発行の「ことばの環境にかか るアンケート」を行い、本校の実態を把握し言語環境プログラムを紹介する。	
蕨崎市教育委員会	小学校	蕨崎小学校	生き生きと自 ら学ぶ子ども の育成	子どもたちの 「確かな学力」 の定着をめざ して	国語科では、「書く力」を高めることをねらいとしている。主述の関係や漢字などの 言語事項を踏まえ、ていねいな文字で意味の分かる文を書くことができるよ うにしたいと考えた。国語科の授業の中で言語事項を意識した短作文による書く 活動を行ったり、日常の取組で、朝学習での視写、日作文などを行ったりする。 算数科では、「数学的な考え方」を高めることをねらいとしている。問題解決型 の学習過程の「考える」「学び合う」の過程に重点を置いた指導の工夫や自分 学習目標と学習評価を明確にすることにより、児童の学習の意欲化と、指導の改善を はかり、児童の基礎基本の定着につなげるため昨年に引き続きルーブリックを取り入 れ、ルーブリックそのものをより確かなものとして捉えていくために、昨年度の国語 科より焦点化して「書く」領域において進めていく。 具体的にはルーブリックの理論研究、「書く」についての理論研究、国語の「書く」領 域でのねらいにそったルーブリックの作成、作成したルーブリックを活かした授業の 実践、授業後の検証、研究のまとめとなる。	(国)学力向上拠点形成事業
蕨崎市教育委員会	小学校	穂坂小学校	自ら学ぶ意欲を 育てる指導と 評価のあり方	国語科におけ るルーブリック 作成と活用を 通して	学習目標と学習評価を明確にすることにより、児童の学習の意欲化と、指導の改善を はかり、児童の基礎基本の定着につなげるため昨年に引き続きルーブリックを取り入 れ、ルーブリックそのものをより確かなものとして捉えていくために、昨年度の国語 科より焦点化して「書く」領域において進めていく。 具体的にはルーブリックの理論研究、「書く」についての理論研究、国語の「書く」領 域でのねらいにそったルーブリックの作成、作成したルーブリックを活かした授業の 実践、授業後の検証、研究のまとめとなる。	
蕨崎市教育委員会	小学校	蕨崎北東小学 校	音声言語によ る伝え合う力 を高める国語 科指導の研究	相互交流成立 のための能動 的な聞き手の 育成を中心に	情報化・国際化時代においては、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や 考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりする力 である」伝え合う力を児童に育成することは喫緊の課題である。このことは、教育 現場での伝え合う力の育成の必要性を説いている。文化審議会の答申「これ からの時代に求められる国語力について」(2004.3)においても同様のことが述べ られていることからわかる。 また、教育課程審議会の答申を受けて改訂された現行学習指導要領国語科 の目標に、新たに「伝え合う力」という文言が加わった。このことから、国語科 において伝え合う力を育成することが要諦であることがわかる。 伝え合う力は、人間関係の構築や児童の学び合いには不可欠の力であり、こ の伝え合う力を児童に身につけさせることにより、本校の学校教育目標「か しこ	
蕨崎市教育委員会	小学校	蕨崎北西小学 校	豊かな心の育 ちを通して、自 ら学び、共に 生きようとし る児童の育 成	なし	「共感する力や思いやりの心など、豊かな心の育成のために、多様な道徳教育 用教材の選択・開発や研究を行い、道徳の時間を充実していけば、自ら学び、 共に生きようとする児童が育つであろう」という研究仮説のもとに、研究を進め ている。研究課題として「共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て る道徳教育」「多様な道徳教育教材、道徳の時間の資料の選択・開発とその効果 的な活用」など、主として道徳を中心に研究を深めている。①魅力ある資料の 選択・開発と多様な指導方法を用いた道徳授業の工夫、②開発した教材を使 用しての道徳の授業実践と考察、③学校環境の整備・充実、及び道徳年間指 導計画の作成と実践、④道徳教育の推進と評価のあり方について研究する。	(国)平成18・19年度児童生徒の心に響く道徳推進事業 1 1月15日
蕨崎市教育委員会	小学校	甘利小学校	意欲を持ち、主 体的に学習に 取り組む子ど もの育成	一人一人が学 ぶ楽しさを実 感できる学習 指導の工夫と 改善(国語科を 通して)	昨年度からの継続研究である。国語力向上を目指して「話す・聞く」「読む」「書 く」などの言語活動を積極的に授業に位置づけるとともに、その基礎になるもの として、語彙や表記、文法、内容構成、表現に関する知識などについての指導 にも力を注いでいく。さらに本年度の研究は、文章教材を焦点化して読解力の 向上を目指した取り組みに重点を置き、授業づくりや周辺の手立ての在り方を 工夫していきたい。これにより、一人一人が学ぶ楽しさを実感できる学習指導 の工夫と改善へとせまることができると考える。	
蕨崎市教育委員会	中学校	蕨崎西中学校	人間性豊かな 生徒の育成	望ましい生活 習慣の確立か ら生きる力を はぐくむ	①食育を中心とした望ましい生活習慣の確立について ②栄養教諭の参画する授業の在り方について ③生徒一人一人に学習習慣や学習規律を身に付けさせる中で各教科の基礎 的な学力の定着	平成19年度「地域に根ざした 学校給食推進事業」
蕨崎市教育委員会	中学校	蕨崎東中学校	「生きる力」を はぐくむ学習 活動の研究	豊かな心と学 ぶ意欲を育て る活動実践を 通して	昨年度の研究(道徳授業の工夫)に加え、学校生活全般を通して、豊かな心を持ち、生 き生きと活動する生徒を育てるための手法や環境づくりを研究し、「心の教育」の拡 充、深化を目指す。 (1)道徳の時間に関する研究の深化と授業実践、資料の蓄積(道徳授業の工夫、他の活 動との連携) (2)「分かる」、「できる」楽しさを知り、生徒が主体的に学びに臨む授業づくり(教科指導)	
北杜市教育委員会	小学校	明野小学校	美しい日本語を 話す子どもを 育てる教育活 動に関する研 究	道徳教育とソ ーシャルスキル トレーニングの 関連的指導を 通して	①対象領域 教育活動全般 道徳 総合的な学習の時間 特別活動 ②道徳教育の充実 道徳の時間の学習指導の改善 ③ソーシャルスキルトレーニングの理論研究と授業実践。 (ア)ソーシャルスキル教育の考え方 (イ)学校での取り入れ方 (ウ)ソーシャルスキルトレーニングの進め方 (エ)各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間に取り入れた授業の実践 ④豊かな言語環境づくりの推進 ・豊かな言語環境づくりプログラムの活用	
北杜市教育委員会	小学校	須玉小学校	一人ひとりの ニーズに応じ た学習指導を めざして		学習困難児に対して行われる授業中の指導に関して、ある程度の一般化、体 系化をめざす。この場合の指導というのは、授業全体を指すのではなく、場面場 面で行われる発問、指示、説明、板書等の1つを指す。当然、授業の中には、こ うした指導がいくつか行われる。 一見、ある1つの学習内容に限って有効だと思われるような指導も存在する。 しかし、大部分の指導は、本質的な類似点を探ることにより、他の学習場面で の指導に適用させることができると考えられる。 以上のような考えより、各教科等において、これらの指導に関して指導立案と 実践を進め、つまずきが予想される児童に対する本校独自の実践集を作って	



北杜市教育委員会	小学校	増富小学校	自ら学ぶ子どもの育成	個に寄り添った支援をするための、カルテを使った子どもの理解のあり方	教師に教え込まれるのではなく自ら学ぶ子どもの育成を図るためには、ひとりひとりの子どもを深く理解し個に寄り添った支援をすることが大切であると考える。そこで今年度は個を理解するためのカルテの理論研究から始め、実際に生活面・学習面においてカルテを作り、そこから子どもの姿を読み取り、個に寄り添った支援のあり方や授業のあり方を探っていきたい。カルテは日々変わる子どもの姿を捉えるもので、単なるその子の総合理解や評価に終わるものではないこと、またカルテを取って読み取ることは子どもの理解を深めるとともに教師が自らを見つめなおす機会となり、支援を工夫するうえで手がかりとなることを	
北杜市教育委員会	小学校	高根東小学校	自ら学び、自ら考え、表現する児童の育成	国語力を高める指導・援助の工夫を通して	・実態把握、目指す児童像の具体化 ・国語科における指導法 ・国語科以外での国語力を高める指導法 ・言語環境の整備 ・本に親しむ活動の推進 ・表現の場の工夫	
北杜市教育委員会	小学校	高根西小学校	自ら考えよく学び、生き生きと活動する児童の育成	英語活動の実践を通して	中心となる研究 ①英語活動の授業案を元に、学級担任が単独で行う英語活動の授業における英語での「聞く・話す」活動や内容、教材・教具、学習形態等をさらに工夫したもの、またより先進的で新たなものを研究・発掘する。 ②1～6学年の系統性に配慮し、現存の英語活動年間指導計画を検証し改善する。 ◇①について◇ ○実践を通しての授業案の改善 ・時間配分、授業の流れ、学習形態など ・使用教材、使用視聴覚機器等の記録 ・ALTと一緒に行った授業であるか、学級担任単独で行った授業であるか記入 ○「授業後の反省及び来年度に向けて…」の記入 ・実践日の記録 ・参考となる事柄や児童の反応等を記入 ・小学生英語活動ミニ手帳の活用方法や活用しての感想、改善点等（特に5、6年生） ○「振り返りカード」の活用	(県)わくわくイングリッシュ小学校サポート事業
北杜市教育委員会	小学校	高根北小学校	自ら学び、生き生きと活動する児童の育成	「伝え合う力」の向上をめざして	「自分の考えをしっかりと伝えよう、相手の考えを理解しよう」という意識が弱い。」という本校児童の実態がある。「伝え合う力」の向上は、主体的に学ぶ際の重要な要素と考える。そこで本年度は、過去3年間の研究を継続・発展していく方向で推進していく。各教科・領域における「伝え合う力」を育てるため実践を全職員が行う。「伝え合う力」を育てるための活動の場の設定のしかたや支援のあり方について授業実践を通して検証していききたい。また日々の学習に生かせるような「話し方」における学習ルールを作成する。	
北杜市教育委員会	小学校	高根清里小学校	豊かな心をほぐくむ清里教育の創造	ひと・もの・しぜんとのかかわりを通して	全国へき地教育研究大会の公開研究校の指定を受け、子どもたちに豊かな心を教育活動全般を通してはぐくみたいと考えた。そこでまず、本校の子どもたちに育てたい豊かな心を明らかにし、清里の特性(ひと・もの・しぜん)を生かした「清里教育」の創造を目指したいと考えた。昨年度日常的諸活動の中ではぐくめる道徳的価値を洗い出したが、それをさらに広げ、地域人材を活用したり、子どもたちの活動の場を地域に広げるなどの工夫を加えよ、り効果的に地域の特色を生かした心の教育ができるよう考えたい。	全国へき地教育研究大会山梨大会
北杜市教育委員会	小学校	日野春小学校	豊かな心を持ち、主体的に考え、実践する子どもの育成	生きる力を育む授業をめざして	・日常の算数の授業の中に算数的活動、豊かな考えを持たせる場の設定、伝えあう場の設定、学習感想等を取り入れる。 ・算数的活動を取り入れて、子どもたちに考える力、伝え合う力、基礎・基本の力を付けていく。 ・算数科の授業研究をする(一人一実践)。 ・特別支援教育について学習会を通して、理解を深める。	
北杜市教育委員会	小学校	長坂小学校	共に学び合う授業の創造	思いや考えを伝え合うために	①子ども達がお互いに思いや考えを伝え合う活動を通して、共に学びあえる授業を創造する。②国語力向上のために、読書に重点を置き、音読・朗読・暗唱などを意図的計画的に取り入れる。③子ども達が自分の思いや考えを表現できるようにするための指導法を研究する。④個々の子ども達や考えをつないで、相互に関わらせるための指導法を研究する。⑤国語力と伝え合う力に関する理論研究を行い、本校としての共通理解を図る。⑥共に学び合う授業における学年ごとの「目指す児童像」を明らかにする。⑦言語環境の整備を図る。⑧児童の実態調査をする。	
北杜市教育委員会	小学校	秋田小学校	自ら学ぶ秋田の子ども	ねらいを明確にした学び合いと、自己の変容を実感できる評価をととして	一枚ポートフォリオの理論研究と学び合いの場の設定についての研究。 一枚ポートフォリオシートの作成をととして、学習目標や単元構成を明らかにする。 基礎的基本的な事項を確実に身につけるための有効な学び合いの場をどう作るかの研究。 一枚ポートフォリオを使った形成的評価や総括的評価の研究。	
北杜市教育委員会	小学校	小泉小学校	確かな学力を身につけた児童の育成	学ぶ意欲をもち、自ら考え進んで伝え合う算数の授業の創造(仮)	昨年度本校では、初めて算数を取り上げて基礎・基本を身につけさせるための指導方法の工夫について研究を進めてきた。今年度は昨年度の研究をふまえ、「確かな学力」の中でも特に本校の児童につけさせたい力として思考力、判断力、表現力を取り上げて研究することにした。自分の考えを様々な方法で導き出し、それを適切に友だちに伝えていったり友だちの考えと比較したり、さらにその中からもっとも合理的な考えを選択したりする力をつけさせるにはどのような指導方法が有効か、算数の授業を通して検証していく。	
北杜市教育委員会	小学校	泉小学校	自分の思いや考えを豊かに表現する力を育てるために	国語力向上を目指した国語科「読むこと」の指導を通して	◎国語力向上に向けた国語科「読むこと」の指導の工夫 ○「読むこと」の指導の方法についての研究 ・「話すこと・聞くこと」に注目して ・言葉・言葉に注目して ・「書くこと」に注目して ・評価の方法 ○身につけさせたい基礎・基本の力について ○「読むこと」に取り組むときの5つの言語意識について ◎国語力向上を支える基礎・基本および言語環境についての研究	
北杜市教育委員会	小学校	白州小学校	確かな表現力を持った児童の育成	国語科の「話すこと・聞くこと」の指導を中心として	国語科の「話すこと・聞くこと」の学習において、学習指導の工夫をすることで、学校生活の中で表現する場を生かすことにより、「生きてはたらく力」としての「表現力」を持つ児童を育てたい。授業研究部会、活動研究部会の二つの部会を設け研究を進める。授業研究部会では、伝え合う力を高めるための指導の工夫(活動形態・話し方・教師の指導技術・めあての意識化)について探っていく。活動研究部会では、「話し方・聞き方名人」を諸活動に導入していくこと、話し方、聞き方を意識できる環境作りについて研究を進める。	
北杜市教育委員会	小学校	武川小学校	学ぶ意欲を高めるための指導のあり方	国語科の学習を通して	○「読むこと」の領域の指導方法と評価のあり方について、児童の読解力を向上させるための学習のあり方を工夫し、授業研究を中心にその効果の検証をおこなう。 ○各プロジェクト(読み方プロジェクト・作文プロジェクト・漢字プロジェクト・スピーチプロジェクト)の取り組みを中心に、望ましい学習の仕方を明らかにし、全校統一した学習の展開を日常化する。 ○家庭との連携を強化し、国語科の望ましい家庭学習のあり方について啓発する。 ○家庭学習の習慣化	

北杜市教育委員会	小学校	小淵沢小学校	生き生きと学び、確かな学力を身につける子どもの育成	国語科・算数科及び社会科における検証改善サイクルの構築を目指して	全国学力・学習状況調査の結果等を活用・分析することで、学校における効果的な取り組みや課題を明らかにするとともに、改善につなげる実践研究を行い、検証改善サイクルの確立を図る。調査の結果が出るまでに、全国学力・学習状況調査の問題を分析し、求められている力は何かを理解する。また、これまで実施してきた構造的CDTテストや学力テストの結果を基に国語教科部会、算数教科部会、社会科教科部会毎に学力分析を行い、本校の児童の実態をつかむ。そして、課題を克服するための手立てを考え、それらを授業の中に取り入れた実践を行い、さらに検証を重ねるといったPDCAサイクルの構築を目指す。	(国)学力検査の結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究 (県)「確かな学力」ステップアップ事業
北杜市教育委員会	中学校	明野中学校	「人間としての在り方生き方を考える教育～理想の生き方の追求と実現する力の育成～」		①人間としての在り方生き方と道徳教育との関連について理論研究をする。 ②学校教育活動全体での実践的な活動を通して、「人間としての在り方生き方」に係わる資質・能力の育成を図る。 ③生徒に育成したい資質や能力を把握し、地域人材の掘り起こしとそれに係わる教材作りに取り組み。 ④韮崎工業高校との合同研究会を通して、指導の系統性を明らかにする。	(国)人間としての在り方生き方を考える教育
北杜市教育委員会	中学校	須玉中学校	豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実	道徳的価値の自覚を深める道徳授業の実践をととして	① 生徒の実態調査の実施、実態に基づく指導 ② 「心のノート」の積極的な活用 ③ 道徳資料の充実、活用 ④ 研究授業の推進 ⑤ 各種研修会への積極的な参加 ⑥ これまでの研究成果(「学力向上」)に基づく選択教科「礎」の指導 ⑦ 特別支援教育に関する研修の充実	
北杜市教育委員会	中学校	高根中学校	学びの意欲を高める、学習指導と評価活動の発展		・教科部会を活用させ、教科に重点を置いた授業研究を行う。(研究と実践) ・全体研究会を通して指導と評価のあり方を学び合う。 ・校外の研修、講師の招請、教育研究会の活用等を通じ広く情報収集と交流を行う。	
北杜市教育委員会	中学校	長坂中学校	『確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成』	学習活動を主体的に展開する効果的指導法の研究を通して	「研究仮説」を、「互いに学び合える学習集団を作り、学ぶ意義を理解させ、自己を表現する力を養えば、確かな学力が身につく主体的に学ぶ生徒が育つであろう」と設定した。「主体的に学ぶ生徒」を育てるために、「確かな学力」が必要である。そしてその「確かな学力」を身につけるために、その原動力として「学び合える学習集団」「学ぶ意義の認識」「豊かな表現力」が必要であると考えた。具体的には次の4つについて取り組む。①各学級でQ-Uアンケートなどをもとに分析をし、互いに学び合える集団づくりを進める。②班学習やTTガッテン講座などの少人数学習を充実させる。③学習の意義・目標・内容などを理解させ、見直しをもって学べるよう、「学習のしおり」や単元のガイダンス資料等を使って授業ガイダンスを工夫する。④自分の考えを伝えるために、朝読書や班学習に取り組む。	(国)学力向上拠点形成事業 11月9日金
北杜市教育委員会	中学校	泉中学校	助け合い、学びあう生徒の育成	教科や領域の指導をとおして、思いやりの気持ちを育てる	二年間にわたる「福祉教育」では、疑似体験や福祉施設への交流訪問を実施しながら心の教育を行ってきた。また、校内でのボランティア活動だけでなく、地域のボランティア活動への参加が定着してきたことも大きな成果である。研究を通して、学校教育目標にある「豊かな人間性」や「主体性」の育成へと迫ることができたと思われる。しかし、高齢者や障害者に対する「思いやりの心」は形成されつつあるが、分け隔てなく誰に対しても向けられるまでには結びついていないのが現状である。そこで、これまでの研究成果をベースに「思いやりの心を持った生徒」の育成をテーマに研究を推進していきたい。さらに、福祉教育だけでなく教科や領域においても、積極的に他と関わりをもちながら学習を進めていけるようにしていきたい。そのなかで、思いやりの心をもって、助け合い、主体的なキャリア教育の視点をふまえ、啓発的体験活動の充実を目指し、職場体験のあり方などを探る。	(県)キャリア教育実践プロジェクト
北杜市教育委員会	中学校	白州中学校	一人一人の夢と希望を育むキャリア教育の充実	系統的な啓発的体験活動を生かす指導		(国)キャリア教育実践プロジェクト
北杜市教育委員会	中学校	武川中学校	生きる力をはぐくむ学習指導の充実		昨年度は学習集団の工夫を中心に研究を行い、コミュニケーションをとりあう授業を実践してきた。今年度は、昨年度の研究をさらに進め、集団での学習において、考えを深めさせるための工夫を研究していく。本校は、1教科1人という現状であるが、全職員が全生徒の授業を行っている利点を生かし、学習指導を重点に、1人1実践を行って、研究を深めていく予定である。	(県)キャリア教育実践プロジェクト
北杜市教育委員会	中学校	小淵沢中学校	生き生きと主体的に学ぶ生徒の育成	意欲を高める指導の工夫をとおして	昨年度までの研究の成果をもとに、一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導を充実させ、基礎基本の理解と定着を図る取り組み、さらに、指導と評価の一体化を図り学力の向上に取り組みむとともに、教師や仲間と関わり合いながら主体的に学び、意欲的に課題を追究できる生徒の育成をめざしたい。 ①協同的な学びの場の設定。 ②適切な目標分析・指導計画の吟味と学習形態の工夫。 ③授業の中で計画的に評価活動を組み入れる工夫。 ④授業参観週間を設け、一人一実践を行う。	
北杜市教育委員会	中学校	甲陵中学校	人間性豊かな生徒の育成	道徳の授業等の実践を通して	①生徒の実態の把握 心の教育において、支援し伸ばしていくべき課題を洗い出し、教職員間で共通意識をもつ。それを道徳の授業等の構成を考えていく上での材料としていく。 ②理論研究 文献や実践発表、適宜指導助言者(指導主事やスクールカウンセラー等)を招く等、道徳の授業における題材の設定や生徒へのアプローチに関する学習や研究を進める。 ③一人一実践(研究授業等) 学級担任はもとより、校長、教頭以下全ての教職員が何らかの形で道徳や学活の時間を使って、全員で作り上げ研究を深めていく。 ④家庭や地域との連携 道徳、学活の授業に家庭や地域社会の参加協力を呼びかけ、有効な活用法を	
山梨市教育委員会	小学校	加納岩小学校	豊かな学力の育成	「学びの共同化」を図り、意欲的に学ぶ子供をめざして	子どもたちの学びの意欲を高めるために、授業の中に「学びの共同化」を図り、わかるようになった、できるようになったという学びの実感をもてる授業をつくりたい。 *自分の考えをもち、表現できる子どもを育てる。 *意見の交流を図り、高まり合うことができる授業をつくる。 以上を研究の目標に据え、昨年度試案としてまとめた「共同化を目指す子ども像」を検証していく。そのために、子どもの実態を知る手がかりとして「学習感想」を大切に、個々の学びの様子を見取っていく。また、意見の持たせ方、交流のさせ方、教師の支援のあり方、班学習のあり方についても理論学習を進	
山梨市教育委員会	小学校	日下部小学校	「確かな学力」を保障する指導の研究	「書く活動」を通して、「伝え合う力」を育む指導の工夫	昨年度は、国語、道徳、学級活動において討議的授業を切り口として、低・中・高の実態を考慮した伝え合う指導の工夫に取り組んだ。今年度は、書いて考える学習指導に視点を置き、さらに確かな思考力・表現力を高めたいと考える。そこで、国語科を主としながらもそれぞれの教科の本質を生かす「書く活動」の工夫を行い、書いたことを元にして伝え合う力につなげる方策を探っていきたく考え、本主題を設定した。 研究の具体的内容については、①「書く活動」についての理論研究・学習会 ②「書く活動」についての実態調査 ③実態調査に基づいた授業実践と指導法の	
山梨市教育委員会	小学校	後厩敷小学校	自ら授業を創る子どもの育成	子どもの姿容の明確な把握をもとに「国語力」を育てる国語科の授業づくりを通	子どもの姿容の明確な把握についての研修会 子どもたちの国語力についての学習状況の把握と分析 つきたい力を明確にした国語科の授業実践 特別支援教育についての研修会	

山梨市教育委員会	小学校	日川小学校	学び合い、生き生きと活動する児童の育成	「伝え合う力」を育てるための指導の工夫 「書くこと」からのアプローチ	・授業実践 ・年間指導計画を見直し、同じ国語科の「話すこと」や、社会、総合、道徳など体験的な活動と関連を持たせる工夫をする。 ・個人カルテや評価をより使いやすいものへと工夫する。 ・視覚的な資料を作り、どの子にもわかりやすい授業を心がける。 ・一斉指導の中で、個別指導を意識する。指導案の中に明記する。 ・言語環境を整える 子どもたちの「書きたい」「伝えたい」思いをかき立て、書いたことが評価され意欲へつながらせるような支援をしたい。書いたものを巡って子どもたち同士が話し合うことでお互いの理解を深め、認め合い、それぞれの自己実現につながるように仕組みたい。今年度は特別支援教育も初年度なので、この視点からも授業を考えていきたい	
山梨市教育委員会	小学校	山梨小学校	子どもたちの意欲を高める評価方法の工夫	達成感をもてる評価方法の実践を通して	子どもたちの学習意欲を高めるための評価方法について実践していく。子どもたち一人一人が学習の達成感を感じ、より意欲的に取り組めるような方法で、日々実践できる方法を探っていく。子どもたちにとってよりよい評価方法の工夫に取り組むことにより、子どもたちの学習する意欲はさらに高まっていくと考えられる。 ＜具体的内容＞ ①指導(支援)と評価の一体化、指導過程における評価などについて学習会を行う ②評価を工夫した授業実践を行う	
山梨市教育委員会	小学校	八幡小学校	生きる力を支える豊かな心を育むための指導の工夫	命の大切さを学ぶ体験活動を通して	「命の大切さを学ばせる体験活動」の教育課程の作成と実践に取り組む ア各学年の体験活動の洗い出しと教育課程の見直し イ学年に応じた、体験活動の設定 ウ体験活動の実施と検証	命の大切さを学ばせる体験活動推進校
山梨市教育委員会	小学校	岩手小学校	生き生きと学習する児童の育成	伝え合う力の向上をめざして	昨年度は国語と算数の教科において、子どもの実態や教科の特性を考えながら、話し合いの仕方について手だてを工夫することによって、子ども達の伝え合う力を伸ばすことに取り組んできた。その結果、子ども達は発言の仕方が分かるようになったり、発言するための考えを持てるようになってきたりしているが、引き続き継続指導が必要な状況である。また、自分の意見を持ったり、深まりのある話し合いをしたりするためには、まず人の話を聞くことが大前提となるが、その「聴く力」を育てていくことの必要性も強く感じた。そこで今年度は、「伝え合う力」についての児童の実態調査・分析を基に、「聴く力」の定着に向けての手だての工夫・話し合いの仕方の指導の工夫・自己評価能力の育成という3点を中心に取り組む中で、伝え合う力の向上をめざし、主たる課題である「生き生きと学習する児童の育成」を実現していきたいと考えている	
山梨市教育委員会	小学校	牧丘第一小学校	書く力を高める国語科の指導と評価に関する研究	スキル学習と形成的評価の工夫をととして	・「書くこと」についての理論研究。 ・アンケートを実施し、各クラスの実態把握をする。 ・学習指導要領の「書くこと」の内容を系統的に把握し、基礎・基本の着実な定着を目指して、児童の実態に基づいた年間指導計画を作成する。 ・課題を解決するためのスキル学習の開発 ・書く力と意欲を高める評価方法の工夫	
山梨市教育委員会	小学校	牧丘第二小学校	主体的に学ぶ児童の育成	数学的な考え方を育む算数科の指導方法の工夫	「解決について見通しを持ち筋道を立てて考える力」を中心にする「数学的な考え方に視点を当て、その力の育成を図ることを目指し研究を進める」。 ・「数学的な考え方」「算数的活動」についての理論研究 ・算数的活動を充実させるための指導の工夫(授業研究・授業実践) ・考える力を支える計算力を高める指導の工夫	
山梨市教育委員会	小学校	牧丘第三小学校	学ぶ力が高める指導の工夫	～朝の習熟学習時間の活用とわかる授業作りを通して～	本校は、昨年度しっかりした学力をつけたいと考え授業研究を中心に、学習習慣の育成、目次計算や漢字前倒し学習、低学年からの辞書の活用など様々な取り組みを試みた。本年度は昨年度の研究をさらに継続発展し、基礎学力を確かな力として定着させるとともに、学ぶ意欲を持って自ら課題解決していく力をつけていきたい。そのために、朝の習熟学習の時間を設定し、全校で「読む・書く・計算する」力を確実につけるよう取り組んでいきたい。また、児童自ら、授業がよくわかる、勉強ができるようになったと実感できる学習指導を重点に置いて授業研究し、学ぶ意欲を高め自ら課題解決していく力	
山梨市教育委員会	小学校	三富小学校	進んで学び、高め合う児童の育成	聴く・話す力を中心にした国語力の向上をめざす手立てを通して	伝え合う力の基礎である国語力を向上させることで、豊かな人間関係が構築され、集団内の言語活動、とりわけ話し手・聞き手相互の向上を目指すコミュニケーションが行われ、少人数のよさを生かした望ましい学習集団を築いていくとともに、一人一人が確かな学力を習得し、主体的に学んでいく児童を育成することにもつながっていくのではないかと考える。具体的には以下のような内容である。 (1)国語力に関する理論研究をおこなう。 (2)国語科を通して、国語力の向上を図るための授業研究・授業実践への取り組み。 (3)聴く・話す力向上の取り組み	
山梨市教育委員会	中学校	山梨南中学校	真理を求め、自ら考え、正しく判断し、進んで学習する生徒の育成	探究心をはくむ学習活動の推進	(1)思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質と能力の育成 ①「思考・判断・表現などが必要となる課題解決的な学習の推進」 学習形態の工夫も含め、考える時間を確保し、学んだことや経験から正しく判断し、表現することを通して、課題を解決する。 ②「自分自身の生活との関係で考えたり、表現したりする授業の工夫」 自分の生活とのかかわりで学習対象に接し、自分の考えや感情を表現することによって関心や意欲を高め、自ら考える態度の育成を図る授業の工夫 ③「発表や話し合いなどにより、学びの質を高める指導の工夫」 自分の考えと他者の考えを比較検討するなかで、確かな学びとなるような指導の工夫 (2)指導と評価の一体化を図り、フィードバックを充実させることによる基礎・基本の定着 ①「生徒の発言・発想のもとになっている既習知識を生かすような支援 生徒の学習上のつまずきの分析と指導の工夫 ②「評価内容及び評価方法の改善 定期テスト、単元末テストなどの出題についての改善 実技テスト、パフォーマンス・テストなどのテストについての改善	(国)学力向上拠点形成事業 6月22日
山梨市教育委員会	中学校	山梨北中学校	確かな学力向上を目指す学習指導に関する研究	学ぼうとする力を高めるための指導を通して「理解力や表現力などの国語力の向上に関する研究をふまえて」	(1)一人一人の個性を大切にする学級経営 一人一人の個性を大切にし、お互いに高めあえるような学級とはどのような学級か、そのような学級を経営するには、どんな方法があるのかを、講義なども含めながら検討し、実践していく。 (2)基本的な生活習慣と学習習慣の確立 望ましい生活習慣と学習習慣(学校生活の過ごし方、チャイム着席、あいさつ、発言の方法、ノートのとり方、話の聞き方など)について、山梨北中の方針を教師全員で確立(確認)し、どのような方法で、どのように身につけさせていくのか、検討・実践する。 (3)個に応じた教科指導 個に応じた教科指導の視点は、次に示す4つである。これらは、昨年の各教科の研究結果に基づいており、今年度も継続・見直しをする必要がある事項と考える。 ①評価を生かした指導の改善 ②少人数指導・コース別学習など学習形態の工夫 ③個に応じた指導のための教材開発や、学習過程の支援の工夫・改善 ④学びの概念の充実	

山梨県教育委員会	中学校	笛川中学校	一人ひとりの学習意欲を高め、主体的に学習に取り組む生徒の育成		教科で授業研究を実施し、生徒の学習意欲を高める指導法を研究し、また学力検査の分析を通して基礎学力の向上を目指す研究を行う。具体的には全体研究と教科指導研究会(国・数・英研究部と教科研究部(各教科))と学年指導研究会という部会での研究を行う。教科指導研究会では基礎・基本の確実な定着を目指し、全国学力調査やCRT検査などの結果を分析して生徒の実態把握を行い、指導計画や指導方法の修正をはかる。また教材・教具の工夫を行い、生徒の学習意欲を喚起したり、基礎学力の向上をはかる。学年指導研究会では各学年に分かれ、放課後や長期休業中に生徒達がわからないところを教職員に聞く機会を設けたり、総合的な学習の時間や特別活動の時間で外部講師や卒業生による講話、体験入学、職業体験や職業調べなどを行い、3年間を見	「確かな学力」ステップアップ事業
甲州市教育委員会	小学校	塩山南小学校	意欲的に生活を創り出し実践していく子どもの育成	国語力の向上を目指した学習指導法の工夫を通して	これまでの2年間、国語力の向上に向けて「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域において研究を進めてきた。今年度はこれまでの成果を活かし「書くこと」の研究をベースに他教科・領域に広げ実践・検証し研究を深める。また豊かな言語環境づくりプログラムへの全般的な取り組み、初任者研修実習校としての授業公開も行う。具体的な内容と方法としては、児童の実態把握、国語力を活かした学習指導法の理論研究、身に付けたい力を定着させるための指導と評価、言語環境づくりプログラムの推進、初任者研修実習校としての授業公開(国語・算数・道徳・特活)である。3年次計画の3年目	
甲州市教育委員会	小学校	塩山北小学校	心豊かにいきいきと学び合う子どもの育成	子どもたちの実態把握と学力の分析を通して	(ア)全員が実践提案していく研究方法とする。 (イ)学力に関する研修会をする。先行研究について話を聴く。 (ウ)今年度は子どもの実態調査、学力の分析をすることにより、研究の柱を明確にしておく。研究の柱を明確に設定できるような段階に至ったときに、研究仮説を設定し、仮説検証を進め研究の深化を図る。	
甲州市教育委員会	小学校	奥野田小学校	基礎・基本の定着を図るための個に応じた指導法の研究(算数科)	～指導方法や指導体制の工夫改善を通して～	①個に応じた指導方法や指導体制について、特に、T・T指導の形態・方法について、学習を行う。 ②低学年・中学年・高学年に分かれ、学年に応じた個に応じた指導法の研究(算数科でのつまずく単元・部分の洗い出しを含む)及び、研究授業・授業実践の検討を行う。(各ブロックの情報交換も行う。) ③研究授業(高学年・中学年・低学年)、授業実践(各クラス)を行い、成果を確かめる。 ④教材プリントの作成を行う。	仲間と学ぶ宿泊体験活動推進事業
甲州市教育委員会	小学校	大藤小学校	主体的に学習できる児童の育成	読む力を伸ばす指導を通して	(1)読む力が高まる国語科の指導方法を探る。 ①理論研究及び学習を通して、共通理解を図り具体的な指導法を探る。 ②読み取り指導の工夫-読む力を育てるための授業改善-をすすめる。 ・教材分析の方法や読みが苦手な子への指導法を学び、授業に生かす。 ・研究授業や、一人一実践の公開授業をし研究を深める。 ③語句を増やすための指導法を探る。 (2)読む力を支える日常的な指導に取り組む。 ①音読指導の工夫 ②視写指導の工夫 ③読書活動の工夫・充実	(県)小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
甲州市教育委員会	小学校	神金小学校	心豊かな児童の育成	道徳の授業の充実と、学校・家庭・地域が連携した道徳教育をめざして	スタート時点で児童の道徳性検査を実施し、その結果を分析する。そこから本校児童の道徳性の実態を把握すると同時に、課題の洗い出しを行う。それを生かして全体計画の見直しと年間指導計画の見直しを行っていく。また、それと並行して、地域を巻き込んだ道徳教育のあり方や人材活用と地域の教材化などについての学習を深め、道徳の授業を工夫していく。そしてそれを研究授業や個人実践の中で検証していく。さらには、ブロック内の中学校と互いに道徳の授業を参観し合うなどして小中の連携を図っていく。年度の終わりにも道徳性検査を実施し、児童の実態の姿を見取り、来年度の研究につなげていく。	小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
甲州市教育委員会	小学校	玉宮小学校	人間性豊かに主体的に生きる児童の育成	道徳の時間の指導の工夫を通して	豊かに主体的に生きる児童を育成するために、道徳の時間の指導を研究する。 ①理論研究…道徳の神髄や興味を持って取り組める授業の研究 ②実態調査…アンケート等を職員、児童、保護者に行い、児童理解や求める児童増を確立する。 ③研究授業 研究授業…研究仮説に添った授業を実践し、検証する。 授業研究…一人一実践を基本とし、授業を通して学び合う。 保護者等に授業を公開する。 ④学級経営的な視点による、日常継続的な指導を行う。(互いに認め合い、学	小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進授業
甲州市教育委員会	小学校	松里小学校	子どもたち一人一人の学力を高める研究	学びの意欲を高める指導法の工夫	昨年度まで「学びの意欲向上推進授業」研究指定校でした。図画工作科・算数科における学びの意欲を高める指導法の工夫の研究を今年度も引き続き行い、児童の主体的な学びを指導支援していく。 具体的な内容としては、1)主体的な学びを育てる学習過程の工夫 2)学びの意欲を高める学習指導の工夫 3)指導と評価の一体化を柱とし、2回の研究授業を行う。	
甲州市教育委員会	小学校	井尻小学校	意欲的に取り組み、自ら追求する児童の育成	国語力を伸ばす指導の工夫・改善を通して	「国語力向上に向けた指導」と「国語力を支える環境の充実」の2本の柱に取り組むと同時に、それにまたがる役割としての「読書活動の推進」を進め国語力の向上を目指す。授業研究では、「読むこと」の領域を切り口として、読みの広まりや、深まりにつながる指導過程、指導形態、指導技術など指導の工夫に取り組み、言語環境の整備にも本年度は力を入れていきたい。	
甲州市教育委員会	小学校	勝沼小学校	豊かな学力を育む指導のあり方	～国語力の向上をめざした授業実践と言語環境づくりを通して～	本校の子ども達の実態分析の中で明らかにした結果を基に、「話す・聞く」の領域の指導を通して主に「表現力」を、「読む」領域の指導を通して主に「語彙・思考力」の向上を目指してきた。本年度も、理論研究を進め、児童の実態を把握し、ねらいと評価を明確にした国語科の一人一授業実践に取り組む。身に付けさせたい言語能力を学年の発達段階を考慮しながら系統化し、豊かな言語環境づくりの取り組み(読書活動など)を通して研究を深めていく。また、研修や公開研究に参加し、全体での交流報告をしていく。	
甲州市教育委員会	小学校	祝小学校	「子どもを高める指導法の研究」	～一人一実践の取り組みを通して～	①一人一実践(年間8回) ・本研究は、仮説を立て、検証していく「仮説-検証」型の研究ではなく、授業実践を中心とした事例研究とする。 ・無難に流れる授業よりも、見る職員が勉強になるような「主張・テーマ・思い入れ・投げかけ」がある授業を心掛ける。 ②国語力の向上について(年間3回) ・年度初めに、言語環境実態調査を行って、課題点や解決策を話し合う。 ・県教委からの冊子のプログラムに則り、豊かな言語環境づくりに努める。 ・指導主事を招聘して、学習会を行う。 ・年度末に再び、言語環境実態調査を行い、実態を見取り、反省を行う。	
甲州市教育委員会	小学校	東雲小学校	豊かな人間性を育む国語科の研究	「書くこと」の指導を通して	①「書くこと」の基礎基本や「書く力」を伸ばす活動についての理論研究 ②「書くこと」についての意識調査・実態調査を全学年で行い、考察する。 ③「書くこと」の指導・評価の研究 ・国語科の目標、内容及び言語活動例がそれぞれ2学年ずつまとめて示されていることから、低・中・高の3つのブロックを設置し運営する。 ・昨年度の「聞く・話すこと」の領域研究、昨年度の「読むこと」の領域研究の進め方にならって、教科書から「書くこと」の単元を洗い出し、「書くこと」の評価 規準表(教師評価・自己評価)を作成する。	
甲州市教育委員会	小学校	葦山小学校	意欲的に活動する子どもの育成	国語科における「読むこと」の授業を通して	国語科における「読むこと」とは何かを文献や講師から学ぶ。 「読むこと」についての子どもの課題、教師の課題を明らかにし、そのことを中心にして研究授業を年間2回行う。得られた成果と課題を共有する。 一人一実践ということで、全員が授業をする。	

甲州市教育委員会	小学校	大和小学校	学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成	国語力向上のための学習指導の工夫	○研究の見直しおよび内容 ・昨年度取り組んできた「読むことに対する意欲を高める」学習指導の工夫についての研究の上に「話す力」「聞く力」をつけていくために、言語環境の見直しを全教育課程から行い、また、国語科の「話す力」「聞く力」の単元の洗い出しをしてそれぞれの学年の発達段階に応じた指導のあり方について探る。 ・実態調査やアンケートなど、1年間を通じての姿が見られるように実施する。 ・読書推進の取り組みについて、継続と充実をはかる。 ○研究方法 ・児童の実態把握・授業研究による検証・一人一実践と報告・文献による学習 ・「低」「高」のブロックによる授業研究活動の実践 ・読書活動推進ブロックを有効に機能させ、それぞれの方向から読書活動の推進をはかる	
甲州市教育委員会	中学校	塩山中学校	心豊かに、生きる力をはぐくむ教育の研究	国語力を基盤とした、心をたがやす道徳と基礎・基本の定着を図りながら	本校はH16,17年度「国語力向上推進事業」拠点校として、またH18年度「心に元気を育む道徳教育推進事業」推進校として、それぞれ研究を進めてきた。本年度はその成果を基盤として、ここ数年の課題である「生徒の学力向上」を中心におき研究を進めることとした。特に「学びの主体となる生徒の質的向上」「各教科における現状把握・指導法改善」「学びの基本となる授業規律の確立」の3つの視点からアプローチを図り、研究を進めていく。	
甲州市教育委員会	中学校	塩山北中学校	自ら学び、進んで活動できる生徒の育成	確かな学力を育てる学習活動の取り組みと道徳教育の実践を通して	今年度より「小中連携 ふるさとやまなし道徳教育推進事業」として3カ年にわたって「大藤小・神宮小・玉宮小」と連携し、道徳教育の推進と授業の実践を実施することになった。各学校との連絡を密に行いながら地域へ発表や普段の行事を通しての道徳教育を行いたい。 第二に「学力向上、国語力向上」を図るため「読書活動の充実」や「自ら進んであいさつをする生徒」を育てたいと考える。そこから子供達に豊かな言語環境を育みたいと思う。そしてリフレットにあるようなアンケートを利用することで実態の把握と共に問題点の発見の手だてとしたい。	(県)小中連携 ふるさとやまなし道徳教育推進事業
甲州市教育委員会	中学校	松里中学校	「生きる力を育成する教育の創造」	～進路指導年間計画の作成を通して～	(1)進路指導全体計画の作成 学校の教育活動全体を通して行う進路指導を統括する全体計画を作成する。本校が目指す進路指導の方向およびそれを実現するための指導内容を含め、人間としての在り方や生き方を踏まえた進路指導を推進するための計画を作成する。 (2)基礎学力充実のための取り組み 国語・数学・英語の三大テストに全校で取り組み、家庭学習を定着させ、基礎学力の向上を図る。特に未定着生徒への支援の手だてを工夫して取り組む。 (3)豊かな言語環境への取り組み 本校では「生きる力」のもととなる「確かな学力」を身につけるために、平成15年度より基礎学力の確実な定着を目指して研究を続けてきた。そして、昨年度は文部科学省よりキャリアスタート推進地区の指定を受け、キャリア教育に取り組んだ。本年度はキャリア教育をより充実させるために、生き方について考える機会・体験を通じ、そこに道徳的価値を付加することにより、心豊かな生徒を育てることができるであろうと考えた。 研究内容としては、生きる力に視点をあてた授業の展開を工夫する。そのための具体的な取り組みは、○総合的学習のテーマ・指導計画の見直しをし、3年間の系統的な指導計画の具現化。○総合的学習と道徳のリンク(授業研	
甲州市教育委員会	中学校	勝沼中学校	心豊かに「よりよく生きる」生徒の育成	～総合的な学習と道徳の連携をとって～	現代社会においては、国際化・情報化・少子高齢化が急速に進み、社会が急激に変化している。この変革期を生きていく生徒には、変化に対応し、主体的に行動できる自己の確立が強く求められる。そのためには、自学自習の意欲を持たせつつ身につけさせる「確かな学力」と「豊かな心」を兼ね備えた個性ある、人間像を理想としなければならない。 (1)自己教育力を高め、確かな学力の定着を図るための研究 ①大和中生徒が習得しなければならない学習内容を明らかにし、その定着を図るための研究。 ②教科学習において基礎的・基本的内容を定着させるための指導法・指導形態の工夫。 (2)豊かな心の育成を図るための研究 ①読書活動の推進	
甲州市教育委員会	中学校	大和中学校	「自己教育力を高め、「心豊かな生徒」の育成		現代社会においては、国際化・情報化・少子高齢化が急速に進み、社会が急激に変化している。この変革期を生きていく生徒には、変化に対応し、主体的に行動できる自己の確立が強く求められる。そのためには、自学自習の意欲を持たせつつ身につけさせる「確かな学力」と「豊かな心」を兼ね備えた個性ある、人間像を理想としなければならない。 (1)自己教育力を高め、確かな学力の定着を図るための研究 ①大和中生徒が習得しなければならない学習内容を明らかにし、その定着を図るための研究。 ②教科学習において基礎的・基本的内容を定着させるための指導法・指導形態の工夫。 (2)豊かな心の育成を図るための研究 ①読書活動の推進	
笛吹市教育委員会	小学校	石和南小学校	豊かな心をもち自ら行動する子どもの育成	考える力を育む算数の指導を通して	1.一人一人の学びを深める算数科の教科指導の研究と授業実践 2.指導と評価の一体化の研究 3.児童の算数の学力の分析と学力を伸ばす授業づくり 4.一人一人の学びを深め、豊かな心を育む集団づくり 5.一人一人の生き方につなげる教育環境作り	
笛吹市教育委員会	小学校	石和東小学校	「自ら学び、自ら考え、生きる力を持つ児童の育成」	～「仲間とかかわり合う活動」を生かした国語科の学習を通して～	本校では、「自ら学び、自ら考え、生きる力を持つ児童の育成」をテーマに、「仲間とかかわり合う活動」に焦点を当て、研究を進めている。「仲間とかかわり合う活動」について本校では、『お互いの考えを交流し、コミュニケーションをはかる活動』とらえている。今年度は、児童の実態の分析から、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、すべての教科においての基本と考え、国語科を通して研究することとした。国語科の目標にある「伝え合う力」と本校の「仲間とかかわり合う活動」を関連づけて考え、お互いを尊重しあえる学習集団をつくるなかで、自分の考えを相手に伝えるために、様々な言語活動を通して、コミュニケーションをはかることにより、本校のめざす子ども像に近づけるとともに、国語科の基本的な知識や技能を身につけさせたいと考えている。	
笛吹市教育委員会	小学校	石和北小学校	自ら学び、自ら考える子どもの育成	子ども同士が、思考を伝えあう活動を取り入れて	◎子ども同士が、思考を伝えあう活動を取り入れた教科の授業づくり ・1単位時間の中での「伝えあう活動」を取り入れる目的を明確化する。 ・評価基準と照らし、学習内容の基礎基本と伝えあう活動の関連を明らかにする。 ・思考を持たせるための学習履歴の活用について研究を深める。 ・伝えあう場を保障するための学習集団、学習形態の工夫について、研究を深める。 ◎伝えあう活動を支える「聞き方」「話し方」を身につけさせるための手立てを実践し、情報交換を行う。 ◎縦割り活動を中心とした行事による集団づくり	
笛吹市教育委員会	小学校	富士見小学校	確かな学力を育む学習活動の創造	算数科における、基礎・基本の定着を図る指導方法と、学び合いの場の工夫を通して	算数科の授業づくり ①基礎・基本の確実な定着を図る指導方法の工夫。 ・児童の実態把握と単元の指導目標設定より、基礎・基本の内容を明らかにする。 ・朝の学習の充実、T方式・少人数指導等学習形態の工夫を行う。 ・学ぶことの楽しさや充実感を味わう学習活動の工夫を行う。 ②学び合いの場の工夫。 ・子どもの思考を深め、課題を解決する学び中で、お互いの思いや考えを交流し、高め合う学習の場の工夫を行う。 ③評価活動の工夫。 ・授業の流れの中で、子どもの学びを受け止め、学び合う場を支える評価活動を進める。 ・書く活動を取り入れ、数学的な思考力、変容をとらえる手だてとする。	(県)学力向上拠点形成事業 指定校 公開研究会 11月14日
笛吹市教育委員会	小学校	石和西小学校	「生きる力」を育む学習活動の創造	互いの思いや考えを交流し、共に学び合う活動を通して	授業づくり部会、集団づくり部会、環境づくり部会の3部会を設定し、生きる力の知徳体の3つの力のバランスよい向上を目指す。授業づくりでは、国語・算数の教科にルーブリックや自己目標、友だちとの学び合う場の設定、意見交流の場の設定などを手立てとして取り入れながら学習を進める。	学習調査の結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究
笛吹市教育委員会	小学校	御坂西小学校	「確かな学力」の定着をめざす学習指導	「一人ひとりがわかる」授業づくりを通して	授業づくり ①基礎的語彙集を活用し、学習指導要領の目標と内容、児童に定着させなければならない基本概念、基礎・基本についての確認し、授業実践に生かす。 ②授業の目標やねらいを明確にして、児童の意欲を引き出し、めあてを意識させる工夫をする。 ③学び合う場を取り入れた授業の展開を工夫する。 ④児童の学習状況を把握し、個への有効な評価・支援の仕方を考える。 ⑤学習意欲につながる自己評価・相互評価を工夫する。 集団づくり 学習環境づくり	

笛吹市教育委員会	小学校	御坂東小学校	命を大切にすることをめざす心をはぐくむ道徳教育	総合単元的道徳学習をとおして	道徳教育において、総合単元的道徳学習の指導計画づくり、道徳の時間の充実、子どもの見取りの3点を研究の中心に据え、子どもに命を大切にすることをめざした研究を推進している。本研究は、今年3年目を迎え、昨年度までの成果と課題を受け、総合単元的道徳学習の指導計画の見直しや、子どもの見取りを具体的にどのように生かしていくのかなどが本年度の研究の中心となる。また、道徳の時間だけでなく、総合単元的道徳学習の指導計画に位置している教科、他領域まで、研究の視点をあてていこうと考えている。	
笛吹市教育委員会	小学校	一宮西小学校	自ら考え、学び合う子どもの育成	対話のある授業実践と個への対応の工夫を通して	昨年度に引き続き本年度も「個への対応」の工夫を行い、「対話」をキーワードとした授業研究を中心とした校内研究を実施していく。また、学び合う授業を構成する基礎となる集団づくりについても、研究していく。 ＜＜研究内容の抜粋＞＞ ・個への対応 異質な児童らが十分探求できる教材の工夫をどう設定するか ・個への対応 個の発言や活動を教師はどうつなげ生かしていくか ・対話をどのように位置づけ、子どもたちの思考はどう変容していったか ・対話の要素の捉え方 (Ⅰ、教材との対話。Ⅱ、仲間や教師との対話。Ⅲ、自分自身との対話。) ・安心して自己表現できる集団づくりをどう育成していくか	
笛吹市教育委員会	小学校	一宮南小学校	生き生きと活動する子どもの育成		(1)授業づくり ・子どもに学習のめあてをはっきり持たせるノート指導やワークシートを活用した授業のあり 方の研究を行う。 ・授業観察の視点に沿って授業分析・考察を行い仮説を検証していく。 ・日々の実践を大切に、日常的な実践交流を積極的に行う。 (2)集団づくり ・学級集団および異年齢集団における、認め合い高め合う集団づくりに取り組む。 ・各学級の様子・児童の様子を全職員で共通理解し合う。 (3)教育環境づくり ・生活習慣の改善を家庭との連携で行っていく。	(国)豊かな体験活動推進事業 ・速くのまら体験活動推進事業
笛吹市教育委員会	小学校	一宮北小学校	「豊かな心を持ち、生き生きと学ぶ児童の育成」	～考えを伝え合い、高め合う活動をととして～	◎研究主題にせまるための手立てを探る(①研究の基本的な考え方について、共通確認を行う。②昨年度作成した金銭教育年間指導計画をもとに、「豊かな心」の育成に関わって内容の見直しを行う。)◎年間指導計画に基づいた実践を行う(①指導計画に基づいた取り組みを行う。②実践の中の一コマを全学年授業公開する。授業公開を全員で見合い、仮説に迫るための手立ての有効性を検証するとともに、ともに学習する機会とする。◎研究を振り返る(①実践を振り返り、成果と課題を明らかにし、新たな研究の方向性を探っていく。) ◎「集団づくり」について(児童会の系列を単位とした小集団の中で「人との関わり合い」を児童が学ぶことをねらっていく。)	
笛吹市教育委員会	小学校	八代小学校	「伝え合い響き合い、生き生きと活動する子どもの育成」	発問の構造化をとおして	1. 授業づくり研究 (1)発問の構造化を子どもの「話し合い活動」とに関わりから、計画段階と授業での実施段階を分析してその有効性を確かめる。 (2)授業での「話し合い活動」の中で、子どもたちが考えを広げたり、深めたりして、お互いの考えを交流し発展させる「話し合いから学び合いへ高める」事例を授業実践を通して研究していく。 (3)授業研究を通して、各学級の子どもたちの実態をとらえる。 2. 集団づくり研究 (1)学級経営案に基づき、学期ごとに成果と課題を確認する。 (2)集団づくりを通して、子どもたちの実態をとらえる。 3. 教育環境づくり研究 (1)地域・家庭との日常的な連携活動の推進をする。(子どもたちの表現力を高めるための連携活動等) (2)保育園との連携活動をする。 (3)学校・家庭・地域との連携による食育の推進をする。	(国)栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業
笛吹市教育委員会	小学校	境川小学校	生き生きと活動し、基礎基本を身につける子どもの育成	自ら考え表現し、基礎基本を育てる指導と評価の工夫を通して	指導の工夫としては、学習過程に「個別に考える」「交流での振り返り」の時間を組み入れ、ノートに考えを書く・子ども同士の関わり合いをする・授業を振り返ることの3点について研究をしていく。 評価の工夫として、子どものノートに見られる考えの記述や学習感想から、教師側としての評価に役立て、子どもも自己評価の手段としていく。 昨年度までの課題を克服すべく、「子ども同士の関わりを研究の中心に据え、交流における指導者の対応の仕方について研究を深めていきたい。	
笛吹市教育委員会	小学校	春日居小学校	「主体的に取り組む児童の育成」	進んでコミュニケーションを図ろうとする子ども、～英語活動を通して～	・国際理解教育のねらいの確認 ・国際理解教育の年間指導計画の見直し (低学年8時間、中学年12時間、高学年35時間の学習展開を作る) ・ALTや地域人材の効果的な活用についての研究 ・単位時間の学習展開についての研究 ・担任(HRT)主導の授業展開とALTの関わり方の研究 ・参考図書による書籍研究 ・先進校の視察(中学校との合同研究会も含む) ・先進校の講師による研修会 ・授業で使える歌やゲームの研修会 ・教師の英語力向上のための研修会 ・授業研究会3回(低・中・高学年1実践ずつ) ・授業で使えるCD。	(国)(19年度、20年度)「わくわくイングリッシュ小学校サポート事業」
笛吹市教育委員会	中学校	石和中学校	主体的によりよく生きようとする生徒の育成	仲間と共に高まる集団の育成、生徒の出番がある授業づくりの工夫	今年度も生徒理解を中心とした集団づくりを継続していきます。日常の学級づくりや学年づくりで、集団生活のマナーや生活上のルールを守らせる取り組みを通して安心して過ごせる学校にしていきたい。生徒会行事や学年行事と連動した学級会活動をどのように仕組むか研究していきます。 授業づくりでは、授業公開を一人一実践として取り組みます。昨年度は教科内で代表が授業提供していましたが、今年度は全員が授業提供することでお互いの良いところを見合い吸収していく機会を多く設定します。サブテーマにあるように、生徒にわかりやすい授業やたのしい授業を心がけて、生徒の出番がある授業づくりを実践していきます。	キャリア教育実践プロジェクト 公開日未定です。
笛吹市教育委員会	中学校	御坂中学校	「基礎学力の定着と向上を図るための実践的研究」	～生徒理解を生かした授業づくりのあり方を探りながら～	研究仮説を「生徒の学習活動の場面において、生徒実態に即した効果的な学習指導上の工夫をいれば、学習内容に対する生徒の理解が深まり、基礎的・基本的な学力を身につけた生徒の育成が図られるであろう。」とし、以下の内容に重点を置いて研究する。 1. 各教科ごとに、①基礎基本の明確化、②生徒の実態把握と課題の見出し、③学力の向上を図る取り組み、④検証のための資料の収集と分析。以上の4点を行う。2. 研究授業を、一人一実践という形で実施する。全校体制での研究授業も1,2回行う。 3. 「基本的生活能力アンケート」を実施しその活用を図る。 4. 生徒理解等に係わる学習会(校内研修会)を実施する。 5. キャリア教育の推進を図る。 6. 「豊かな言語環境づくり」の推進を図る。	(国)キャリア教育実践プロジェクト
笛吹市教育委員会	中学校	一宮中学校	「課題に気づき、主体的に活動する生徒の育成」～学びの意欲向上を図るための指導と評価の一体化を通して～		昨年度までの研究を踏襲し、各教科の目標を明確化し、評価規準表をもとに基礎的・基本的な事項を意識しながら計画的に授業を進めたい。 「授業づくり」と「集団づくり」の2本柱で行い、教科においてはシラバスの有効活用により学習の見通しを持たせる工夫、発表の工夫(新たな場面を設定して)、評価の再確認をする。集団づくりでは生徒の実態を把握しKJQ調査を昨年同様に実施して、生徒と活動する時間を多く持つ工夫をする。今年度も昨年度の研究をさらに深めていきたい。	

笛吹市教育委員会	中学校	浅川中学校	『確かな学力の育成』～かかわり合いの工夫を通して～	「かかわり合いの工夫を通して」	1. 授業づくり ①授業実践の工夫 a)学習過程にかかわり合いの工夫を位置づけた授業実践の工夫 b)生徒一人一人の「論理的な力思考」の育成と「意欲化」への手立ての工夫 c)目標に準拠した分析的な評価と指導の一体化の工夫 ②授業実践 初任者授業研修会における示範授業 ③言語環境教育に関わる実態アンケートの実施・分析 2. 集団づくり 学級経営に関わる学習会・教育相談に関わる学習会・特別支援教育に関わる学習会	山梨県小中学校体育連盟保健体育研究推進校
笛吹市教育委員会	中学校	春日居中学校	「生きる力」を育む教育課程の創造	確かな学力の定着と豊かなこころの育成をめざして	本年度の研究は、「国語力の向上」と「キャリア教育」の2つを柱として進めていきます。国語力の向上では、「確かな学力」を身に付けるために必要な力としての「国語力(考える・感じる・想像する・表すの4つの力)を向上させることを目標に、朝学習や各教科の学習の中で指導法や学習内容などの工夫を研究していきたいと考えています。キャリア教育では、本年度キャリア教育の研究指定を受け、キャリア教育についての総合的な学習や実施にあたっての方法等を研究・実践していきたいと考えています。	(国)キャリア教育実践プロジェクト(公開の予定無し)
芦川村教育委員会	小学校	芦川小学校	自ら学び、自ら考え、主体的に活動する子どもの育成	問題解決的な学習過程で関わり合いの工夫を通して	(1)『生活科』、『総合的な学習の時間』について ・問題解決的な学習過程を取り入れた授業づくりを行ったり、地域や保護者の方に協力をお願いしたりする。 ・児童一人ひとりの実態を適切に把握し、関わり合う力を育てる。(特に友達への考えのよいところを発表しながら、自分の中に取り入れるなどの過程を授業の中に取り入れるよう工夫する。) ・形成的評価(ルーブリックなど)を取り入れた指導と評価の一体化に取り組む。 (2)各教科について ・問題解決的な学習過程を取り入れた授業づくりを行う。 ・児童一人ひとりの実態を適切に把握し、関わり合う力を育てる。 (作業的、体験的、具体物を用いた活動を自ら学び考える過程に取り入れ、また、友達への考えをよく聞きながら、自分の考えと比べることができる過程を授業の中に取り入れるよう工夫する。)	
芦川村教育委員会	中学校	芦川中学校	地域に根ざし、生きる力をもつ生徒の育成 ～教科指導と生徒会活動の取り組みを通して～		(1)「教科指導」において ①本校の生徒1人1人についての継続的実態の分析 ②基礎・基本の定着のための具体的手立ての検討と実践 ・定期的な評価活動の積み上げ ・授業形態の工夫 ③個を生かす指導、意欲を高める指導を目指した授業実践(1人1実践) ④生徒を肯定的に見取る力のスキル・アップ(研修を含む) (2)「生徒会活動」において ①生徒理解に関する学習会や研修	
市川三郷町教育委員会	小学校	上野小学校	生き生きと学び合う子どもの育成をめざして	実践を通して「学び合う姿」をどう育てるか	○学び合うについて学習、研究、実践し、学び合う子どもを育てる。 ・「学び合う」について学習、研究、実践する。 ・豊かな言語環境づくりプログラムについて学習を深める。 ○「特別支援教育」について学習を深め、支援のあり方などを探る。 ○1人1提案して研究を深める。	
市川三郷町教育委員会	小学校	大塚小学校	表現力(言葉を通して人とかかわる力)の育成をめざして	対話を意識した授業づくりを通して	「心の教育」の充実を図り、何でも話せる温かな学級づくりをめざすとともに、対話を意識した授業づくりに努める。相手の思いや考えをくみとって聴いたり、正しく聴きとったりする力や相手や目的に応じて、自分の思いや考えを自分の言葉で伝える力を身につけ、言葉を通して人とかかわることができるようにしていきたい。 (1)対話を意識した授業づくり (2)何でも話せる温かな学級づくり (3)コンピュータを効率的に操作するための研究 (4)児童教育の研究(保健教育研究センター)	
市川三郷町教育委員会	小学校	市川小学校	自ら「見つめ、調べ、まとめ、表現する」子どもたちの育成を目指して	評価と指導の一体化を図った授業の創造	①指導と評価と支援の計画の作成や、評価記録簿や座席表などによる評価情報の蓄積により、指導のいきる評価のあり方を考える。 ②個に応じた指導方法や学習形態、教材教具の工夫により、評価をいかした指導のあり方を考える。 ③学力の育成を支える環境づくりとして、学級づくり、地域や家庭との連携のあり方を考える。 ④学力検査や実態調査を実施して実態を把握した上で、今後の課題を見だし、指導にいかす。 ⑤算数を研究対象とする。	(国)学力向上拠点形成事業 11月16日
市川三郷町教育委員会	小学校	市川南小学校	「考える楽しさを実感し、知識を総合的に活用できる子ども」の育成	～子どもたちの学ぶ意欲と過程を大切に～	本校では、学力を「教科などで習得した知識を総合的に活用しながら、自分を主体的に表現できる力」と考え、考える楽しさを実感させながら学力の向上をめざす研究を行う。①学力についての学習②本校児童の実態把握③本校児童に付けたい学力④学習意欲と過程を大切にしたい取り組み方法の研究⑤実践授業⑥先進校視察を行う。また、評価制度、特別支援教育、国際理解教育、道徳についても研修を深める。	
市川三郷町教育委員会	小学校	市川東小学校	思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成	「読む力」をつける指導と言語環境整備を	(1)読む力(読解力)を高める授業の研究・実践 (2)言語環境整備の取り組み	
市川三郷町教育委員会	小学校	六郷小学校	かかわり合い豊かに学ぶ子どもの育成を目指して	～各自で設定する～	1. 授業や授業以外のすべての活動の場で「人」「もの」「こと」とかかわり合う場を設定し、子どもの変容を見取りながら、豊かに学ぶ子どもの育成を目指す。 ・全体研究テーマに関わって、個人研究テーマを各自設定し、それぞれの切り口から テーマに迫れるようにする。 ・各クラス、研究授業または実践報告を行い、課題に対してどのように取り組んでいるか全体研究の場で検討し、さらに個人研究課題を深められるようにする。 2. 特別支援について学習し、子どもの理解を深める。 3. コンピュータの基本操作やいじりかノートの活用について学習する。	
市川三郷町教育委員会	中学校	三珠中学校	心豊かでたくましく主体的に活動する生徒の育成	「生きる力」に焦点をあてた授業(教科・道徳・特別活動)の展開	「生きる力」をばくむための教科・道徳の授業の展開の工夫(生徒が学習に興味関心を持って取り組む意欲を喚起する場面)をおこない、生徒が心豊かでたくましく主体的に活動できるよう実践を通して明らかにする。特に教科や道徳などの授業公開をおこない、生徒のみならず職員相互の実践力をつけるようにしていきたい。	
市川三郷町教育委員会	中学校	市川中学校	「生き生きと意欲的に学び合う生徒の育成」		①「小集団学習」にかかわる研究成果を総合し、各教科の特性に合わせた方法を創り上げながら、「学び合い」に発展させる具体的な方策を探る。また「学び合い」を支える学級を中心とした人間関係づくりの推進。 ②「自主学習ノート」の取り組みを全校的に展開する。「学習の手引き」の有効活用と内容の見直し。 ③定期テスト前および長期休業中の学習会をより有効なものにするための研究。日常的な学習相談を充実させるための研究。 ④生徒の学習意欲に関する調査やNRT等の調査結果を分析・考察し、その結果を教科指導や学習指導に生かす方法を探る。	(国)学力向上拠点形成事業(確かな学力育成の実践研究事業) 11月22日



市川三郷町教育委員会	中学校	市川南中学校	「自ら考え、判断し、主体的に活動できる生徒の育成」	～関わり合いに重点をおいた学習指導の工夫～	各教科・道徳等の指導において、生徒が自ら学びを実感できる指導過程の工夫、特にかかわり合いに重点をおいた学習指導の工夫を、実践を通して明らかにする。研究仮説は「各教科・道徳等の指導において、個々の生徒の実態を把握し、かかわり合いに重点をおいた学習指導を工夫、実践していくことにより、生徒の学習意欲が喚起され、主体的に学習し『確かな学力』を身につけさせることができるであろう。」である。具体的な研究内容は以下の通り。 1. 「確かな学力」の定着につながる各教科の授業の研究と実践 2. 「主体的にたくましく生きる力」を育成するストレス・マネジメント教育の研究と実践 生徒はかかわり合いながら学ぶことにより、互いに認め合い、自分のよさに気づき、「楽しさ」を実感できる。そのためには様々な要素とのかかわり合いの工夫が重要。かかわり合って学ぶ場の工夫により、自ら考え判断し、主体的に行動しようとするたくましさや養うことができるという考えのもと、授業実践を通して「確かな学力」を育成する。	
市川三郷町教育委員会	中学校	六郷中学校	心豊かで意欲的に活動する生徒の育成	確かな学力を身につける指導方法や学習形態の工夫と改善	・生徒の実態調査や学習状況の把握 ・各教科での指導方法、学習形態、評価・支援の日常的な工夫の具体化 ・各教科における「基礎的、基本的内容」「身につけさせたい力」についての検討 ・特別支援教育推進のための研究、情報交換、学習会の実施 ・先進的な学校の実践研究の視察 ・小中の連携を図り、研究と実践の交流の場の設定	
増穂町教育委員会	小学校	増穂小学校	実感のある学びをはぐくむ授業の創造	考え方を明らかにする算数の学習を通して	○問題の解決過程を重視して、問題の解き方を子どもに見せさせる授業を仕組み、どのように考えて立式したり、解答したりしたのかを明らかにできる子どもの育成をめざして授業改善に取り組む。  ○「できた」「わかった」という、克服感や充実感をともなう算数の授業づくり。 ○教材を工夫し、基礎学力の確実な定着を図る算数の授業づくり。 ○体験的な学習や問題解決学習を導入して、応用力のある学力を培う算数の授業づくり。 ○かく・話す・聞く力をはぐくむ算数の授業づくり。 ○単元の特性を把握し、十分な教材研究にもとづく算数の授業づくり。	
増穂町教育委員会	小学校	増穂西小学校	確かな学力を育てる授業の創造	算数科において、「考える力」(論理的思考)を育てる指導法の研究	本年度も、確かな学力の中の「考える力」に焦点を当てる。授業の中で、学び合いの場を設定し、教師の指導法についての研究を進める。 研究内容は、 1. 子どもの考える力を(論理的思考力)を育てる指導。 * 授業づくりの視点に立った実践 * 子どもひとり一人の学びの記録を残す。 * 個に応じた指導で授業を作っていく。 2. 複式学級・小規模校の特性を活かした学習指導。 * 個人がのびる指導、大集団の中でも力が発揮できる子どもを育てる。 * 効率の良い複式の学びの検討。 3. 特別支援教育について講師を招き、理解を深める。	
増穂町教育委員会	小学校	増穂南小学校	「主体的に活動し、共に学び合う子」	～自分の考えを伝え合える子どもを育てる～	○授業以前としては、信頼関係を築き、児童が自分の思いを伝えることができる学級経営に心がける。 ○授業の中では、児童の興味・関心を高めることができるような授業を工夫する。また、児童が積極的に関わり、自己表現しやすいような場の設定や、発問の工夫をしていく。自己評価や相互評価を行い、児童が自他の良さに気づけるようにする。 ○個のみとりとして、児童一人ひとりに視点を当て、個の変容をみとる。	
増穂町教育委員会	中学校	増穂中学校	「主体的に学び、活動する生徒の育成」	～聴き合い、学び合う授業の創造～	研究内容(柱) (1)教師全員が「協同的な学び」という点に焦点を当てた授業づくりを行う。 (2)授業を通して、「子供を中心に語る」研究会を行う。 (3)「背伸びとジャンプ」をさせる課題づくりの研究 (4)本校生徒の生活および学力の実態を把握する。  研究の進め方 私たち教師は、どのような授業をすれば生徒が意欲的になり、また、学力の向上に結びつくかということ、研究者(学者)のように詳しく述べることはできない。しかし、日々の授業を実践している私たち教師は、どのような授業をすれば生徒が意欲的になり、また、学力の向上に結びつくかという研究者の言葉に耳を傾けることはできるし、その理論を実践することもできる。 増穂中学校では、一昨年度から、東京大学大学院の佐藤学氏の考え(理論)を中心に授業づくりを行っている。その理論を信じ、校内研究(研修)を進めてきている。	
諏訪町教育委員会	小学校	諏訪小学校	生き生きと学び合う授業の創造		○国語科・算数科の授業づくり ・授業のペースとなるもの(流れ・発言・ノート・板書・規律・他) ・学習意欲を高める工夫 ・学び合う授業を行うための手だて ・家庭学習・朝学習の充実と授業との関連 ○昨年度実施した標準学力調査の詳しい分析 ○今年による学習状況調査の実施と分析 ○全国学力・学習状況調査結果の分析 ○児童の実態分析に基づく授業改善と検証	(国)学力調査の結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究
諏訪町教育委員会	小学校	諏訪中部小学校	ともに学び、すすんで考える子どもの育成	少人数学級で、一人ひとりを生かす多様な考えを引き出す指導を通して	諏訪中部小学校は全校24名の少人数である。長所としては、児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな指導ができる。一方、短所としては、教師対児童の個別学習になってしまい、子どもどうしの学びあいや話し合いが少なくなってしまうがらである。また、考え方が狭くなり、固定化しまいがちな面もある。そこで、国語科に焦点をあて、多様な考えを引き出す指導の研究をすすめる。	
諏訪町教育委員会	小学校	五開小学校	夢を育む「生活科」と「総合的な学習の時間」の充実	～国語科との関連の研究を通して～	・「生活科」「総合的な学習の時間」のねらいを達成するための単元設定 ・「生活科」「総合的な学習の時間」と各教科の発展的内容との関連 ・学びを支える国語力の充実(実態把握・理論研究・授業実践・言語環境の整備) ・地域との関わりを生かした「生活科」「総合的な学習の時間」の実践	
諏訪町教育委員会	中学校	諏訪中学校	「生徒一人ひとりに学びを保障する授業づくり」	～活動的で協同的に表現的な学びをめざして～	「活動的で協同的に表現的な学び」、その中でも特に、「協同的な学び」の実現をめざすことで主題に迫りたいと考えている。具体的には、小グループでの学習を導入することにより、一人ひとりが安心して声を発し意見が言えるような授業づくりをめざす。そのことにより、一つの教室の中で能力の異なる生徒同士が学び合いながら、お互いが他者を認め合い補完し合いながら学びあう生徒の姿が見られるようにしたい。 手だてとして、1時間の授業の中に「活動(個人作業)」「協同(小グループ活動)」「表現(互いに表現し交流して吟味する活動)」の3要素を組み入れる。また、できるだけ生徒が「背伸びとジャンプ」できる課題(教科書をやや越えたような課題)を設定し、活動を通して「背伸びとジャンプ」できるようにする。	(国)「学力調査の結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究」(県)「確かな学力」ステップアップ事業
早川町教育委員会	小学校	早川南小学校	「自ら取り組み、生き生きと活動する児童の育成」	対話力を高める授業実践、活動意欲を高める取り組み	これからの未来を生きて子どもたちに必要な対話力を高めるために「対話力を高める授業」を研究し、その研究を実践に生かしていく。本年は、実践に重点を置くと共に、教育課程における対話の授業の精選、評価カルテと評価規準の継続利用と内容についての検討、内容の精選を行っていく。また、もう一つの柱である「活動意欲を高める取り組み」では、小規模校の特色を生かした各活動が子どもたちにとってよりよい活動になるようにさらなる継続研究をおこなっていく。	
早川町教育委員会	小学校	早川北小学校	小規模校の特性を生かした「人間力」向上のための実践	0	「生きる力」の理念を生かしつつその理念を発展させたものを「人間力」とらえ、「人間力」の向上を研究の中核に位置付け今後継続研究を図っていく。その際、研究の起点となるのが児童数16名という本校の実態であろう。それは小規模校という特性を生かした「濃密な教育」という表現に集約される。本年度は、国語力向上・フィットネスクラブの充実・児童会活動の充実・家庭、地域との連携、協働の4つを研究の重点とし、個々の児童に対して細かな実態把握をし、全教育活動を通して「人間力」向上の道筋を明らかにしていきたい。	

早川町教育委員会	中学校	早川中学校	ふるさと早川に誇りを持ち、たくましく生きる生徒の育成	表現力の向上を目指して	①表現力を高める工夫・研究を進める。 各教科・道徳・総合的な学習の時間等の授業研究を通して「生徒の表現の場」を「仕組み」によって、生徒の表現力を高める指導の工夫をしていく。特に生徒同士のかかわり合いの中で、生徒の自己表現が高められていく指導を工夫していく。	
身延町教育委員会	小学校	久那土小学校	「学びの共同体」としての学校をめざして		「学びの共同体」としての学校をめざし、1「学び」を中心とする授業の実践、2教育の専門家として育ち合う「同僚性(collegiality)の形成、3保護者の学習参加の3つを柱として研究をすすめます。本校で考える「学び」を中心とする授業とは、①子どもたちが意欲的に学び、夢中に学ぶ授業、②子どもたちが他者に心を開きながら学ぶ授業、③子どもたちに確かな学力をつける授業の、3つの条件を満たす授業です。私たちは、以下の4つを具体的課題として、教育の専門家としての自覚を持って研修に努めたいと考えます。①個人研究テーマにもとづく研究を推進し、その成果を日常的に交流し合う。②一人が最低1回以上授業を公開し、互いに学びの場とする。③他者から学ぶ機会をつくる。④授業研究の日常化と授業研究会の充実。昨年度に続き、今年度も東京大学大学院教	身延町教育協議会センター校 10月13日(土)
身延町教育委員会	小学校	下部小学校	自ら考え主体的に学ぶ児童の育成	確かな学力を保障するための授業の工夫 表現力を高め、かかわりを深めるために->	・学力を保障する取り組みの根幹をなす「国語力」の基礎基本を各学年の発達から検討していく。それを広く他教科や特別活動へとかかわらせていくようにする。 ・多様な表現力を期待するために、かかわりを深めるための教材や課題を工夫する。 ・協同的な学びの場を授業の中に取り入れていくことで、ひとり一人の子ども思いや考えを深めるようにしていく。また、教師ひとり一人が研修の充実を図り自身の教師としての力量を高めていく。 ・学年の発達段階や児童の実態により、研究テーマに向けての取り組み方に違いがあるので、学年別に期待する子どもの姿と、身につけたい力や学び方を具体的に示した個人研究テーマや内容を設定して、それぞれが、「表現力を高め、かかわりを深める実践」を目指すようにする。	
身延町教育委員会	小学校	西嶋小学校	「学ぶ意欲を支える指導法や環境づくり～その開発と追求～」	上記研究主題にアプローチするべく個人がテーマを設定し研究する。そのため各自の研究テーマが副主題になる形です。	研究内容・方法 □理論研究 ・各自が自分の課題を明確にし、個人テーマ(教科・領域など全ての教育活動をオープンで)にそった提案(設定の理由・根拠となる理論・具体的な方法・各自の研究計画など)をもとに交流研究会をもつ。 ・一年間で自分自身をエキスパートに育てる。 □授業研究 ・日常の実践を公開することをめざし、一人1回以上の授業公開を積極的に行う。 ・個人研究を個人にとどめず校内研としての共有財産として活用していく。 □実技・随地研修 ・各個人・研究員・実技研修など随地・随時研修を深め広げ、児童のさまざまな実態に応じた支援・指導法について研修する。 ・各学年(6学年)が国語・算数の授業研究を行う。各クラスの実態に合わせ、児童が学習や生活の中でつまずき、抱えている「困り感」の背景を解明し、適切な具体的な支援の手だてを探る。全職員で研修を重ね、共通理解を図る。 ・実態把握のための観点として、学習・行動・コミュニケーション・対人関係等について、チェックリストを行い、調査を実施する。また、年度末には国語と算数の学力テストを行う。 ・放課後教室を開設し、子どもたちの指導に全職員が交代で当たる。授業だけでは十	
身延町教育委員会	小学校	静川小学校	「一人ひとりに適切な教育支援の在り方」	～支援の積み重ねを大切にしたい授業づくりを通して～	○児童のさまざまな実態に応じた支援・指導法について研修する。 ・各学年(6学年)が国語・算数の授業研究を行う。各クラスの実態に合わせ、児童が学習や生活の中でつまずき、抱えている「困り感」の背景を解明し、適切な具体的な支援の手だてを探る。全職員で研修を重ね、共通理解を図る。 ・実態把握のための観点として、学習・行動・コミュニケーション・対人関係等について、チェックリストを行い、調査を実施する。また、年度末には国語と算数の学力テストを行う。 ・放課後教室を開設し、子どもたちの指導に全職員が交代で当たる。授業だけでは十	
身延町教育委員会	小学校	原小学校	学ぶ楽しさを感じ、確かな学力を身に付ける子どもの育成	共に学び高め合う算数科の授業を通して	○学び合う関係づくりを仕組んだ授業の工夫 ・教材研究と教材開発 ・学習指導方法の工夫 ○学習意欲の活用 ○算数科学力テストの結果の考察と活用 ○学ぶ意欲に関わるアンケート調査 ○基礎・基本の定着を図る。朝ドリルの方法と内容	
身延町教育委員会	小学校	下山小学校	主体的に生きる力を育む教育活動の創造	一人ひとりがかかわり合い、学び合う授業づくり	1. 研究の重点 ◎「主体的に生きる力」を育む授業をつくる。 □授業づくりのキーワード 主体的 一人ひとり かかわる 学び合う ①題材に主体的にかかわる授業 ○子どもにとっての学びの必要性を考え、重点題材を設定する。 ○導入段階を大切に、ゆとりで行う。(学ぶ意欲の喚起・学びの見通し・多様な考えの保障・課題の設定等により、学ぶ意欲の意識化をはかる) ○具体的な活動・体験を取り入れ、体全体を使った授業をつくる。 ○立ち止まり、振り返りと見通しの確認を行いながら、子どもが自分で進む学習過程を仕組む。 ②一人ひとりの学びをつくる授業 ○一人ひとりの実態を把握し、どの場面でどの子どもがこだわられるか、活躍できるかを見通し、授業を組織する。(個々の気付き・変容・考えやその背景にあるものを授業に生かす。 ○自分なりの考えをもつ力を伸ばす。 ○伝えることを意識して表現する力を伸ばす。 ③子どもどうしがかかわり、学びが深まる授業 ○聴くこと・受け入れることができる態度を育て、多様な考えを保障する。 ○自分なりの考えを互いに互いの考えを折り合わせていく。(教師がつなげる一子どもどうしがつなげる) ○個の学びと集団の学びとが行ったり来たりしながら、学びが深まっていく。 ○学習集団づくりの工夫をする。(お膳立てをしすぎない。子どもの力を信じる。試行錯誤・障害も必要) ④よい授業を支える学習環境をつくる。 ○何でも言い合える学級集団、互いを認め合える温かい雰囲気のある学級集団づくり ○子どもたちの多様な考えが引き出せる場の設定 ○地域、保護者等を生かした学習の場の設定 ○教材、教具の有効な活用 2. 研究の内容及び方法 □児童の実態に即したブロック研究の充実 ○一人ひとりの児童や学級の実態把握を把握する。 主体的に学びを楽しむ児童を育てるために、昨年度の研究をもとに、国語科の読解力に焦点をぼして次のような研究に取り組む。 (1) 説明的文章を読み取るための効果的な指導の研究 (2) 読書活動を推進する手だての研究 (3) 家庭・地域との連携を推進するための研究 研究仮説・・・説明的文章を読み取るためのわかりやすい方法を提示すれば、子どもたちは積極的に文章に立ち向かう意欲を高め、学びを楽しむ	①(峡南教育事務所)体験的な学習「小中学校児童生徒に対する農業啓発事業 平成19年度勤労生産学習推進校②(農務事務所)はつらつ農業担い手確保育成推進事業 小中学校農業教育推進地区活動事業
身延町教育委員会	小学校	身延小学校	学びを楽しむ子どもの育成	説明的文章を通して読み取る力を高める指導法の研究	主体的に学びを楽しむ児童を育てるために、昨年度の研究をもとに、国語科の読解力に焦点をぼして次のような研究に取り組む。 (1) 説明的文章を読み取るための効果的な指導の研究 (2) 読書活動を推進する手だての研究 (3) 家庭・地域との連携を推進するための研究 研究仮説・・・説明的文章を読み取るためのわかりやすい方法を提示すれば、子どもたちは積極的に文章に立ち向かう意欲を高め、学びを楽しむ	
身延町教育委員会	小学校	豊岡小学校	豊かな人間性の育成をめざす教育	言語活動を通して、自ら学ぶ力を育む授業の創造	子どもたちが自分の生き方、ものの見方や考え方、感じ方などを大切にし、一人一人人間として、生涯にわたって、心豊かにたくましく主体的に生きていくためには、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力の育成が求められる。 これらの力を育むためには、確かな言語の力をつける教育が必要と考えます。そこで、国語の三領域一事項を中心とし、低・中・高の三ブロックに分かれ、実態を考えた、言語を基盤とした活動を仕組み、自ら学ぶ力を育む授業づくりを目指し、研究していく。	

身延町教育委員会	小学校	大河内小学校	異文化を知り、進んでふれあおうとする子どもの育成	英語活動・国際理解教育を通して	英語の学習を通して外国の生活や文化に触れ、親しみながら、異なった文化を持った人々と将来にわたって共に生きていこうとする子どもたちを育てることを目標とする。英語を学ぶことはその背景にある外国の文化を知ることであり、ひいては我が国日本の文化や伝統を意識し再認識することでもある。この学習を通して、自分たちの国のことを誇りをもって外国の人たちに語れる子どもたちの育成も理想に掲げながら、「英語活動・国際理解教育」を推進したい。 研究内容 ・英語活動のカリキュラムの検討と評価の観点の研究 ・教材開発と収集・整理 ・AETと学級担任の英語学習授業における役割分担や関わり方の研究 ・クラスルーム・イングリッシュの利用場面の研究 ・国際交流会の企画・運営・成果のまとめ ・各種の研修に参加し成果をまとめる	(国)わくわくイングリッシュ小学校サポート事業
身延町教育委員会	中学校	久那土中学校	「学び」を中心とした授業の創造	「背伸びとジャンプ」のある授業をいかに創造するか 「聴くこと」「つなぐこと」「戻すこと」の研究と実践 「聴き合う関係」と「話し合う	「誰もが安心して生活できる学校」をつくることを究極の目標とする学校改革の中心に校内研究を位置づけ、日々の授業の改善と改革を研究していく。従来行事や部活動などを中心に行われてきた「仲間作り」を授業の中でも行えるように、またすべての生徒の学ぶ権利を保障し、「背伸びとジャンプ」が起きるように、日々の授業に小グループによる協同学習を取り入れ、その際に与える課題の設定について実践しながら研究していく。職員「同僚性」を育てるためにすべての職員が自分の授業を公開しあう。授業公開の後には、「生徒の学びがどうだったか」を中心に研究会を持つことにする。	自主公開研究会 11月9日
身延町教育委員会	中学校	下部中学校	確かな学力を持つ生徒の育成を目指して	「聴き合い、学び合う」授業の創造	生徒が「聴き合い、学び合う」という意欲を持ち「確かな学力」を身に付けるためにはどのような実践をおこなえば良いのかを教科をの授業を核として研究する。	
身延町教育委員会	中学校	中富中学校	わかる授業・生き生きとした生活の創造	確かな学力を身につけ、主体的に課題解決に取り組むこととする生徒の育成	授業（指導法の改善）を通して基礎学力の向上を図り、課題解決力を育てることに重点をおく。具体的には、1時間の授業において、教師の課題設定、生徒の様々な意見や考えを交流する場面をつくることを工夫していく。また、学習シラバスを作成・利用することで授業改善を進めたい。	自主公開（身延町研究センター校） 11月2日
身延町教育委員会	中学校	下山中学校	「自ら考え、主体的に判断し、行動できる生徒の育成」	自己肯定感を育む教育活動を通して	①「学びの共同体」についての理解を図る。 i. 「学びの共同体」についての学習会を持つ。 ii. 「学びの共同体」の授業を行っている先進校を視察する。 iii. 全員が授業を1回は公開する。また、公開授業後に、生徒の活動を中心とした意見交換会を行う。 iv. 授業公開の際に指導主事を招聘し、助言・指導を仰ぐ。 ②「特別支援教育」に関する学習会を行う。 i. 講師を招聘して、軽度発達障害に関する知識を得る。 ii. 特別支援学級生徒の支援方法に関する情報交換及び支援方法の研究をする。	
身延町教育委員会	中学校	身延中学校	自ら学び意欲的に活動する生徒の育成	確かな学力の向上を	(1)個に応じた学習指導・学び合いについて 個に応じた学習指導は、授業研究の柱として継続して研究していく。それによって自己肯定感や学ぶ意欲を高めていく。さらに、小グループの学習の中で、お互いを認め合い理解の早い生徒と理解の遅い生徒が協同的に学ぶことによって、理解の遅い生徒が理解の早い生徒に支援を受けながら学ぶことができ、学力の底上げを目指す。 (2)実践検証としての「道徳」と「学活・総合的学習をとおしての生き方学習」 ア「道徳」については、学校・家庭・地域の相互連携による「豊かな心をはぐくむ実践活動」の研究推進を図る。 イ各学年、啓発的体験学習を取り入れたキャリア教育等の進路指導や総合的な学習を年間計画に基づき実践し、課題などを明確にし、精選や見直しを考えていく。なお、学年の実態を考慮し、昨年と大きく計画・内容を変更する場合は、	県指定キャリア教育実践校 公開日なし
南部町教育委員会	小学校	陸合小学校	基礎学力の定着を図る教育実践の手だて		基礎学力（読み・書き・計算の力）の習熟と確実な定着を図るために、具体的な到達目標や取り組み内容、指導方法を検討し、実践し、評価する。 基礎学力として、主に次のような「読み」「書き」「計算」の内容に取り組む。 ・「読み」・・・音読（暗唱や文章をすらすら読むこと） 読書量を増やす など ・「書き」・・・当該学年までの漢字の読み書き 文章等の表記 など ・「計算」・・・四則計算の習熟 など 今年度新たに基礎学力到達目標を各学年で設定し、目標達成のための取り組み内容、指導方法を個人一ブロック一全体の順で検討し、実践を授業公開や研究授業の形などで公開、提案していく。 そして、実践したことについての評価をおこなう。また、評価については児童による評価も行うこととする。	
南部町教育委員会	小学校	栄小学校	互いに学び、高め合い、生き生きと活動できる子どもの育成	国語力を育てる学習指導	○国語力についての共通理解を図りながら指導に当たる。 ○国語科における各領域及び言語事項の身につけさせる力の重点化を図る。 ○子どもたちの実態をしっかりと把握し、指導と評価の一体化を図る。（教師は、次の指導に生きた評価を行う。また、子ども自身の自己評価の方法を工夫して積み重ねていくことにより、学習内容の習得をより確かなものにする。） ○国語力向上に向けた授業実践の工夫をする。（話し合い活動の質を高める工夫、一斉指導や教師と子どもとのビストン対応から、子ども同士が互いに考えを言い合ったり、質問し合ったりしながら授業を深めていく工夫。）	
南部町教育委員会	小学校	富河小学校	『心豊かに、たくましく生きる子どもの育成』	「生命を大切にし、つながり合える子ども」	(1)道徳教育の充実 ①児童の実態をふまえた道徳の授業の実践と保護者への公開。 ②地域人材を活用した道徳の授業の実践。 (2)小・中学校の連携の確立 ①小・中学校の9年間を見通しての道徳の指導計画の作成。 ②研究の成果の検証方法を探る。 （3年間同一の内容のアンケートを子どもや保護者に実施し、そのデータの比較をして意識の変容を検証する。） ③小・中学校がお互いの授業を教科にかかわらず参観し合い、交流と研究を深める。 ④小・中学校合同での行事の実施または小・中学校の行事での交流。 (3)家庭、地域と連携した道徳実践活動の推進 （小中連携推進協議会を活用しての取り組み） ①小・中学校が同じ視点で基本的な生活習慣の育成をする。 ②地域ぐるみの道徳実践活動の実施。 （保護者、地域児童生徒を含めた心の教育懇談会や講演会の実施など） (4)公開研究会への参加 ①積極的に公開研究会に参加していく。あわせて校内研究会において還流報	小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
南部町教育委員会	小学校	万沢小学校	個を大切にしたい指導・支援の在り方を追求する	国語科における基礎・基本の定着をめざして特別支援教育についての学習を深める	・国語科における基礎・基本についての共通理解を図る ・国語科の基礎的な学習内容を一人ひとりが確実に理解するために、子どもたちの実態を把握する ・国語科における基礎・基本の定着のために、日常活動や授業実践の工夫をする ・「特別支援教育」について学習し、教師一人ひとりの認識を高め研究を深める。また、全校児童一人ひとりに目を向け、児童の実態を把握し問題解決のための話し合いの場を設ける。	

南部町教育委員会	中学校	南部中学校	自ら学び、進んで活動できる生徒の育成	基礎・基本の定着を図る指導の工夫	○各自の担当教科へ集中できるような体制をつくり、基礎・基本の定着と学習意欲の向上に向けての指導方法のあり方を探る。 ○具体的に数字であらわれるような目標をたて、実現に向けて手立てを工夫する。 ○学習規律の徹底(タイム席、忘れ物、あいさつ等)を図る。 ○文系ブロック、理数系ブロック、技能系ブロックに分かれ研究を行い、ブロック単位での授業実践を行う。	
南部町教育委員会	中学校	富河中学校	21世紀を主体的に生きる生徒の育成	道徳教育を中心とした「学びのある生徒」の育成	(1)家庭、地域との連携の上に小中学校が連携し、義務教育9年間を見通した道徳教育を実践する。 ①学校における道徳教育の充実と道徳の授業の公開。 ②家庭、地域と連携した道徳実践活動の推進。 (2)小グループ活動を取り入れた「学び合い」の授業を実践する。	小中連携ふると やまなし道徳教育推進事業
南部町教育委員会	中学校	万沢中学校	確かな学力を定着させるための研究	学び合いのある授業を通して	各教科で、学び合いのある授業づくりを行っていく。具体的には、○全員が必ず授業を公開する、○授業後の研究協議会を充実させる、○各自が個々のテーマ(その教科でどのような生徒を育てたいか)に沿って研究を行う。 授業の3要素①「活動」(作業的な学習)、②「協同」(小グループの話し合い)、③「表現の共有」(発言・アイデアの交流と共有)を毎回の授業ですべての教師が、すべての教科で取り組んでいく。また、子どもに「えっ?と思うような」高いレベルの課題を提示し、よくわからないと頭を捻っている生徒の声を拾いながら、グループの話し合いを行い、グループ全体を高めるよう指導する。 研究授業では、ビデオ撮影を行い、子どもたちの学びの姿と、与えられた課題が適切であったかどうかを協議会の論議の焦点としていく。	
富士吉田市教育委員会	小学校	下吉田第一小学校	かかわり合いながら、意欲的に学ぶ子どもの育成	～学び合う集団づくりを旨とした活動を通して～	1「学級集団の状態を把握する」方法について研究する。(関わり合い度・意欲度) 2「学び合う集団」について、指導要領の目標・内容・文献や実践例などをと、下一小のとらえを明確にする。 3本校のめざす「学び合う集団」になるような学級経営・授業展開のあり方を模索する。	
富士吉田市教育委員会	小学校	下吉田第二小学校	生きる力を育む学習活動の創造	～国語科「読むこと」の指導法を通して～(2年次)	(1)理論研究 ・文献、資料等を参考にした理論研究 ・国語科の「読むこと」に関する実態を把握した上で、各学年の基礎・基本を明らかにし、「読むこと」の単元の教材研究を通じた指導法の工夫 ・発段階に応じた学年の指導法の工夫 ・評価基準や評価方法について研究 (2)授業実践を通して仮説を検証 ・年間学習指導計画にそった指導の検討(学年)と授業実践 ・学年・学校全体での1実践の取り組み (3)日常での取り組み(国語科・教科外指導) ・豊かな感性の育成するための読書指導の取り組みの工夫 ・基礎基本の習得に向けた1人1実践の取り組み ※日々の実践発表 ・研修への自主的な参加の推進	
富士吉田市教育委員会	小学校	明見小学校	「国語科における基礎・基本を定着させる指導法の研究」	～「読むこと」の指導を通して～	1. 国語科における「読むこと」の基礎・基本の理論研究と共通理解を行う。指導主事の先生を招聘し、「読むこと」の学習会を開く。 明見小における「読むこと」の基礎・基本を、ブロックごとに考える。 2. 各ブロックで一回ずつ研究授業を行う。二学期の研究授業には、指導主事の先生を招聘し、指導していただく。 3. 授業実践における資料等の保存を行い、次年度以降に有効活用できるようにする。	
富士吉田市教育委員会	小学校	吉田小学校	自ら学び、考え「生きる力」を獲得する児童の育成	人間関係を深める学級づくりを通して	児童と学級集団の理解のために、Q-Uを実施する。Q-Uの結果をもとに、学級づくりのために構成的グループエンカウンターをとられる。またエンカウンターを教科・道徳・特活などに取り入れる。人間関係づくりが、学級づくり業にいかされ、それにより子どもたちがどのように変わったかを検証していく。	
富士吉田市教育委員会	小学校	吉田西小学校	児童の生きる力の育成を目指して	国語科において、わかりやすく伝えるための「書く力」を高める指導法の工夫	・新しい時代の義務教育は、「PISA型読解力」と同じ目的や方向、方法と内容等を、目指すものと判断し、国語科の中で「書く能力」において「自分の意見を明確に書く記述力」を高めるための指導法の研究を行う。 ・「書くこと」に重点を置いた日常的な指導計画と学習指導の工夫を行う。 ・授業場面での評価方法の工夫と、指導への活用を行う。	
富士吉田市教育委員会	小学校	富士小学校	豊かな人間性を培う道徳教育の推進	生命や生き方についてよりよく考えることができる子どもの育成	研究仮説「道徳教育において、生命や生き方について考える機会を増やし、道徳的価値を子どもに心にとらせることにより、豊かな人間性が培われた子どもを育てることができるであろう。」をもとに、以下の内容で研究を進める。 ① 昨年度作成した全教育活動との関連及び小中学校での連携・交流活動を考慮した道徳教育全体計画を見直し、それに基づいた教育実践に取り組む。 ② 学習過程や学習形態の工夫や、子どもたちの実態にあった教材や資料の開発に取り組み、道徳の授業を行う。 ③ 豊かな心をはぐくむ教室環境・学校環境のあり方について検討し、整備していく。 ④ 子ども・保護者の実態を調査し、昨年度との比較の中で取り組みの成果及び課題等を明らかにし、今後の教育活動に活かす。	(国)児童生徒の心に響く道徳教育推進事業 11月22日
富士吉田市教育委員会	小学校	下吉田東小学校	「確かな学力」を育む国語教育の研究	「読むこと」の指導の工夫を通して	本校は、「国語科の基礎学力の向上」に視点をあて、国語科3領域のうち、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の研究・実践を積み重ねてきている。そこで、本年度は、「読むこと」領域に研究の視点を広げることにより、児童の国語力をさらに高めていきたい。 ・学習指導要領、文献等を参考に、「読むこと」の指導内容を確認したり、理論研究を行う。 ・「読むこと」に関する実態調査を実施し、児童の実態を把握する。 ・児童の実態にあった指導方法を研究・工夫する。	
富士吉田市教育委員会	中学校	下吉田中学校	「自ら学び、考え、活動する生徒の育成」	～認め合い、磨き合い、高め合う学級集団づくりをめざして～	①人と関わるためのルールと楽しい人間関係(リレーション)を集団に確立する。 ②授業を通しての学級集団づくり ・授業の中に、互いに認め合い、磨き合う学級の人間関係をはぐくむ学習の場の設定 ③日常生活においての、学級組織の仕組みや活動方法の改善を通しての学級集団づくり ・一人ひとりが大切にされ、居場所のある学級集団づくりを目指す。 ④行事を通しての学級集団づくり ⑤講師を招聘しての学級づくりについての学習会の実施 ・経験や実践のある先生の話から学ぶ。 ⑥学級満足度調査Q-U検査の持つ意味と意義の理解 ・Q-U検査の実施・分析・評価(6月、11月)	
富士吉田市教育委員会	中学校	明見中学校	生徒一人ひとりが自分の居場所をみつけ、喜びを感じ、生き生きと活躍できる学級づくりの研究	生徒一人ひとりが自分の居場所をみつけ、喜びを感じ、生き生きと活躍できる学級づくりの研究	今日、生徒の実態、家庭環境、社会の多様化を見るにつけ、学級づくりに困難な点があると思われる。そのため、学級において生徒一人ひとりに視点が当たったような取り組みが必要であると考え、本校においても、気は配っていても、一人ひとりになかなか目が行き届かないのが現状である。本年度は、「学級づくり」についての研究を行い、より一人ひとりの生きる学級づくりを目指す。目指す学級像は「生徒が自身の目的達成するための行為を、周囲が認めることのできる学級」「教師と生徒のコミュニケーションが意図的・計画的に行われ、お互いの信頼関係ができていく学級」「きちんと授業規律がつけられているなかで、学力を身につけるための雰囲気がつくられている学級」である。 研究会では3つの分科会を設け、その分科会ごとにテーマを絞って研究を行っていく予定である。	
富士吉田市教育委員会	中学校	吉田中学校	居心地が良くやる気のある学級集団づくり	規律づくりとリレーションづくりの実践を通して	「居心地が良くやる気のある学級集団づくり」を規律と関係づくりの実践から研究していく。 日々の学級活動から課題を見だし、課題を克服できる民主的で自治的な集団づくりから、真面目に頑張る生徒の層を広げ、クラスや学年に正義を通す。 学級集団づくりにも焦点を当てて研究していく。まず、生徒の活動の中心となる班のあり方。そして、班長や学級役員の方。そして、討議づくりを通して集団の合意をつくる過程を研究していきたい。	

富士吉田市教育委員会	中学校	富士見台中学校	「豊かな人間性を培う道徳教育の推進」	一生き方について深く考えることができる豊かな生徒の育成	今日の社会では、青少年の集団暴行、殺人、いじめ等、他者の存在や命を冒瀆するような事件が頻繁に見られる。また、自らの命を絶つ行為が連鎖的に行われるなど、人として最もかけがえのないものを大切にできない思い、命を軽んずる風潮がある。これらは、人間関係の構築の貧しさや他者への思いやりやよりよく生きようとする気持ちの欠如等の表れとしてみることができる。 本校の地域社会においても、少子化・核家族化が進み、子どもが祖父母等の近親者の死を目の当たりにすることが少なくなり、死という厳粛な問題について考えたり、生命の有限さや重さなどを理解する機会が減っている。また一方で、子どもたちは殺人の場面を繰り返すような情報や、虚構の世界で作り上げられた「生と死」に頻繁に接している。さらに、情報通信機器などをを用いた生活時間が増加し、人や社会・自然との関わりが希薄になっている。そのため、生命や生き方について考え、豊かな人間性を育むための教育を一層充実させることが求められる。	児童生徒の心に響く道徳教育推進事業 11月22日
都留市教育委員会	小学校	谷村第一小学校	豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成をめざして	食に関する学習や活動を通して	①「食育」について、講師を招いて学習会や学習会への参加、研究会の参加遠流報告などを通して理解を深める。 ②「給食の時間」の目標に基づいて学年ごとの目標や指導の重点を定める。 ③食育の年間指導計画の検証と手直しをする。 ④学校と家庭との連携を図るために、全校一斉で「食育」の授業参観を行い、協力と理解を得られるようにする。 ⑤外部機関との連携を図る。	
都留市教育委員会	小学校	谷村第二小学校	「勉強って楽しい!」「もっと勉強したい!」「子どもたちの喜びの声が聞こえる授業の創造」	コミュニケーション能力を高めるための国語科の学習を通して	昨年度、本校としての「音声言語活動能力分類表」を作成し、それを生かした授業を意識して取り組んだ結果、子どもたちも意識して表現をするようになるなど、子どもたちの言語活動能力は特に向上した。今年度は、昨年度の研究成果を受け、昨年度作成した「音声言語活動能力分類表」の見直しをほかり、子どもたちの発達段階にそくて系統化していく。そして「音声言語活動能力分類表」にもつづく「ふりかえりカード」を作成し、「コミュニケーション能力」を高める手段とした。その達成のためには、学習形態を工夫することも大きな効力を持つものとする。よって、「音声言語活動能力分類表」に基づき「ふりかえりカード」を生かした授業を工夫・実践することにより、子どもたちの主体的な言語活動は活発化し、「コミュニケーション能力」は伸び、自ら学び、自ら考える子どもたちが育つであろうとする研究仮説を設定した。	
都留市教育委員会	小学校	都留文科大学附属小学校	国語科における読解力の育成		国語科において、最も基礎基本にあたる「読解力」に焦点をあて、児童一人ひとりの読解力の向上を目指して研究を進めていく。本年度以下のような内容で研究を進めていく計画を立てた。①NRTテスト(学力テスト)を実施し、「読解領域」の結果を分析し、児童の実態を把握する。②実態に応じた具体的な到達目標を設定する。③具体的な指導法・活動・教材・言語環境などを工夫する。④本校児童に身につけたい読解力について共通理解を図る。(読解について理論研究を深める。)⑤授業実践をする。(低・中・高のブロックごとに公開授業を提案)	
都留市教育委員会	小学校	東桂小学校	自ら学ぶ子どもの育成	「読む力」を高めるための指導の工夫を通して	(1)国語科の「読むこと」の理論研究を行う。 (2)東桂小学校の「読むこと(学術的文章)」の基礎・基本についての共通理解を図る。 (3)東桂小学校の「読むこと(学術的文章)」の学び方のスタイルを考える。 (4)年間指導計画の見直しを行う。(実践記録を取り、次年度に生かす) (5)各ブロックで授業研究を行う。 ・授業公開は低中高学年ブロックごとに一実践。 (6)公開研究会や研修に積極的に参加していく。併せて、全体会において環流報告を行っていく。	
都留市教育委員会	小学校	宝小学校	伝え合う技と力(自己表現力)を身につけ、考えを深め合う児童の育成(3年次計画)	自分で気づいて、自分の言葉で伝えられる子(1年次) 話す、聞くの相互作用を繰り返して小規模の対話ができる子(2年次) 考えを伝え合い、つなげ合って、深めあえる子(3年次)	本研究は昨年度同様、仮説検証型の研究ではありません。従って検証までの道筋を支える一般化された理論を持ちません。明らかにしたい研究内容も、これまでの諸研究で既に明らかになっているものです。本研究では、既に当たり前のよう認められている次の二点を、改めて自らの実践を通して全員が実感し合うことをねらいとし、同時に、そこに迫る過程そのものを研究内容としています。本年度は、昨年度の反省から共通テーマを設けたので、これにもう一点を加えた三点を研究内容とします。 ①「自他の授業を見せ合うことは、確かに学びが多い。」ということに実践的に気づきあうこと。(学校長以下、一人一実践一授業発表) ②自らが迫ろうとする到達イメージに向けて、自分ならではのこだわりを持ち続け児童の実態に応じただてや工夫、素材の調理の仕方にも目を向けることが、どれだけ大事であるかを再認識し合うこと。 ③本校のマイナス実態として懸案だった、自分で気づいて、自分の言葉で伝えられる児童を育む手だてを探る。	
都留市教育委員会	小学校	禾生第一小学校	自ら学び表現する子どもの育成	学び合いを生かした授業を目指して	1. 全員の共通理解を深め、研究の方向性を確認する。 2. 昨年度までの研究成果と課題を明らかにし、本年度の研究に生かす方法を考える。 3. 授業研究を通して研究を深める。 4. 研究成果を、市内の学校や保護者に公開する。 5. 教員の個人研究の成果を発表し合い、教員同士も学び合う。	
都留市教育委員会	小学校	禾生第二小学校	「自ら学ぶ児童の育成をめざして」	～読む力をのばす授業の創造～	国語科の読む力を伸ばすための指導のあり方・工夫について研究を進める。国語科の学習において、様々な文章を正確に読みとることは最も大切なことであり、話す・聞く・書くの力のもことになるものである。 具体的な研究内容として、本校の児童の読みとる力に関する実態を把握する。そして、読みとりに関して課題や伸ばしたい力を明らかにする。次に、課題の克服に向けて、どのような実践が有効であるか指導主事を招請して理論研究を行う。例えば、①国語力とは何か、②読む力と国語力とのつながり、③読む力を中心とした本校児童の課題を克服するための有効な実践や各学年の読むことにかんする具体的な目標の明確化、④読む力を伸ばす指導の研究(授業実践を中心に)、⑤読む力を支え、伸ばす日常の指導(音読、読書指導など)などである。そして、理論研究をうけて、各自一実践の授業研究、また、全体研究授業の実施など、授業実践を中心に研究を進め、成果と課題を明確にしていく。	
都留市教育委員会	小学校	旭小学校	自ら考える児童の育成	「読む能力」を育てる授業づくり	研究仮説を「国語科の読む領域において、説明的文章の読解の各学年相互の目標を達成することによって、自ら考える児童が育成されるであろう」とし、研究の内容を次の通りとした。 ①国語科の「読むこと」の領域に関する理論研究。 ②国語科の「読むこと」の領域において、各学年の目標に沿って学習指導を工夫し授業研究を行う(一人一実践)。 ③先進校の視察に行き、遠流報告を行う。	
都留市教育委員会	中学校	都留第一中学校	「自ら考え、たくましく生きる生徒の育成」	～キャリア教育の実践を通して主体的に進路選択ができる生徒の育成～	柱1 進路指導計画の見直しと推進 柱2 職場体験学習の実施(キャリア・スタート・ウィークの計画と実施)	(国)キャリア教育実践プロジェクト
都留市教育委員会	中学校	都留第二中学校	学級経営において、集団作りを充実させることにより、日常生活で自治の出来る生徒を育てる研究	Q-Uの活用を通して	昨年までの校内研の内容を継承し、豊かな人格の形成のために欠かすことの出ない「人間関係作り」を、学級集団を基本に捉え、Q-U検査を用いて現状分析を行い、その上で「班作り」「リーダー養成」「討議作り」を柱にして、全教師一体となって進めていきたいと考えている。 そのような自治力を持った生徒を育成することは、「自ら課題を見つけ、自ら学ぶことが出来る生徒」の育成にもつながっていくものと考えられる。またQ-Uを年4回実施することで、常に自分の学級の実態を把握し、校訓「日新」にもあるように、日々前進していくことが出来る学級に育て上げることが出来るのではないかと考える。	(文科省)キャリアスタートウィーク推進地域(都留市3中学校)

郡留市教育委員会	中学校	東桂中学校	学ぶ意欲を高める学習指導のあり方	豊かに感じ、深く考える学びの創造とキャリア教育の推進をめざして	1)「基礎・基本」の定着と「わかる楽しさ」を引き出すための教科指導のあり方。 2)生徒の内面に働きかけ、実践力へとつながる道徳指導のあり方。 3)学ぶ意欲を持つ、自治的な学級集団を作るための学級活動のあり方。 4)キャリア教育を推進するための学級指導のあり方。 上記の内容について、日々の実践に重点を置いた研究を推進する。 ①上記研究内容の1)～4)について、それを検証するための授業実践をそれぞれの教師が日常の中で行っていく。 ②研究授業を実施し、可能な限り全員で参観し協議する中で、全体での研究の場としていく。 ③外部から専門的知識のある講師を招き、教師自身の視野を拡大させていく。	キャリア教育実践プロジェクト
道志村教育委員会	小学校	道志小学校	表現活動を進める学習活動の工夫	「言語体験」の充実を基本に	①様々な学習場面において、語彙力などの基礎学力、メモの習慣性、暗唱・音読などの表現活動という観点から観察し、個々及び全体的な特徴を把握する。 ②①で明らかになった特徴を、さらに伸ばしたり、改善したりするための指導内容や方法を考え、1年間の見通しを持ち、計画を立てる。 ③全学年共通で取り組む活動(音読・朗読・群読、メモの習慣化を目指す活動)に関しては、月、学期、年間での到達目標を各学年で設定し、取り組みを行う。 ④授業の検討などで意見を交換したり、授業を見せ合ったりすることで、子どもたちの言語能力を育てる指導法を、お互いに検証し、情報交換する。 ⑤年度途中に実施する学力検査のデータと、年度当初のものと比較し、指導法の有効性を確認する。	
道志村教育委員会	小学校	道志中学校	「自主性を高め、進んで学習する生徒の育成」	～思考力・表現力を高める指導を通して～	(1)教科指導の研究 ・生徒の実態を踏まえ、思考力、表現力を高める工夫について研究する。 (2)授業展開、授業形態、評価等を研究する。 ・授業展開、授業形態、評価等を研究する。 ・各教科ごとに思考力・表現力に関するねらいを設定し、授業実践を通して検証していく。 (3)日常の中での教育活動 ・学習以外の日頃の実践について研究する。	
西桂町教育委員会	小学校	西桂小学校	ゆたかな人間性が育つ国語教育の研究	「言語事項」の指導の工夫を通して	◎国語科の「言語事項」の学習指導の工夫 ・国語科の「言語事項」の各学年の目標に沿って、学習指導の工夫を行い、「言語事項」が含まれた授業研究を行っていく。合わせて豊かな「言語環境」をつくるためのプログラムを実際に活用していく。 ・また、「言語事項」の指導に関わる理論研究及び児童の実態調査を行い、指導の工夫に活かしていく。	
西桂町教育委員会	中学校	西桂中学校	道徳実践を進める学級・学年・学校づくり	自主的・自治的な活動を通してよりよい関係をめざす	1.学級集団づくり(自主的・自治的な活動を通じて)についての研究 ○学級集団の高まりを目指した集団づくりについての実践、課題、疑問などを出しあい、有効な手だてを明らかにしていく。 2.集団づくりと行事とのかわりあいについての研究 ○行事を「集団づくり」の機会ととらえ、リーダーの発掘、指導等、リーダーを育てる方法等を考える。 3.集団づくりのための「道徳の時間」のあり方についての研究 ○集団としての道徳実践力を高めていくための計画的、意図的な「道徳の時間」の仕組みを考える。	
忍野村教育委員会	小学校	忍野小学校	一人一人の「確かな学力」の向上をめざして		教育の今日的課題である「児童一人一人の『確かな学力』の向上を図り、よさや可能性を伸ばすこと」をめざし、研究に取り組む。[児童の実態把握][学びの環境の点検]を通して本校の教育課題を明らかにし、『確かな学力』の向上にむけて効果的・具体的な取り組みの実践化を図る。 ○[学力・学習状況の実態][生活習慣や学習習慣の実態][言語環境の実態]等児童の実態把握と教育課題の明確化 ○[確かな学力の捉え][学習意欲を高める方法][教材の工夫][指導方法の工夫]等 教育課題解決と授業改善に向けた理論研究および実践研究 ○「学びの手引き」の作成と活用、系統的・計画的な「朝学習」「おしの検定」等の取り組み、コミュニケーション能力を育成し「学びの力の向上」を図る取り組みの実践化	(国)学力調査の結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究(県)「確かな学力」ステップアップ事業
忍野村教育委員会	中学校	忍野中学校	自ら学び、主体的に活動する生徒の育成	学びを支える学習集団づくり	(1)学び合える学習集団づくりの研究 昨年度までの研究成果をもとに、学級を主体とした「学習集団づくり」について取り組む。学習集団つまり学級の現状分析を行い、生徒たちが望ましい人間関係を形成できるよう支援し、授業時のルールや規律を定着させ、学び合える学習集団づくりを目指したい。現状分析の方法、授業規律の確立等について学習を深め検討し、日々の授業実践につなげていきたい。 (2)生徒一人ひとりが主体的に取り組める授業づくりの研究 生徒一人ひとりがより主体的に学習に取り組むためには、学習形態についても検討することが重要だと考える。学習に向き合う姿勢の育成を目指し、小グループでの学習活動等について学習を深め、検討していきたい。 (3)教師の指導力の向上に関する実践研究 研究授業を行い、互いに授業を公開することにより、学びあう機会とする。	
山中湖村教育委員会	小学校	山中小学校	共に学び合い、心豊かに生きる子どもの育成	「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心の学習や実践を通して	・「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心・金銭教育について学習する。 ・「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心に関わる児童、保護者への実態調査をする。 ・「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心に関わる年間指導計画の作成をする。 ・「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心を育てる授業実践をする。 ・「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心を育てるために、児童会と連携した取り組みを行う。 ・「人・モノ・お金を大切に、働くことを尊ぶ」心を育てるために家庭と連携し、保護者への啓発をする。	(県金融広報委員会)金銭教育研究校
山中湖村教育委員会	小学校	東小学校	「自ら学び、自ら考え、生き生きと表現する子どもの育成」～国語科の活動を通して～		一人一人が自分の考えを持ち、その考えを広げ、高めるものにするために、「話すこと・聞くこと」の能力を育て、同時に話し合うことの楽しさや他と積極的に関わろうとする態度を育てていきたいと考え、本主題を設定した。本年度は、「友達との関わりを通じた表現力を高めるための指導法を工夫していけば、自分の思いや考えを生き生きと表現する子どもが育つであろう。」という研究仮説を設定し、以下の内容で研究を進めていくこととした。 (1)自分の考えや思いを構築するための手だてについて ○ブロッコごとに仮説を設定し、授業作りを行う	
山中湖村教育委員会	中学校	山中湖中学校	生きる力を育む	～豊かな学び	生きる力を育む学校づくりをすすめるために、授業研究を通して生徒の豊かな	
鳴沢村教育委員会	小学校	鳴沢小学校	確かな学力を身に	算数科における	今年度は数学的な考え方を中心に研究を行う。新たな課題解決場面で既習事項を確	
富士河口湖町教育委員会	小学校	船津小学校	心豊かに生き生きと学ぶ子どもの育成	「確かな学力」の向上を図る指導の研究	◇研究内容 「わかる・できる・楽しい授業」づくりに取り組み、「確かな学力」の基礎・基本である「学ぶ意欲」「表現力」の向上を目指して、個に応じた指導を見据えた指導方法・指導体制の工夫・教材の工夫等の研究を実践的に行う。 ・教員の自主的研修や研究の推進を行い、校内の研修・研究体制を工夫改善することによって児童の学習意欲や知識・技能を活用する力の育成等の今日的な課題に対応できる実践的指導力の向上を図る。 ・学習習慣や規則正しい生活習慣の確立のための指導に工夫を凝らし、家庭と連携して、共同で指導に当たる実践の取り組みを行う。 ・前年度、明らかにした、「学ぶ意欲」の向上を目指した授業づくりにおける「教材研究」「児童理解」「指導技術」の各視点の検証のための授業実践。 ・各種アンケートや検査、学習感想等から児童理解を一層深め、実態に合わせた指導と評価の実践。 ・個に応じた指導の力量を高めるための、評価と指導のあり方。 ・基礎学力の定着を図る指導の工夫と実践。 ・基本的学習習慣や学習習慣の確立のため、家庭との連携による指導の実践。	(国)学力向上拠点形成事業 11月7日

富士河口湖町教育委員会	小学校	小立小学校	子どもたちの基礎学力を向上させるための研究	国語科における「書く力」の育成をめざして	・各ブロック1本ずつ研究授業を行い、検証していく。 ・本校児童の「書く力」について実態を把握し、めざす子ども像を明らかにしていく。 (教師側の評価と児童の自己評価の両方を行う) ・「書く力」についての理論研究を行い、共通理解を図る。(講師を招請する) ・「書く力」を高めるための教材研究を行い、指導方法の工夫をする。 ・一人一つ実践を報告する。	
富士河口湖町教育委員会	小学校	大石小学校	人としての生き方を考え、行動していかうとする児童生徒の育成をめざして	道徳の授業を軸に地域と連携した道徳教育活動の工夫	道徳の授業を軸に、各教科と総合的な学習、特別活動などを通して考えさせ、体験できる活動があれば体験させ、地域を通じ、保護者を重ね、活動の場の環境作りも兼ねて探っていく。このような多様な形で参画してもらい、子どもたちの道徳性を高め、地域に根付いた子どもたちの育成に努める。今年1年目なので、理論研究を中心に校内研を実施する。	小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
富士河口湖町教育委員会	小学校	河口小学校	人としての生き方を考え、行動していかうとする児童生徒の育成を目指して	多様な体験活動とつながった道徳の時間の工夫	①子ども・保護者向けのアンケートを作成し、意識や行動を調べ、その背景や課題等を明らかにする。 ②道徳教育に関わる活動や教科等を洗い出し、小中学校との連携や家庭・地域との連携の在り方を探る。 ③全教育活動と道徳の時間との関連や中学校との関連を考慮した道徳教育のカリキュラムを作成する。 ④地域の人材バンクを作成する。 ⑤先進校の視察や指導主事を招いた学習会などを行い、道徳教育についての理論的研究を深める。 ⑥研究授業を行い、仮説を検証する。 ⑦次年度以降に活用できるように、授業実践の記録や資料を保存し、研究の成果を研究集録としてまとめる。	小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
富士河口湖町教育委員会	小学校	勝山小学校	安全な生活についての意識を高め、自ら実践する児童の育成		(1)各教科・領域における安全教育の実践(授業実践・防犯教室の実施や、様々な場面での訓練(休み時間・放課後・下校時)) (2)学校安全計画の作成 (3)安全管理面での見直し(危機管理マニュアルの見直し・校区の危険箇所点検および安全マップの見直し) (4)保護者・地域と連携した活動の継続警察との連携(防犯教室・交通安全教室) ・PTAとの連携(防犯パトロール) ・地域との連携(ウォーキングクラブや壮年クラブの防犯パトロール) (5)教職員の危機管理能力の向上を図る研修 ・保護者に対する訓練・施設・設備・用具類を備えた訓練等	(国)学校安全研究推進事業
富士河口湖町教育委員会	小学校	西浜小学校	心豊かで生き生きと主体的に活動する子どもの育成	一コミュニケーション能力の育成をめざして	本校は、平成15年度から「心豊かで生き生きと主体的に活動する子ども」の育成を研究主題として取り組んできています。そして、平成17年度と18年度は、同じ主題のもと国語科の「話すこと・聞くこと」の領域で、「伝え合う力」を伸ばすための研究をしてきた。特に昨年度は「伝え合う力」について共通確認を図り、めざす子ども像を明らかにするとともに、授業実践を通じた研究を行ってきた。今年度の研究は、国語科のみならず各教科・領域(すべての教育活動)に広げ、どのような場面でもどのような手だてを組んでいけることが、コミュニケーション能力の育成をめざすために、より効果的であるかを、実践をととして研究していきたいと考える。	
富士河口湖町教育委員会	小学校	大風小学校	自ら考え、自ら実践できる大風っ子の育成	考える力・表現する力の育成をめざした授業の創造(2年次)	①理論研究・主題、副主題についての学習会を行い、共通理解を深める。指導主事や講師を招請し、指導・助言を仰ぐ。 ②児童の実態把握・学力テストやアンケート調査を行い実態を把握し、個に応じた指導の進め方について考える。日常の記録を残す。 ③実践研究・授業実践をして仮説を検証していく。授業実践を行う教科や領域の目標、そこでの考える力、表現する力について明らかにする。教材の開発・分析、教具の選定・工夫を行う。授業実践を提供し、全体で学び合いながら研究を進めていく。 ④研究の深化・発展・研究に必要な資料や参考文献を整える。自己研修や先進校視察などを積極的にを行い、資料提供や参加報告をして全体に還元していく。	
富士河口湖町教育委員会	小学校	精進小学校	主体的に情報を選択し、活用できる児童の育成	新聞活用による授業の工夫を通して	(1)新聞の活用方法を探る ・外部講師を招聘しての学習会、文献や資料による理論研究を通して新聞をどのように活用していくかを探る (2)新聞活用を取り入れた授業実践 ・学年の実態に合わせて、総合や各教科で新聞を活用した授業実践に取り組む (3)言語環境の整備 ・新聞記者を講師にした学習会や資料収集などにより、新聞について知る児童が日常的に新聞に親しむために、フタコ、ゴキウ、クマザシなどを取り組む。	NIE実践校
富士河口湖町教育委員会	小学校	富士豊茂小学校	生き生きと学び合う子ども	自分の考えを持ち、言葉で伝え合える子どもの育成をめざして	理論研究 ・各学年の発達段階に応じた「話し方」「聴き方」「話し合いの仕方」の指導のあり方 ・PISA型の読解力をどうつけるか 授業研究 ・各教科の授業における指導方法の工夫 ・「学習指導要領」に明記されている「各学年につけさせたい力」をもとに、言葉にこだわり、言葉を大切に学習活動を、子どもの実態や発達段階等を踏まえて、どう指導していくか。 言語環境の整備・推進に向けての実践研究	
富士河口湖町教育委員会	中学校	河口湖北中学校	人としての生き方を考え、行動していかうとする児童生徒の育成	地域とのつながりを意識した道徳授業の工夫を通して	1 道徳性に関する実態把握のための子ども・保護者向けアンケートを作成し、分析を通して、道徳性に関する実態や課題などを明らかにする。 2 全教育活動と道徳の時間との関連や小学校や地域との関連を考慮して道徳教育の年間指導計画と教育課程の見直しを行う。 3 心のノートや地域の人材・地域教材を活用した授業を工夫する。 4 先進校の視察や指導主事を招いた学習会などを行い、道徳教育についての理論研究を深める。 5 3校合同で生徒・保護者・地域の方々対象の「心の講演会」を企画し、道徳事業の推進に役立てる。 6 3校で連携して、道徳的実践の方向を探る。(挨拶・地域清掃・街角花壇など)	(県)小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業
富士河口湖町教育委員会	中学校	勝山中学校	より良い集団生活を通して、豊かな人間性・社会性を持った生徒の育成		本校の生徒は、地域の教育力にも支えられ比較的落ち着いた学校生活を送っている。しかし、細部に注目してみると適切な言葉遣いができない、集団よりも個人が優先してしまう、既存の友達関係からぬげだせない、忍耐力が乏しいなどの面が見受けられる。 そこで、今年度の研究主題を「より良い集団生活を通して、豊かな人間性・社会性を持った生徒の育成」とした。豊かな人間性・社会性とは、より良い人間関係を築くことであり、その場にあった会話ができた、思いやりの心を育てることが大切であると考えます。 今年度の研究において、日常の学級活動をはじめ、様々な行事などの活動に	



富士河口湖町教育委員会	中学校	西浜中学校	自ら学び、自ら表現し、進んで実行できる生徒の育成(3年次)	各教科の特性を活かした授業の工夫	前年度の継続研究とし、今年度は各教科の特性について担当教科の枠を超えて全職員で把握しながら、以下の要素のいずれかに焦点をあてた授業の工夫・創造・実践していく。また、研究会を通して全職員が互いに資質を高め合うと共に、「学び」による学校教育目標の達成を目指す。 ○授業に取り組む要素 授業の中に「活動」「協同」「表現の共有」を組み込む ○具体的には、次の4点を工夫しながら授業をデザインしていく 1) 導入の工夫・・・生徒が授業内容に興味・関心をもつ 2) 教材・教具の工夫・・・実物(ホンモノ)を持ち込むなどの工夫 3) 共に学ぶ場面の工夫・・・仲間同士の対話や発表の場面(教え合う、質問し合う)を取り入れる 4) 「つなげる」「交わり」の工夫・・・学んだことを現実の出来事やモノ、コトへとつなげていく	
富士河口湖町教育委員会	中学校	上九一色中学校	自ら学び、考え、主体的に行動することのできる生徒の育成	～『ことばの力』を育み、確かな学力の向上を図る～	(1) 生徒の自己管理能力の向上を図る手立てを考え、生活リズムを定着させるために学活や道徳で使用できる授業づくりと研究授業の実施に向けて取り組む。 (2) 生徒の学習状況と言語環境の実態を把握し、生徒の実態にあった具体的な支援体制を構築し、学力の向上につながる授業のあり方を探り、実践に結びつける。	
河口湖南中学校組合委員会	中学校	河口湖南中学校	自ら学び続ける生徒の育成	教科指導と学級集団づくりの一体化を目指して	(1) 特別活動(学級活動・生徒会活動・学校行事)で、主体的自治的な意識を高めるにはどのような手立てが必要であるかを学級集団づくりを通して研究する。 (2) 各教科で学びの意欲の向上に向けて、指導方法の工夫や評価方法の改善を行い、確かな学力の向上に向けて研究を深める。 ア 年間3回の授業研究を実施し、指導主事の指導・助言のもとで検証を行い研究を深める。 イ 夏季特別研修会を実施し、外部講師を招き、学級集団づくりのあり方について研究を深める。 ウ 教科別、学年別研究会で指摘された問題点や課題点について検討をす	
大月市教育委員会	小学校	笹子小学校	確かな学力の向上をめざして	基礎・基本を充実させるための支援と評価	(1) 国語科・算数科における「確かな学力」「基礎基本」の力のとらえ方を明確にする。 (2) 「確かな学力」の向上、「基礎基本」の定着のための、教材開発や学習指導方法についての研究を深める。 (3) 国語科・算数科における有効な評価・指導・支援についての研究を深める。 (4) 「国語力」「算数力」「確かな学力」「基礎基本」について指導主事や講師を招聘して学習する。	
大月市教育委員会	小学校	初狩小学校	学ぶ楽しさを実感できる授業の創造	伝え合う力を高める児童の育成を目指して	・「伝え合う力」について理論研究により、共通理解を図る。また、本校の「伝え合う力」を明確にする。 ・児童の授業や日常生活などの観察や意識調査を行い、本校の児童の実態を把握し、その変容を見る。 ・伝え合いの「場」の工夫をする。 学習形態 教師の支援 伝え合う視点 ・「伝え合う力」を高める教材開発やその指導の在り方について実践研究を行う。 ・指導と評価が一体化できるように目指し、授業研究を行う。	
大月市教育委員会	小学校	大月東小学校	「主体的に学び、生き生きと活動する子どもの育成」	「友達と関わりながら、学びを深める授業を通して」	○「学びを深める授業」について ○どのように関わりを持たせていくかについて -ペア学習・グループ学習について- ○子どもの見取りについて ○特別支援学級の授業について	
大月市教育委員会	小学校	大月西小学校	確かな学力の育成をめざして	「伝え合う力」の高まりを活用した授業の実践を通して	「学習活動において、児童の実態をふまえ、相互向上コミュニケーション場面の設定を工夫した授業を行い、基準の明らかな評価をして、『伝え合う力』を高め、活用することによって、確かな学力が身に付くであろう。」という研究仮説のもと、授業実践を公開し、研究会を開く。また、「話す・聞くふり返りカード」を用いた児童自身による評価を年間を通して複数回実施し、変容をとらえ、日常の授業に活かすための実践研究を行う。	
大月市教育委員会	小学校	強瀬小学校	子どもと教師の学びを中心とする授業の創造	「聴き合う」関係をめざして	・「聴き合う」関係を築いていくための方法を学習していく。 ・開かれた学校や教室をめざすために、教師と子ども、子ども同士のかかわりから、「聴き合う」関係づくりを築く手立てを探る。 ・学級における教師と子ども、及び子ども同士の中に「聴き合う」関係をつくり出すための教師の働きかけ(指導方法)について研究する。	
大月市教育委員会	小学校	浅利小学校	確かな学力を育てる学習活動の創造	生きる力としての「国語力」の育成	(1) 国語科授業の充実 ○国語科の「読むこと」領域を中心に授業研究を行い、音読・朗読を取り入れ、その上達のための読解や学習活動を充実させる。 (2) 日常的な言語活動の充実 ○生活の中で「豊かな言葉、豊かな表現」に出会う機会を多く取り入れる。○朝読書の時間を毎日確保し、多読を仕組む。○国語科の授業と関連して、読みを広げていく。○教師による読み聞かせ、児童相互による読み聞かせ、ブックウォークなどの読書体験を豊かにする。○俳句、百人一首、ことわざ、慣用句など日本古来の豊かな言語活動にふれさせる。○言語に関する教室掲示・校内掲示などを工夫し言語力を育む。 (3) 表現の意欲につながる感動ある取り組みを全ての教育活動において仕組む	
大月市教育委員会	小学校	畑倉小学校	認めあい、高めあひ、ともに学ぶ子どもをめざして	伝え合う場を効果的に設定した授業づくりを通して	・人間関係を形成する能力、効果的に発表・提示する能力、思考を高め学びを深める手 段としての「伝え合う力」を育てる。 ・伝え合う場を効果的に取り入れた授業を行なっていく事により、認めあい、高めあひ ともに学ぶ子どもの育成をめざしていく。 ・各学年ごとに、目標と日常の取り組みの手立てを考え取り組む。 ・学年を通しての教師の実践について研究する。	
大月市教育委員会	小学校	七保小学校	意欲的・主体的に取り組む児童の育成	お互いを認め合う言語環境づくり	・学習(授業)の場面において意欲的、主体的に取り組む児童の育成をめざし、子どもたちが互いに尊重し合い、認め合う言語活動を仕組むことで、豊かな言語環境を作る。 ・本校における言語環境の課題点を明らかにするため言語環境の実態調査をする。 ・実態調査を分析する。 ・分析結果を日常生活に生かす方法を探り、実践研究で生かす。	
大月市教育委員会	小学校	瀬戸小学校	自らの思いを自らの言葉で伝えられる児童の育成	国語科の学習「話すこと・聞くこと」を中心にして	(1) 国語科における「話す力・聞く力」の指導についての理論研究を行う。 (2) 児童の実態を把握し、その変容を確かめる。 (3) 「話す・聞く」領域の目標と内容を検討し、系統表を作成する。 (4) 伝え合う力を身につけさせるための言語環境づくりを行う。 (5) 伝え合う力を身につけさせるための効果的な指導法や教材・教具の工夫などについて実践的研究を行う。	
大月市教育委員会	小学校	上和田小学校	自ら考え・自ら学ぶ児童の育成	物語文を中心に読み取る力を高めることを目指して	「語彙力が乏しい」「短い文でも様子を想像しながら読めず、意図がつかめないことがある」といった児童の実態を改善するため、子ども達が本を好きになるための研究を進める。興味や関心を持って自主的に読書に親しんでいけるような取り組みを行い、本を読むことを通して、心豊かでたくましい子どもを育てていきたい。そのため次の方法で研究を進める。①授業実践(いろいろな本に関心を広げたり、意欲的に読書に親しんだりできるよう、国語科の学習を通して指導をする。特に「読むこと」の学習に重点を置き、読解力の基礎的な力の向上を目指す)②読書活動(朝読書・家庭での読書、絵本を中心に定期的・継続的に)③読書カードを使って簡単に振り返る④聞き読み(高学年が低学年に読む日と、教師が児童全員に読む日)⑤読書を活用した語彙力の向上⑥変容の見取り(読書カードの記入内容、図書室の本の貸し出し、国語科	
大月市教育委員会	小学校	下和田小学校	一人一人が生きていく授業の創造	～国語力向上をめざして～	(1) 国語科と国語科の目標の内容を検討し確認する。 (2) 学力テストの分析と児童の国語力について学年ごと実態把握を行う。 (3) 国語力が育つ言語環境について日常の取組を再検討する。 (4) 問題解決的な授業の具現化を図る。 (5) 指導案の形式については、基本のものを参考に各自の方法でやってみる。 昨年度 までの「座席表授業案」も積極的に取り入れる。	

大月市教育委員会	小学校	猿橋小学校	命の大切さを実感できる道徳教育	さまざまなふれあいを通して	(1)自己受容及び他者理解を育むための道徳の授業研究及び検証 (2)話し合い活動を中心とした、コミュニケーション能力の育成及び検証 (3)命の大切さを実感できる環境整備の研究及び検証 (4)質問紙(Q-Uテスト)などを用いた児童の実態把握	(国)命を大切にすることをはぐくむ教育の推進に関する研究
大月市教育委員会	小学校	馬沢小学校	算数科におけるわかる楽しい授業づくり	きめ細かな指導を通して	(1)わかる楽しい授業の学習過程、単元構成の工夫 (2)きめ細かな指導・少人数学習による授業改善 (3)算数と実生活が結びつくような「活用」の研究	
大月市教育委員会	小学校	宮谷小学校	『確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ児童の育成』	～算数科における基礎・基本の定着を図る指導法の研究を通して～	(1)子どもの実態把握を踏まえて、基礎・基本の定着を図る指導法や教材・教具の工夫を深める。 (2)子どもの思考を深め、課題を解決する学びの中で、お互いの思いや考えを交流し、学習の場の工夫をする。 (3)子どもが学ぶ意味を感じ、教師が指導に生かす評価を取り入れた授業を進める。 (4)日常の取り組みの充実を図る(朝学習・家庭学習・自学の推進)	
大月市教育委員会	小学校	梁川小学校	自ら課題を見つけそれを追究する子どもの育成	「豊かな国語力」と「問題を解決する力」を育てる指導法の研究	「豊かな国語力」にかかわって ①学校生活のあらゆる場面で、言語活動を充実させる取り組み ②「豊かな言語環境プログラム」の活用 ③知識・技能の定着と思考力・表現力の向上を図る授業の工夫 「問題を解決する力」にかかわって ①子どもを理解し実践に生かす取り組み ②子どもが興味関心をもつような切実な課題の設定と教材提示の仕方の工夫 ③問題解決のための単元構成と単元展開での教師の指導・支援の工夫 ④自分の考えを、意見交換する過程で、より高次のレベルに高める話し合いの場の工夫	
大月市教育委員会	中学校	大月第一中学校	自ら学ぶ生徒の育成	基礎・基本に習熟させるための指導法の改善と個に応じた授業展開の確立をめざして	①個に応じた授業展開をめざした教科・道徳・特別活動における授業研究、および基礎・基本に習熟させる指導法の研究 ②総合的な学習の時間、特にキャリア教育の研究 ③総合的な学習の時間の学習成果発表会実施に向けての研究 ④新聞を学校教育に取り入れ活用していくための研究 ⑤適切で実効性のあるフィードバックをめざした目標標準評価(絶対評価)についての研究 ⑥「教師力」の礎となるコンピュータ・リテラシーについての実践的研究	
大月市教育委員会	中学校	大月東中学校	豊かな学びから「確かな学力」の向上をめざして	0	①生徒一人一人の実態に応じた指導の一層の充実を図る a. 各種調査による生徒の実態分析 b. 「学びの時間」の運用 c. 学習チューター制度の活用 d. 学習規律の徹底 e. 家庭学習を含めた学習方法や学習の意義についての指導 ②教員の実践的教科指導力等の向上を図る a. 基礎的・基本的事項の明確化 b. 評価方法の工夫と指導への反映 c. 指導過程の工夫や教材、教具の工夫 d. ALTの活用と、TTの効果的運用 e. 授業の積極的公開 f. 外部指導者による研修会 ③実践研究の成果等の普及を図る a. 北都留教育研究協議	(国)学力向上拠点形成事業 11月2日
大月市教育委員会	中学校	七保中学校	「自ら学び行動する、心豊かな生徒の育成」	「～他者に対する思いやりの心をもたせ、人間関係を培う道徳教育の充実を目指して～」	本校では、継続して道徳教育を中心に校内研究会を行っている。道徳性適性検査や道徳教育アンケートを実施し、生徒の道徳性を知る客観的資料や事後検証の資料としてこれらを分析し、指導に生かしていく。また、この分析を踏まえて学級担任による道徳の授業研究や行ったり、講師を招聘しての研修会、学級担任以外の教師による道徳の授業の実践報告を行う予定である。さらに研究主題に迫るために道徳の授業の充実はもちろん、学校の全教育活動の、どういった場面で、どういった時に心豊かな生徒を育成しているかという点を洗い出し、さらに具体的に焦点化していく。 以上のように、道徳教育を推進し、道徳性発達の基本である自己受容、自己理解、自尊心を育てることを追究し、学校教育活動の中で生徒一人ひとりが活躍できる場や機会を増やし、より望ましい人間関係を築いていけるように職員一丸となって、実践していければと考え、また、昨年度は勤労生産学習推進校に指定されていたこと、空校作業の充実や、PTAとも連携し花いっぱい運動を行うなど、本校の学校教育目標のひとつである「勤労を尊び、進んで奉仕する生徒」の育成に重点的に取り組んだが、今年度も引き続き進めたい。	
大月市教育委員会	中学校	猿橋中学校	社会に生きる豊かな心を持った生徒の育成	生徒の実態をふまえ、生徒の姿容を目指した教育活動	集団(社会)の中で豊かな学校生活を送るために、生徒の道徳的な部分に着目し、経験的・客観的な評価をした上で、培いたい道徳性(価値項目)を絞り込み、理論的な背景を明確にしつつ実践を行う。	
大月市教育委員会	中学校	富浜中学校	自ら学び、自ら考える生徒の育成	～基礎・基本の定着をはかる授業の工夫を通して～	(1)基礎・基本の定着を図る指導の研究 (2)総合的な学習の時間(扇、富浜)の研究 ①生徒自ら課題を見つけ、その解決を図るための総合的な学習の時間(扇の時間)の実践研究 ②キャリア教育全体計画にもとづいて作成された各学年の総合的な学習の時間年間計画の実践・検証・改善 ③学習成果発表会の内容・方法の研究	
上野原市教育委員会	小学校	大目小学校	生き生きと学習する児童の育成	「聞く・話す」力高め指導を通して	①目的や場に応じて、相手の思いや考えを受け止め、わかろうとしながら聞く子ども ②目的や場に応じて、自分の思いや考えを相手に伝えるように話す子ども ③聞いてもらえる、話せるという安心感をもって学習に臨む子どもを、目指す児童像とし、本校のすべての子どもたちに、「聞く・話す」力の定着を図るための研究を行う。昨年度より引き続き、2年目の研究なので、実践研究を主として行っていく。 また、職員による「読み聞かせ(実施)」「聞く・かかると(構想)の育成を行って」「わくわくイングリッシュ小学校サポート事業」の指定校になり、英語活動の研究を進めていく。ALTとの興味ある授業作りや、教材教具の研究も進めていく。	
上野原市教育委員会	小学校	甲東小学校	意欲的に学ぶ児童の育成	体験的な英語活動の実践を通して		
上野原市教育委員会	小学校	四方津小学校	自ら学び、自ら考える児童の育成	「対話」による学びの深め合いを通して	(1)「対話」による学びの深め合いに関する概念の共通理解を図る。 (2)各ブロックごとに、研究主題、研究仮説に基づいて、目指すべき児童像を設定する。共通理解を図りながら、先生方一人一人がその児童像に迫るための授業改善を図る。 (3)目指すべき児童像に基づき、「日常の実践活動」について計画、実践を行う。日常的な実践活動に関する情報交流する時間を設け、基盤となる学級作りについて検討し、授業作りを生かす。	
上野原市教育委員会	小学校	沢松小学校	伝え合い、支え合い、学びを深める子どもの育成	対話・関わり合いを意識した国語と体育の授業づくり	(国語ブロック) ①豊かな言語環境づくりプログラムに基づく言語環境実態調査、活用の手引きの具体化 ②子どもたちの対話を大切に授業形態、教師の支援方法。 ③授業を改善していくための話型の提案。言語環境整備 (体育ブロック) ①体育における学ぶ力をもった子ども像と教師の支援方法。 ②健康体力づくり一校一実践運動(日常的な体育活動、体育的な行事の内容等の検討) ③関わり合い・支え合いと相互評価を意識した体育科の授業の工夫と検討。	

上野原市教育委員会	小学校	大鶴小学校	「心豊かに生き生きと学ぶ児童の育成をめざして」	学ぶ力を身につけさせるための算数科における指導の工夫	研究目標「算数科において、学ぶ力を高め、自分の考えを表現できる児童の育成を目指した指導方法を研究する」とし、「子どもの実態に応じた教材・指導の方法を工夫すれば、児童は自ら考え学ぶ力が身につくであろう。」と研究仮説を立てました。具体的な研究内容としては、①学ぶ力を高める教材・指導の工夫について②算数科における表現方法についてです。	
上野原市教育委員会	小学校	島田小学校	自ら学ぶ児童の育成をめざして	～基礎・基本を重視した授業の工夫(読解力の向上をめざして)～	三年間、国語力の基礎・基本の一つである音読に焦点を絞り、音読指導を通して国語力を高めるとともに表現力・コミュニケーション力を高めるべく研究を進めてきた。その成果を基に、今年度は、読解指導の研究をすることとした。本校の児童は、高学年において、固定した人間関係の中で、自己表現ののびのびとできにくい実態がみえる。低学年においても、自分をうまく表現できずにきつい言葉を言ってしまうたり、相手の思っていることを想像できずに、自分勝手な行動を取ってしまうたりして、けんかになってしまうこともあった。国語の学習の中でも、音読の表現を豊かにするための読解力が不足していることやその基礎となる語彙力の不足をあげた学年が多かった。	国体体験活動推進地域・推進校 ふれあい福祉・ボランティア活動推進事業
上野原市教育委員会	小学校	上野原小学校	目標をもち、生き生きと学ぶ子どもの育成	説明的文章の読解を通して国語力の向上	本校では、読む力を「確かな読み」＝正確に読むことと「豊かな読み」＝感じて読む・想像して読むことという二つの視点でとらえる。昨年度までは文学的文章に重きをおいて研究を進めてきたが、今年度は説明的文章の指導を通して研究を進め、「確かな読み」に焦点を当て読む力を高めるための授業づくりに取り組む。 説明的文章を読むときに使うさまざまな力(文章を要約する力、キーワードを見つける力、音読の力など)を確認し、他の文章にも転移できる基礎的な技能を子どもたち自身が把握できるような評価カードを作成する。そして、その評価カードを授業の中で活用することによって目標を達成しようという意識と児童の自己評価力の向上を図りたい。	
上野原市教育委員会	小学校	桐原小学校	「自ら学び、生き生きと活動する児童の育成」	思考の交流で深まる算数の学習	本年度は算数に教科を絞り、本校児童の実態を調査した上で、指導方法の改善や教材教具の工夫について検討し、研究を進めていきたい。そして、児童が既習の知識のうえに、意見の交流によって新たな知識を重ね、多くの考え方を学び、算数に対する自信を深め、意欲を持って取り組めるよう、よりよい授業を作っていきたい。 文部科学省の発表した学力到達度調査の結果をふまえて山梨県総合教育センターが立ち上げた『算数プロジェクト』について学び、その考え方や方法を参考にしていきたい。	
上野原市教育委員会	小学校	西原小学校	他との関わりを大切にしながら、進んで自分を表現する子どもの育成	コミュニケーション能力を育てる指導の工夫	研究仮説 考えを学ぶ児童の交流を図ることにより、より明確で深い知識を得ることができ ①「コミュニケーション能力」を身につけさせるための授業の工夫について研究する。国際交流集会・実践・総合の取り組み。 ②複式学級の仕組み・指導法等について学習する。 理論研究を行う。 外部講師を招聘する。	
上野原市教育委員会	小学校	秋山小学校	心身の健康作りにより、自ら取り組む子どもの育成	食教育と業間体育の取り組みを通して	(1)理論研究・食教育の意義・発達段階にあった指導内容・指導計画の見直し (2)授業実践・食の大切さを知り、食生活の改善に意欲の持てる授業の工夫 (3)業間体育の実践・運動の意義を意識できる活動の工夫 ・目標を持って取り組める活動の工夫 ・主体的な運営にするための工夫 ・日常の運動や遊びにつながる活動の工夫 (4)地域・家庭との連携・授業参観の活用・学校・学級・保健・保健・給食便りの活	平成20年度10月17日 全国へき地教育研究大会山梨大会公開校
上野原市教育委員会	中学校	平和中学校	確かな学力の向上を図る教育活動の創造	～豊かな学び合いができる授業の工夫・改善を図ることから～	本年度は、特に『授業づくり』に焦点をあてて、次の3本柱の内容で研究を推進していく予定である。 (1)授業をオープンにした研究 一人一人実践の考えで、研究主題にせまるための手だてを組み込んだ授業を可能にする限り相互に参観する。実践では、学習の場での認め合い・喜び合い・励まし合い・学び合い・支え合いのある授業実践を行う。 (2)学習形態、指導体制や教材・教具の工夫 学び合いやコミュニケーションを活発にするための手だてを工夫する。たとえば、小集団による話し合いや、調べ学習を取り入れたり、新しい教材の研究、外部講師の招聘、ICTの活用など生徒が考え方を相互にやりとりしやすい形態や体制を工夫する。 (3)その他 ①これまでの与える教育から、求める教育への変換。そのために、発問と教材研究を充実させる研究を深める。授業規律についての共通理解を深める。	
上野原市教育委員会	中学校	巖中学校	「学び合う関わりを重視した学習活動の創造」	～互いに学び合う集団作りに取り組む、確かな学力の向上を目指す～	1) 学年部会 ・学年生徒の実態把握、分析(第1回実態調査アンケート5月実施) ・課題点の洗い出し 2) 教科部会 ・授業における集団の活用について、形態、課題など効果的な展開を検討 ・授業研究を行い、学び合う集団の活用について検討 3) 研究推進部会 ・研究全体の計画、運営 ・学力・学習改善プロジェクトの推進	(国)学力調査の結果に基づく検証改善サイクルの確立に向けた実践研究
上野原市教育委員会	中学校	島田中学校	自ら学び、主体的に活動する生徒の育成	～意欲的に学習に取り組む生徒・学級集団を育てる指導法の工夫～	①学級満足尺度調査Q-U検査の実施・分析 ②①の分析を受けて教科・道徳・学級活動の授業の工夫 ③①の分析を受けて学級経営・学級指導(朝の会、帰りの会、清掃、給食指導)のあり方の工夫 ④生徒個々への指導の蓄積	
上野原市教育委員会	中学校	上野原中学校	「確かな学力」を身に付けさせる指導のあり方	学習意欲の喚起と学習内容の定着を図る指導の工夫	研究仮説として、「学習のきっかけや情報に満ちた環境を整えた上で、生活への関連づけを意識した指導や学習内容の定着を図る指導を展開すれば、生徒の学習意欲は高まり、確かな学力を育成することができよう」と設定。研究を進めるに当たっては、教科研究部会・教科外研究部会・特別研究部会の3部会を組織した。教科研究部会では、学習内容の定着と生活への関連づけを意識した教材・教具や指導法の研究を行う。教科外研究部会では、学習環境作りや学年協議会・学級活動の工夫についての研究を行う。また、特別研究部会に指導形態研究部を設け、IT指導、習熟度別学習の成果と課題を明らかにしてその充実に向けた提案を行う。その他、職員一人一人の実践の共有化	
上野原市教育委員会	中学校	桐原中学校	豊かな表現力とコミュニケーション力で、人と人との関わりを深められる生徒の育成	0	これから生徒たちが飛び込む新しい環境や大集団の中で生き生きと自分らしく生活していくために、豊かな表現力とコミュニケーション力を身につける機会を多く設定する。全校生徒が学年の垣根を越えた小グループで自分たちが設定した課題を解決する総合的な学習の時間をはじめ、各教科、学級活動、道徳、特別活動など学校生活のさまざまな場面において、全職員が研究主題にせまる実践を行い、互いに見せあって研修を深める。	
上野原市教育委員会	中学校	西原中学校	主体的に学ぶことのできる生徒の育成	確かな学力の向上を目指した授業の工夫	「分かる授業」や「できる授業」を展開していく中で自ら学びたいというやる気育てる授業を考え、工夫し、実践していく。 授業実践を通して、生徒が学習指導要領に示された基礎基本の確かな定着を目指し、自らの課題に応じて補充発展を目指して行かれるような方向性を示唆していく。 授業をお互いに見せあいが、研究を行う。	

上野原市教育委員会	中学校	秋山中学校	意欲的に学習する生徒の育成を目指して	生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を通して	①全体研究会:全体に関わる研究協議やブロックや学年から出されるものの検討、確認 ②ブロック別研究会 1)国語力向上ブロック:学力のベースとなる国語力向上に向けて、朝読書と漢字コンテスト及びその取り組みについての実践と評価、検討 2)個別指導支援ブロック:選択授業(積み重ね教科である数学、英語)における少人数個別指導の形態や指導方法の工夫、改善 3)学習支援ブロック:充実した家庭学習に向けて、その実態把握と学校での支援体制についての実践と修正、改善 ③学年別研究会・年度別の公開研究会	全国へき地教育研究山梨大会 平成20年10月16日、17日
小菅村教育委員会	小学校	小菅小学校	自ら学び、自ら考える児童の育成をめざして	児童が自ら成果を実感でき、学ぶ意欲を高める評価を通して	(1)評価についての理論研究 ①各教科の評価についての研究、および授業研究 ②国語科の「話す・聞く」領域のルーブリックの作成 (2)授業実践および検証 ①授業は一人一実践を行う。但し、指導主事に来ていただく授業は各ブロック一本とする。また、その授業については全体で指導案検討を行い、あとの指導案検討は各ブロックで行う。 ②仮説に基づいた評価の方法を取り入れ、実践を行う。 ③授業研究では、目標と評価の一体化が図れる評価方法を取り入れることを基本とする。 ④授業研究後、研究会を開き討議する。 (3)特別支援教育について(事例検討会) (4)総合的な学習の時間の共通理解 ①各学年の「すげのこの時間」の内容確認を職員全体で行う。 ②「すげのこの時間」の評価について職員全体で確認する。 (5)教育課程の見直し ①今年度の計画に沿って各教科で実践し、その結果を検証していく。 ②検証の結果、授業の内容、時数、評価規準、観点などのすべての分野において修正すべき点があれば、次年度の教育課程に生かしていく。 ③普段の授業を基本にする(教育課程への書き込みを日常的に行い、次年度に生かしていく)。 (6)あゆみの作成について 前年度の「あゆみ」をもとに、1学期の間に「あゆみ」の作成を行う。	
小菅村教育委員会	中学校	小菅中学校	生徒の生き生きと学習に取り組む児童の育成	学習活動における生徒の基礎課程の確立を目指して	学力分析検査を実施し、本校生徒の学習成果の実態を把握し、その結果に基づいて各教科ごとに基礎基本の充実を目指した取り組みを一年間おこなう。3学期に再度、学力分析検査を実施し、取り組みの結果について検証する。	
丹波村教育委員会	小学校	丹波小学校	自ら学び、生き生きと学習に取り組む児童の育成	自ら学び、生き生きと学習に取り組む児童の育成	1)小規模校の特性を生かした授業のあり方について (1)一人一人に応じた指導・支援について ①指導法の工夫・改善 ア「わかる喜び」を味わえる授業の工夫 イ 問題解決型の授業展開を研究する ウ 教材・教具の活用・地域素材の活用(総合的な学習の時間) ② 少人数学級の特徴を生かす授業 ア 指導過程に沿った表現する力の明確化 イ 一人一人に期待する姿の明確化 (2)自分の思いを表現することについて 2ふるとさ・小規模校の特性を生かす教育活動について 総合的な学習の時間・・・「丹波山村とわたし」	
丹波村教育委員会	中学校	丹波中学校	基礎学力の定着を目指して	～学びの意欲を高め、自ら考え、表現する力を育てる実践を通して～	今年度は、①学びの意欲・②考える力・③表現する力の3つの力を育てる実践を通して、主題に迫りたいと考えている。その方途として、①に関わっては、昨年度行ってきた評価方法の理論研究を踏まえて、1枚ポートフォリオ評価を導入し、適切な評価及び自己の学び(*「自己の学び」とは、自らの学習による内容を気づくことで、自ら学ぼうという意識を持つことである。)へとつなげることで学びの意欲を高めたいと考えている。②に関わっては、課題提示の仕方工夫したり、学習で得た知識を身近な事象と関連させて考えさせるなど思考する場面を設定し考える力を高めたいと考えている。③に関わっては、1枚ポートフォリオの中で、自らの思考を文章によって表現する活動を通して、考えたことを自	
国立	小学校	山梨大学教育人間科学部附属小学校	夢・未来を拓く子どもたち	『学びへのこだわり』が育つ創造的な学習を目指して	変化する激しい社会の中では、価値観が多様化するなどして、必ずしも子どもたちが「夢」を抱くことができる時代とは言えなくなっている。社会の諸問題に直面することで、「夢」を理想として、将来を見出す子どもに、不安や無力感を感じる子どもたちが増えてきている。そこで、厳しさが予想される世の中であっても、これからの世の中を生きる子どもたちに、「夢」を抱かせ、その実現に向けて生きる原動力としての目標を持たせたいと願っている。したがって、子どもたちに、自分の生活や学習に対して「こだわり」を持たせ、創造的な学習の中で新しい価値や情報を意欲的に学ぼうとする学習のあり方を探求する。教科、道徳、総合的な学習の時間が連携して、「夢」を抱き、未来を拓くために、内容的に学習にかかわる子どもを育成するための指導方法の研究を行い、教科の特性と児童の発達段階における、そのプロセスの有効性を検証する。	平成19年11月9日(金)初等教育公開研究会
国立	中学校	山梨大学教育人間科学部附属中学校	かわりを見いだす活動を重視した授業を創造する	学習内容の関連性に焦点をあてた教材研究と授業づくり	各教科の学習内容の関連性に着目し、それを見いだす活動を重視した授業実践を行おうという研究です。かわりという生徒同士や教師と生徒という人とのかわりがすく思い浮かびますが、それに加え、教材に潜んでいる関係を生徒に見いださせ、頭の中に整理し、構造化してしまいうことが出来るような授業づくりをしていこうという実践です。11月10日には公開研究会を行います。	
県立	高等学校	北杜高等学校	モチベーションを高めるアクション(授業改善の取り組み)	学ぶ喜び・学ぶ感動・学ぶ楽しさの追求	本校の「北の杜3つの重点課題」の一つである「学びの創造」達成のため、個人が授業改善を進めて、生徒が学ぶ喜び・学ぶ感動・学ぶ楽しさを感じる授業を展開し、生徒の学習の質を深めることを目指す。個々の教員が設定する目標は、各教科で設定する目標に基づいて設定され、原則として教員評価制度の「教科指導」および「教科外指導」の目標と一致するものとしている。中間期に授業アンケートを個人で実施し、その結果を踏まえて改善策を講じ、年度末に再度アンケートを実施し検証する。実施計画・最終報告は係がとりまとめ共有し、相互の参考にする。	
県立	高等学校	韮崎高等学校	自ら考えて行動できる生徒の育成	物事を論理的・客観的に捉えて考え、表現する力の育成	テーマに沿って、各教科はもとより、生徒指導・進路指導・保健環境・生徒会・教養・企画研究の各分掌も加わり、研究を進める。事前調査を実施し、課題を見いだした上で、その解決に向けた工夫や計画を立案し、実践する。最後に、目標とした生徒の育成や能力の涵養が図れたかを検証し、成果を研究紀要にまとめる。	
県立	高等学校	韮崎工業高等学校	生徒ひとり一人の学力の向上を目指す		昨年度までの3年間取り組んだ「知的・バイオニア推進事業」の継続として、本年度は「学力向上プロジェクト」として、引き続き生徒ひとり一人の学力向上を目指す。毎時の授業を大切にすることを大前提として、早朝・放課後の課外や(土)(日)の課外においても進学・資格取得などへの対応を行う。また、朝の読書の効果的な定着と有効活用として、各学年が毎朝取り組む。特に、2学年は国語力向上のため、漢字検定を見据えた取り組み、3年生は就職問題集を使った取り組みを昨年同様に行う。教える側の教師も校内向けの授業公開を2回行い、自らのスキルアップに取り組む。	中等教育研究会 11月10日
県立	高等学校	甲府第一高等学校	分かる授業、個に応じた指導による「確かな学力」の育成	考えさせる授業・教材の開発をめざして	国語科 国語力向上のための「知識」の習得と「読む力」の育成 地歴・公民科 「学び」に対する関心意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導法の研究 数学科 自主的に考えさせる場面に授業に取り込んだ授業の開発 理科 科学的な考え方・見方を養い、学習意欲を引き出す指導の研究 保健体育科 自らの意思で、行動選択することを考えさせる指導の研究 家庭科 食生活改善研究活動 英語科 SELHIを通して実践してきた英語の指導内容・方法の継続的研究 情報科 情報を正しく捉え、正しく扱うことを主眼に置いて指導内容の研究	
県立	高等学校	甲府西高等学校	自ら学び自ら考える65分授業の追求		生徒の興味関心を高め主体的な学習を促す65分授業のさらなる工夫を追求するため、以下の項目について研究を進める。 1 より実効性あるシラバスの追究 2 教師の授業力を高める試み 3 生徒の国語力を高める授業の改善	

県立	高等学校	甲府南高等学校	全県一学区制による入学生学習、生活等に関する調査研究	特になし。	新しい高校入試制度(全県一学区)のもとで本校に入学した生徒について、学習への取り組み状況や成績の推移、部活動や生徒会活動、ホームルーム活動等への取り組み状況、学校生活や家庭生活の様子などについて、学級担任、教科担任、学年と連携して総合的に調査研究し、よりよい教育や生徒支援のあり方について考察する。	(国)スーパーサイエンスハイスクール
県立	高等学校	甲府東高等学校	すべての生徒が基礎基本を身につけ、自ら考え、自ら学ぶための指導の研究	一思考力・判断力などの「学力」の向上を目指した授業の改善と指導の工夫	①シラバスの効果的活用を目指した工夫改善 ②単元・教材の構造分析による到達目標、評価目標の設定と工夫改善 ③教職員相互の授業見学・参観の活性化による授業改善のための工夫改善 ④「生徒による授業評価」の内容・方法の工夫改善と、「生徒による授業評価」を利用した授業の工夫改善 ⑤周辺中学校での出前授業を通じた授業実践力の向上を図るための工夫改善 ⑥生徒の学習スキルを向上させるための学習ガイダンスや学習強化週間の実施と工夫改善 ⑦総合的な学習の時間やLHRと授業との有機的な連携による「探求的学習」の追究	(国)ふれあい福祉・ボランティア活動推進事業
県立	高等学校	甲府工業高等学校	「わかる授業」への取り組み		今年度は各教科代表・各学科代表をメインに「研究委員会」を構成しました。年数回開き、工業高校の専門教科に必要な最低限の学力を身につけさせる工夫を探るため、次のような項目を重点的に調査・研究を行う予定です。 1)中学校の使用教科書・指導書等を調査するなかで、本校での授業レベルとの差はあるのか、あるとすれば、どのような形で補充していくか。 2)本校へ入学してきた生徒(1年)の全国的な学力レベルを調査するため、学力テストを実施し、学力が不足している部分を把握する。 3)生徒の生活実態調査を実施するなかで、個々の学習時間や学習内容を把握すると同時に授業への期待(生徒から見た)を調査・研究する。 以上を研究委員会から一つのデータとして流し、職員へ理解・協力してもらいながら、1年間の研究活動を行ってもらう。 研究のまとめは、各教科と各学科ごとにおいて研究紀要の作成を行う予定です。	
県立	高等学校	甲府城西高等学校	命の大切さを学ぶ体験活動		文部科学省指定の「命の大切さを学ぶ体験活動」研究指定校。命の大切さを学ばせる体験として授業や学校行事の中で行っている活動を見直したり、実施方法を工夫したりして、よりよい指導法を開発する。また、評価についても研究する。	豊かな体験活動推進事業 ふれあい福祉・ボランティア活動推進校
県立	高等学校	甲府昭和高等学校	学力向上のための指導	進路実現を図るためのプロジェクト	①教員研修の充実—先進校視察・駿台教育研究所の教員セミナーへの参加・アドバイザースタッフの招聘などを通じて、授業力の向上を図る。 ②学習支援—朝学習・小テスト・学習会の実施・土曜支援・高大連携講座の実施・家庭学習時間の調査を行う。	
県立	高等学校	農林高等学校	研究主題1「本校での3年間をとおして育まれる生徒のキャリア意識の形成について」研究主題2「生徒の国語力向上への取り組みについて」	研究主題1について ①生徒の望ましい職業観や勤労観を育成すること(インターンシップ、デュアルシステム等)②職業に関する知識や技術を身に付けさせること ③自己の個性を理解した上での主体的進路選択能力・態度を育成すること ①から③の目標を達成するために必要な「生徒支援の効果的な方法」について研究する活動」を、校内に別に設けた研究組織にて実施する。 研究主題2について 「読むこと・書くこと」「話すこと・聞くこと」についての本校に今ある様々な取り組み、新たな取り組みによって、生徒のなお一層の国語力の向上を図る。		
県立	高等学校	巨摩高等学校	国語力向上の実践～小論文指導を通じた取組について～		①各教科の教育活動を通じた表現力・コミュニケーション能力の育成を図る。 ②生徒の興味・関心分野における情報収集能力を向上させる。 ③生徒の表現力・コミュニケーション能力の実態を把握する。 ④教員の小論文及び小論文指導に関する知識・技能を高める。	
県立	高等学校	白根高等学校	基礎基本をどう定着させ、発展させるか		国語：文法の定着 地歴公民：時事問題を把握させ、自ら学ぶ態度を養う 数学：授業改善と基礎基本の定着 理科：効果的な課題の研究 保健体育：基礎的運動能力の向上を図るためにおも自主的な取り組みをさせる 芸術：授業の成果(作品等)を発表する場を設定し、生徒の授業への意欲、基礎力の向上を図る 英語：発信型の授業や活動を通して英語力の向上を図る 家庭：体験的な学習をいかに授業作り 情報：時事問題を題材とした自己責任、自己決断の育成	
県立	高等学校	増穂商業高等学校	学習内容の定着を図り、自ら学び自ら考える力を育成する授業の改善に関する研究		*各教科における基礎・基本的な内容とは何か。教える内容を精選し(教えずなくてもよい内容まで教えていないか)、教えるしなければならない内容についてはいかに定着させるか…そのための授業の工夫・方策について *「授業に集中させる」「興味・関心を持たせる」「理解力を深めさせる」…そのための授業の工夫・方策について	
県立	高等学校	市川高等学校	達成感をもたらす授業展開による確かな学力の育成		(1)生徒に達成感をもたらす授業の推進 生徒が自ら学ぶ意欲を喚起される授業の工夫と教材のあり方 (2)生徒の基本的な生活習慣の確立 基本的な生活習慣、生活態度の育成 (3)家庭学習習慣の確立 自主的な家庭学習の習慣化のための、個に応じた学習課題の研究	英語力向上のための推進事業 (GTECを用いて)
県立	高等学校	峡南高等学校	分かる授業の展開と基礎的、基本的学力の定着		基礎的、基本的な事項を精選し、身につけさせる指導を研究する。お互いに授業を公開しながら、楽しく、授業に集中させる指導のあり方を工夫する。シラバスの活用方法を検討する。	高等学校・中学校「人間としての在り方・生き方を考える」実践研究事業(文科省～H20)、サイエンス・パートナーシップ・
県立	高等学校	身延高等学校	観点別評価割合導入の具体的な実践		評価規準に基づいた評価計画を立て、指導と評価を行う。ペーパーテストには観点を明記して評価する。評価結果から評価規準の目標達成度を把握し、事後指導や指導・評価の方法・あり方を振り返る。	
県立	高等学校	石和高等学校	基礎学力の充実を図る。	家庭学習時間確保の工夫を工夫し、家庭学習習慣の定着を図る。	本校は部活動が盛んなこともあり、家庭学習時間が1～2時間程度である。自学自習の習慣が身につけていない傾向があり、具体的な課題が必要である。主要3科目を中心に適切な課題を工夫し、家庭学習習慣の定着を図る 今年度は夏休み中の課外も校内講師が担当する。生徒の実態に即して基礎学力の定着を図っていく。	
県立	高等学校	山梨園芸高等学校	自ら学ぶ意欲を育むための授業教材の研究		現在の複雑化した世の中を生き抜くためには、様々な知識、技術が要求される。それに対応するには、基礎基本を身につけることはもちろんであるが、学ぶ意欲も必要である。学びの苦手な生徒に対し、学びの楽しさを体験させ、学ぶ意欲を喚起させたい。そのためのテキストや教材の開発に各教科とも一人一科目を目標に取り組み、まず、教材を検討、選定し、教材を使って授業を行う。授業について生徒にアンケート等をとり教材が適切であったか評価、検討し、問題点を把握し改善策を模索する。	
県立	高等学校	日川高等学校	生徒一人一人の進路実現のための学力向上の指導法、及び指導体制の在り方の研究		生徒一人一人の進路実現を図るために必要な基礎学力を的確に捉え、それを定着させるための指導のあり方を確立することを目的として研究を進める。根幹となる指導の改善、指導形態、指導体制、指導目標と評価の関係、進路ガイダンスのあり方、優れた能力を有する生徒に対する発展的な学習指導等について、研究を深めていく。また、教育方針である文武両道をいかに達成させるかという観点から適切な部活動のあり方を考えていきたい。一昨年度まで文科省から指定を受けていた「学力向上フロンティア事業」で推進してきたことを更に深化発展させることを通じて、校内の学習指導体制を確かなものにし、単位制高校として更に飛躍していくことを目指す。	
県立	高等学校	山梨高等学校	1 国語力の向上について 2 家庭学習習慣の確立について	「各教科における国語力向上への取り組み方法の研究」	・各教科で国語力が低下している状況を話し合い、教科を教えるに当たっての不都合な点をふまえて、その解消方法を探っていく ・8月に中間報告 ・11月に全職員による研修会で各教科の発表会 ・2年間かけて研究する	

県立	高等学校	塩山高等学校	生徒に「自ら学び、理解し、発表する力と表現する力」をつける授業の実践研究		生徒一人ひとりの習熟度に応じた密度の濃い指導の実践を継続する中で、確かな学力を定着させ、自己実現を図るための教育実践を進める。	
県立	高等学校	都留高等学校	授業の充実をはかる	昨年度までの「知のバイオニア」事業を引き継いだ「個に応じたわかる授業」を目指し、さらなる追求を目指す		NIE(教育に新聞を)研究指定校
県立	高等学校	上野原高等学校	観点別評価規準の作成		平成18年度は、「関心・意欲・態度」の具体的評価方法を研究し、生徒の姿(学習行動)を組み込んだ「関心・意欲・態度」の評価規準を各教科任意の1単元で作成した。今年度は全教科・全単元において生徒の姿(学習行動)を組み込んだ観点別評価規準の作成を推進していくために研究を進めていく。	(国)(県)国語力向上実践事業
県立	高等学校	谷村工業高等学校	基礎的・基本的学力を定着させるために分ける授業の工夫改善を行い、一人ひとりを生かすことができる学習指導法を研究する		基本的な生活習慣を確立させ、学校での授業に意欲的に取り組む姿勢を養わせる。反復学習や各種検定に積極的に取り組ませる中で、一人ひとりに対し、きめ細かい指導を行っていく。また、生徒の実態に即して指導や課外を工夫し、主体的な学習態度を育成する。	(県)平成19、20年度高等学校生徒指導研究推進校
県立	高等学校	谷村工業高等学校定時制	社会への適応力を育成する総合的な学習の時間への取り組み		昨年度の取り組みを一段階進め、本年度は各教科の授業の成果をもとに、新聞記事・論説・コラムなどを適宜使用し、作文作業を行うことにより、本校生徒が自ら考え、行動していくための自主性や発言等を通して社会性を養うことを目標とする取り組みを行う。	
県立	高等学校	桂高等学校	「命の大切さの学習と連携させた国語力の向上」		昨年度までの文部科学省指定「命の大切さを学ぶ体験活動」(朝の読み聞かせ、修学旅行記の作成等)を継承、発展させた活動の中に、読むこと書くこと話すことなどを意識的に取り入れることで国語力の向上を図る。	
県立	高等学校	吉田高等学校	総合的な学習の時間を活用しての国語力育成	総合的な学習の時間の年間計画の検討	総合的な学習の時間の計画と実施形態の中で、国語力育成を意識して計画的に国語力を育成する。1年次は、スピーチ・インタビュー、2年次は小論文とプレゼンテーションに取り組む。また、3年間を通じて、多くの講演・外部講師による講義を聴く機会をもつ。また、次年度以降に向けて、総合的な学習の時間の年間計画・実施形態を検討する。	
県立	高等学校	富士北稜高等学校	規範意識の向上と基礎的・基本的な学力の定着を図る		富士北稜高校の生徒として自信と誇りを持って学校生活を送るための指導として、各教科・年次・分掌などのあらゆる教育活動を通して、規範意識の向上をはかる。また、授業は学校生活の原点として、基礎的・基本的な学力の定着をはかるとともに、指導方法の工夫や改善を行う。	交通安全教育実践地域事業
県立	高等学校	富士河口湖高等学校	人としての生き方を考え、行動してこうとする児童生徒の育成を目指して	道徳の授業を軸に地域と連携した道徳教育活動の工夫	本年度の手だてとして次の3項目である。 1. 道徳の授業を軸にした道徳教育を推進する。 ・児童・保護者の実態調査から、授業を組み立て、道徳性を養う工夫をする。 ・7月には授業公開をし、保護者と共に取り組む場とする。 ・授業研究をし、小中で参観したり、研究会を開いたりして研究を深める。 2. 「命を大切に、他者を思いやる子どもの育成」という視点から、自分を見	
県立	高等学校	中央高等学校(定時制)	一人ひとりを生かす学習指導に努める/自主・自律の精神の育成		一人ひとりを生かす学習指導のために、昨年に続き校内研究授業月間を前後期一回ずつ設定して、全先生方の参加の下授業研究を行う。参観のあと、参観記録を書いてもらい、閲覧し合い研究を深める。今年度は、より実りのあるものにするために、保護者にも公開し、意見・感想を求めることにする。	
県立	高等学校	ひばりが丘高等学校	個性・創造性・自律心に富む心豊かな人づくりのための学校づくりの研究	一人一人の生徒の可能性を引き出すための教育	本校において、個性・創造性・自律心に富む心豊かな人づくりのためには、生徒の実態に即した本校独自の教育環境の整備が必要不可欠である。生徒の自律心を育み、落ち着いた学校生活が送れるような授業環境と学校行事などの整備について研究する。	
市立	高等学校	甲府商業高等学校	自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力の育成		○一般社会に適應できる基礎学力を身につけさせるための指導法の研究 ○自ら学ぶ意欲の育成を図る授業の工夫	
市立	高等学校	大月短期大学附属高等学校	自ら学ぶ意欲と、社会の変化に対応できる能力の育成に関する研究		① 生徒の興味や関心、また能力などの実態を把握する調査・研究。 ② ①の調査・研究の成果を生かした教育課程および各教科の指導方法、またその評価方法等に関する研究。 ③ 地域社会が本校に求める理想的あり方に関する実態把握と検討。さらにその検討結果に基づき、地域に根ざした学校を構築するための具体的方策の策定。 ④ 一般社会の若者への期待やニーズに関する正確な把握と、その分析結果を生かしたキャリア教育の推進と、サーチの展開およびインターシップの実施	
県立	特支学校	盲学校	視覚障害教育における専門性の向上	特別支援学校として求められること	本校では、平成18年度までの3年間で「特別支援教育への移行を検討する」というテーマのもと、県内唯一の視覚障害教育の専門機関として必要なことは何か検討してきた。その結果、本当に必要な専門性とは教科指導につなげられるような特殊性ではないだろうかとなった。さらに、昨年の校内研究で取り組んできた内容のうち、各学部の研究内容が幼児児童生徒の実態に即した内容となっており、今後の指導に生かすことができるものであった。 今年度の校内研究では、これまで以上に「専門性」について追求していきたいと思っている。その一つとして、昨年まで行っていた視覚障害基礎研究会から今年度は視覚障害教育研修会と変更し、これまで以上に高い専門性を身につけられる内容となっている。 また、各教科における研究内容、それぞれの学部の対象者に即した内容については、本テーマでの3年次にあたる。	
県立	特支学校	ろう学校	確かな言語力を育てるために		教育課程における各教科等においても言語力なしには学習は成立しない。従って言語力はすべての教科で重視し、その指導も目標達成のための指導が行わなければならない。よって、日常生活を基本とし、全教科・領域にわたり言語力の育成を図る。 具体的には幼稚部では、「豊かな心を育むために」、小学部では「説明文を読み取る力の育成」中学部では「自立活動を通しての国語力の育成」、高等部では「思考力を高める支援の在り方」、寄宿舎では「相手の立場や状況を考えて気持ちの伝え方」をテーマに研究を進めていく。講師招聘については、指導主事招聘を寄宿舎で、筑波技術大学准教授長南浩人先生を年間3回招聘し、クラスを限定する中で通年の指導をお願いする。また、手話研修会も聴覚障害者	
県立	特支学校	甲府支援学校	一人一人が輝く授業をめざして	児童生徒の自立をめざし、よりよい支援のあり方をさぐる	・授業研究を通してよりよい指導内容、支援方法を探る。 ・課題をもち、事例研究する中で、実践力を高める。 ・「計画―実践―評価」のサイクルを確立し、よりよい支援をめざす。研究目標に掲げた7つのテーマ別研究グループで研究を進める。また、一人1事例のレポートを作成し、サーバーに保管して情報交換に役立てる。	

県立	特支学校	あけぼの支援学校	個々の児童生徒の実態に応じたより良い教育的支援のあり方を探る	学習指導に焦点を当てて	一人一人の実態に応じた学習指導を内容面や指導体制面等から、その児童生徒に関わる教師集団として吟味し、授業作りをしていくことが重要であり、そこを深めていきたいと考えた。そこで、今年度の校内研究においては、より良い教育的支援の観点から学習指導に焦点を当て、学部・パートごとに具体的なテーマを設定して研究に取り組んでいる。小学部は3パートに分かれ、「集団授業における内容や指導の工夫」「個別学習を中心とした指導について考える」「コミュニケーションに関する実態把握と指導法の工夫」をテーマに掲げている。中学部では各教師が担当する授業を報告し、「各生徒の実態を多面的にとらえること」と「授業改善のアイデアやヒント」について論議している。高等部は2パートに分かれ、「個別の課題学習における内容や指導法の工夫」「卒業後の生活を見据	公開研究会 平成20年2月2日(土)
県立	特支学校	わかば支援学校	「教育課程の検討～実践を柱とした特色ある学校づくりをめざして」	各研究グループで設定することになっている。 [小学部]一人一人の児童が力を発揮し、いきいきと取り組む一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援のために	小学部、中学部、高等部、寄宿舎、保健室の5グループごとに研究を進める。各グループが、目の前にいる子どもたちの、日常の姿を的確に把握し、現状を捉え、児童生徒の実態に即した副主題を掲げて取り組む。「子どもから始まり、子どもに返る」実践を中心とした研究を大切にしてい。日々の教育活動の中で明らかになる課題を、新たな視点でとらえ、指導目標及び指導内容・方法を研究し、教育課程を検討する。よりよい教育課程のための研究を実施することにより、教師自らの資質の向上、学校としての教育力の向上、本校の教育方針の実施につなげていきたいと考えている。	
県立	特支学校	わかば支援学校ふじかわ分校	個々の実態に即した教育課程をめぐらして	一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援のために	本校の教育目標である「たくましい力 ゆたかな心」を養うことを目指し、一人ひとりがいきいきと活動できる学校生活を実現するために、日々の実践の中で、個々の教育的ニーズに応じた指導目標を設定し、指導内容や方法、支援の在り方を探り、明らかにしていくことが必要であると考え、研究主題を設定した。実践研究を通して、一人ひとりの実態に即した指導内容や支援等について検討することにより、教育課程編成の指針となることを研究の目的とする。研究の方法としては、学部毎にそれぞれのテーマを設定し、研究を進める。(小学部「広汎性発達障害を持つ児童の興味がある題材を求めて」、中学部「一人ひとりが生き生きと取り組める劇あそびの授業について」) 全体研究では、研究の経過や成果を発表、意見交換し、共通理解を図ることとする。また、研究の経	(国)学力向上拠点形成事業(確かな学力育成のための実践研究事業)
県立	特支学校	やまびこ支援学校	個々のニーズに応えるための支援の充実をめざして	小学部・知肢併置校に向けて、児童の実態把握と共通の視点に基づいた支援のあり方 中学部：自立活動の視点から	小学部：これまでの指導内容について整理し、「国語・算数(自立活動)」を取り上げて事例研究を進める。中学部では「日常生活の指導」に焦点をあて、生徒の実態を把握しつつ課題解決のための支援を「自立活動」の視点からもあわせて考え、よりきめ細やかな指導とは何かを検討する。高等部では主に「作業学習」の授業において生徒一人ひとりに適切な支援を行っていくための手だてを見いだしていく。寄宿舎においては支援の継続性や家庭、学部との連携のあり方について検討を深めていく。今後、地域のセンター校としても、本校全職員が共通の視点です	
県立	特支学校	富士見支援学校	子どもの心を育てる支援のあり方	センター的機能の発揮をめざして	本校は県立中央病院に加療中の児童生徒に、小中学校に準ずる教育を行っている。本校の児童生徒は、病気を抱えての生活が続いた為、学習意欲が低下しており、友人関係を持ちにくくったり新しい場面に緊張や不安を感じたりする者が多い。また、病気への不安から、将来への夢を見い出せずに学ぶことに苦痛を感じている場合が多い。本校では昨年度から「学校教育活動全般において児童生徒の心に響く授業を実践することによって、児童生徒の豊かな心を育て、学びへの意欲を高めることができるであろう」と研究仮説を立て、授業研究を中心に研究を進めている。授業内容や指導方法などの基礎研究に加え、実践研究では、各自授業実践を積み重ね、その際授業における動きかけとそれによる変化の記録を綿密にとっていくことを確認した。病弱教育のセンター的機能の一環として他県の情報収集を行う中で、Q&A形式の授業実践集をまと	
県立	特支学校	富士見支援学校旭分校	子どもの発達を支える支援のあり方	～子どもをとりまく環境と心理的発達の視点から支援方法を考える～	・本校の子ども達にとっての大きな課題は対人関係を中心とした心理的発達の部分で あることから、実際の子どもの事例をもとに心理的発達と発達課題を学び個々に応じた支援を行う。 ・家族関係を含めた生育歴や子どもをとりまく環境を知ることで、子どもの捉え方・かかわり方について考える。 ・月2回の校内研修を行い、事例研究をとおして子どもの発達課題を共通理解し、日々の教育活動に生かしていく。	
県立	特支学校	ふじざくら支援学校	教育集団としての専門性の向上をめざして	なし	昨年度より2年間の期間を予定して9つのグループに分かれて研究を進めています。グループは「自閉症の指導」「発達障害の指導」「国語・算数の指導」「自立活動の指導」「日常生活の指導」「体育・運動・動作」「視覚・聴覚」「進路指導」「医療的ケア」です。それぞれ小学部・中学部・高等部からメンバーが出ていて学部にとらわれることなく検討・研究を進めています。それぞれのグループを統一しコーディネートする役割を今年度は研究・研修部が担っています。具体的な方法は現在検討中です。研究方法としては文献研究・事例研究・授業研究などです。年12回のグループ研究以外に全体研究を年3回行い、全体に向けての情報交換・発表の場も設定しています。またこのグループが主となって6月23日の教育相談会に対応しています。今年度は研究2年目、昨年度の研究を	
県立	特支学校	かえで支援学校	「わかる・できる・そだつ」授業の創造をめざして	「一歩近づける授業作り」(小学部) 「作業学習の授業作り」(中	毎日の授業作りに立ち回り、各学部の実情に応じた「わかる・できる・そだつ」授業とはなにかを考える。そして「PLAN・DO・CHECK・ACTION」の手順に則り、授業の見直しを行う。年度末には各学部ごとに実践報告を行い、授業の工夫などを「実践事例集(仮題)」としてまとめる。	
国立	特支学校	山梨大学教育人間科学部附属特別支援学校	よりよく生きる豊かな生活のためのコミュニケーション	児童生徒の発信力・受信力を育むことに視点をあてた支援を考える	コミュニケーションを「個人と環境との相互作用」とあると言う考えに基づいて、児童生徒の取り巻く環境の一部である教師の支援に視点をあてて研究を進めてきた。「よりよく生きる 豊かな生活」のために、「取り巻く環境」と「児童生徒の力」を育むことは相互に関連している内容である。この双方が高まっていくことで、児童生徒はよりよく生き、豊かな生活を送ることができると考えた。過去2年間の研究では、児童生徒の「取り巻く環境」について深めてきた。本年度は、よりよく生きるの豊かな生活「のためのもう一方である「児童生徒の力」とりわけ、「発信力・受信力」に視点をあてて、本年度より改訂した「きりの子プラン」(個別の教育支援計画並びに個別の指導計画)を活用し、その力を育むための支援を	